

No. 52-21

計画申請	昭和52年7月20日国協(総計)第7-8/4号
計画承認	昭和52年8月5日'52通第1144号
担当	資源調査課 氏名 山本正弘

プロジェクト名 コスタリカ共和国レベタンソン河 パクアレ河水力発電開発計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査用旅費	現地調査 国内設計作業 報告書印刷	今回で完了

現地調査期間 自昭和52年8月15日
至昭和52年9月28日

報告書説明期間 自昭和53年2月24日
至昭和53年3月5日

調査業務完了日 昭和53年3月31日

総支出経費 60,077,792

1. 調査目的・内容及び結果

<p>(1) 調査目的</p> <p>コスタリカ共和国政府の要請に基づき同国首都サンホセ市の東約 50 Km に位置し、カリブ海に流入するレベタンソン河及びパクアレ河両水系の流域変異によるグマヤボ発電計画を策定し、併せてパクアレ河中流部において、両河川の水利用を図るシキールス発電計画についても予備的検討を行った。</p> <p>(2) 調査内容</p> <p>(イ) グマヤボ発電計画(F/S)については、①水文解析、②地質状況の解析、③設備収入計画、④最適地点の選定、⑤工事用材料の選定、⑥送電設備の予備検討、⑦概算工事費、⑧経済性の検討。</p> <p>(ロ) シキールス発電計画(Pre F/S)については、①発電計画の検討、②地質状況の解析、③サイトの選定、④主要橋梁物の概略設計</p> <p>(ハ) 関連資料の収集</p>	<p>(3) 調査結果</p> <p>(イ) グマヤボ発電計画については</p> <p>電力需要の伸びに応じて 198x 年末に電力系統に投入予定となっているコロヒン計画に引続いて 1987 年までに新規電源を開発しなければならぬと判断され、その新規電源として、本計画は技術的及び経済的にフィージブルと判明した。(規模 180 MW)</p> <p>(ロ) シキールス発電計画については</p> <p>上記計画に続いて新規開発する水力計画の一つとして本計画は有望であり、将来 F/S を行うために地質及び建設材料の調査を行う価値がある。貯水池満水位を標高 250m、ダム高 200m と計画できる可能性があり、その場合、発電所位置はダム直下が適切と判断される。(規模 310 MW)</p> <p>(4) コンサルタント名 電源開発(株)</p>
--	---

2. 調査日程

日順	月日	曜日	日 程	宿 泊 地	根拠地番号別		調 査 内 容
					日 当	日 当	
1	8月15日	月	東 京 → サンフランシスコ	サンフランシスコ	指	指	
2	16	火	サンフランシスコ → サンホセ	サンホセ	乙	乙	
3	17	水	サンホセ	〃	〃	〃	日本大使館およびICE（電カ公社）表敬ならびに調査計画打合せ
4	18	木	〃	〃	〃	〃	ICEにて調査計画打合せ
5	19	金	〃	〃	〃	〃	ICEにて資料収集および調査計画打合せ
6	20	土	〃	〃	〃	〃	レベックソン河上流視察
7	21	日	〃	〃	〃	〃	現地調査のための諸準備
8	22	月	サンホセ → ツリアルバ	ツリアルバ	〃	〃	マチヨ発電所、カチ発電所視察
9	23	火	ツリアルバ	〃	〃	〃	レベックソン中流域調査
10	24	水	〃	〃	〃	〃	グワヤホダムダムサイト調査
11	25	木	〃	〃	〃	〃	グワヤホダム水路、発電所サイト調査
12	26	金	〃	〃	〃	〃	シキーレスダムサイト調査
13	27	土	〃	〃	〃	〃	} リモン港、工業団地（Recope石油、MOIM火力発電所） 視 察
14	28	日	〃	〃	〃	〃	
15	29	月	〃	〃	〃	〃	} 内業および打合せ（資料）
16	30	火	〃	〃	〃	〃	
17	31	水	〃	〃	〃	〃	
18	9月1日	木	〃	〃	〃	〃	グワヤホ、ボーリングコア視察
19	2	金	〃	〃	〃	〃	〃 ダムサイト、材料調査、プンタレス港視察
20	3	土	〃	〃	〃	〃	資 料 整 理
21	4	日	〃	〃	〃	〃	〃
22	5	月	〃	〃	〃	〃	グワヤホ発電所サイト調査

日順	月日	曜日	日 程	宿 泊 地	指 甲 2 地 等 別		調 査 内 容
					日 当	宿 泊	
23	9月 6日	火	ツリアルバ	ツリアルバ	乙	乙	グワヤボ発電所サイト調査
24	7	水	"	"	"	"	打合せ。(需要, 供給関係) (水文, 気象関係)
25	8	木	"	"	"	"	
26	9	金	サンホセ → アリケル → プンタアレナス	"	"	"	
27	10	土	プンタアレナス → サンホセ	サンホセ	"	"	プンタアレナス港, 高圧設備調査
28	11	日	サンホセ	"	"	"	資料整理
29	12	月	"	"	"	"	内業および打合せ(設計関係) (地質関係)
30	13	火	"	"	"	"	
31	14	水	"	"	"	"	
32	15	木	"	"	"	"	
33	16	金	サンホセ → ツリアルバ	ツリアルバ	"	"	パクアレ下流ダム地点踏査
34	17	土	ツリアルバ	"	"	"	"
35	18	日	"	"	"	"	シキーレスダムサイト調査
36	19	月	"	"	"	"	
37	20	火	ツリアルバ → サンホセ	サンホセ	"	"	ICEにマクワボ発電計画検討および技術打合せ
38	21	水	"	"	"	"	
39	22	木	"	"	"	"	
40	23	金	サンホセ	"	"	"	ICEおよび大橋館に挨拶
41	24	土	"	"	"	"	資料収集および帰国準備
42	25	日	"	"	"	"	"
43	26	月	サンホセ → ロスアンゼルス	ロスアンゼルス	甲	甲	
44	27	火	ロスアンゼルス	機 中	甲		
45	28	水	→ 東京		乙		

(報告書説明)

日順	月日	行 程	着泊地	指定地域等別		調査内容
				日当	夜泊	
1	2月 24	東京—メキシコ	メキシコ	乙	乙	報告書説明
2	25	メキシコ—サンホセ	サンホセ	乙	乙	
3	26	サンホセ	"	"	"	
4	27	"	"	"	"	
5	28	"	"	"	"	
6	3月 1日	"	"	"	"	
7	2	"	"	"	"	
8	3	サンホセ—ロスタベルス	ロスタベルス	甲	甲	
9	4	ロスタベルス	協中	甲	/	
10	5	東京	東京	乙	/	

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(1) 支 出 (単位: 円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	7,345,850	7,340,894
II 現地調査費	1,790,457	600,202
III 技術費	49,191,186	49,191,186
IV 報告書作成費	2,650,000	2,650,000
V 附帯費	395,000	295,510
合 計	61,372,493	60,077,792

(2) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算受入額	61,372,493
支出総額	60,077,792
収支差引額	1,294,701

(1) (1)の内訳 (単位: 円)

区 分	計 画 額 (概算費用50%はその別)		実 績 額	
	事業団直轄分	コンサル委託分	事業団直轄分	コンサル委託分
I 調査旅費	834,380	6,511,470	834,424	6,506,470
II 現地調査費	20,000	1,770,457	19,850	580,352
III 技術費	0	49,191,186	0	49,191,186
IV 報告書作成費	0	2,650,000	0	2,650,000
V 附帯費	395,000	0	295,510	0
合 計	1,229,380	60,123,113	1,149,784	58,928,008

コンサルタント名 豊源開発(株)

4. 收支決算費目内訳

I. 調査旅費

7,340,894 円

No.	氏名 (担当)	移付 号	滞 留 期 間 (日数)	① 航空賃	② 交際料	③ 日 当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)
						地 域	単 価 (円)	日 数	計 (円)	地 域	単 価 (円)		
1	佐藤光壽 (団 長)	1	45日 8/15~8/28	東京-札幌 486,800	94,710 円	甲 4,200 乙 3,800 計 45	3 42 45	12,600 159,600 172,200	甲 12,700 乙 11,400 計 43	2 41 43	25,400 467,400 492,800	8,900 円	1,253,610
2	小山隆平 (電 気)	2	45日 8/15~8/28	東京-札幌 486,800	85,095 円	甲 4,200 乙 3,800 計 45	3 42 45	12,600 159,600 172,200	甲 12,700 乙 11,400 計 43	2 41 43	25,400 467,400 492,800	8,400 円	1,245,290
3	星野 要 (土木設計)	4	45日 8/15~8/28	東京-札幌 486,800 円	75,270 円	甲 3,500 乙 3,200 計 45	3 42 45	10,500 134,400 144,900	甲 10,900 乙 9,800 計 43	2 41 43	21,800 401,800 423,600	8,400 円	1,138,970
4	谷 順一 (土木計画)	5	45日 8/15~8/28	東京-札幌 486,800	65,450 円	甲 3,500 乙 3,200 計 45	3 42 45	10,500 134,400 144,900	甲 10,900 乙 9,800 計 43	2 41 43	21,800 401,800 423,600	8,400 円	1,129,150
5	山田 守 (地 質)	5	45日 8/15~8/28	東京-札幌 486,800 円	65,450 円	甲 3,500 乙 3,200 計 45	3 42 45	10,500 134,400 144,900	甲 10,900 乙 9,800 計 43	2 41 43	21,800 401,800 423,600	6,600 円	1,127,350
6	山本正弘 (業務調整)	3	20日 8/15~8/3	東京-札幌 486,800	78,160 円	指 4,000 乙 3,200 計 20	1 19 20	4,000 60,800 64,800	指 12,500 乙 9,800 計 20	1 19 20	12,500 198,200 198,700	5,964 円	834,424
	(報告書説明)												
7	佐藤光壽 (団 長)	1	10日 2/24~2/5	東京-札幌 480,800	0 円	甲 4,200 乙 3,800 計 10	2 8 10	8,400 30,400 38,800	甲 12,700 乙 11,400 計 8	1 7 8	12,700 79,300 92,000	0 円	612,100
	合 計			3,401,600 円	464,330 円			882,700 円			2,547,600 円	44,664	7,340,894 円

II. 現地調査費

600,202 円

費目	円貨額 (円)	米ドル	現地通貨 コロン
備人費	80,876	0	2,583
車輦等借上費	67,747	108	1,743
通信運搬費	12,181	0	387.35
資機材等搬送費	92,709	0	2,963.42
会議費	224,552	760	686.55
交換手数料及印刷	66,547	0	0
計	544,552	868	7,865
資機材等搬送費	35,800		
事務用品	9,900		
医薬品	9,950		
計	55,650		
合計	600,202		

III. 技術費

49,191,186 円

(1) 直接入件費

④ 現地調査

区分 格付	単価(人・日) (円)	日数 (日)	入	金額(円)
1 (号)	26,800	$\frac{23日}{30日} \times 52$	1	1,068,426
2	25,000	$\frac{23日}{30日} \times 52$	1	996,666
4	17,200	$\frac{23日}{30日} \times 52$	1	885,706
5	13,700	$\frac{23日}{30日} \times 52$	1	546,193
5	13,700	$\frac{23日}{30日} \times 52$	1	546,193
計				3,843,144

⑤ 国内設計作業

区分 格付	単価(人・日) (円)	人・月 (人・月)	金額(円)
1号	26,800	23日 × 3	1,849,200
2号	25,000	23日 × 1	575,000
3号	21,600	23日 × 9	4,441,200
4号	17,200	23日 × 7	2,969,700
5号	13,700	23日 × 8.5	2,578,350
計			12,392,950

⑥ 現地報告書説明

区分 格付	単価(人・日) (円)	日数 (日)	入	金額(円)
1号	26,800	$\frac{23日}{30日} \times 10$	1	205,466
計				205,466

(1) の計 (A)+(B)+(C)

16,391,560

(2) 諸経費 16,391,560円 × 110% =

18,030,716

(3) 技術経費 (16,391,560円 + 18,030,716円) × 40% =

13,768,910

(4) 電算機使用料

1,000,000

合計 (1)~(4)

49,191,186

IV. 報告書作成費

2,650,000 円

費目	金額(円)
報告書原稿作成費	500,000
印刷製本費	2,150,000
合計	2,650,000

V. 附帯費

295,510 円

費目	金額(円)
交通費	20,000
会議費	147,770
その他	127,740
合計	295,510

No. 52 - 22

計画申請	昭和52年9月9日国協(設計)第8-407号
計画承認	昭和52年9月21日 52通洋 1247号
計画変更承認	昭和53年3月24日 53通洋 374号
担当	工美調査課 氏名 小久保 寿一

プロジェクト名 インドネシア共和国ブキットアサム石炭火力発電所建設計画調査

事業段階	区 分 経 費	事業内容	今後の予定
新 規	技術調査団派遣費	実施調査 報告書説明 国内設計作業	継 続 翌年度以降

現地調査期間 自昭和52年9月25日
至昭和62年10月22日

報告書説明期間 自昭和53年3月5日
至昭和53年3月11日

調査業務完了日 昭和53年3月20日

総支出経費 56,247,208

1. 調査目的、内容及び結果

<p>(1) 調査目的</p> <p>インドネシア国政府は、スマトラ地区タンジエンエム地点に賦存するブキットアサム炭鉱の豊富な石炭を利用した山元火力発電所建設を計画し、その経済的、技術的可能性の調査をわが国に要請した。よって、これに答え、ブキットアサム山元火力発電所建設のF/Sを実施することを目的とした。</p> <p>(2) 調査内容</p> <p>燃料部門 電力関係 火力発電所 送電関係 発電所の位置及び容量</p>	<p>調査結果</p> <p>ブキットアサム石炭火力発電所建設計画は、需要想定の結果、下記規模でブキットアサム山元に建設することが燃料面、技術面、経済面及び財政面において総合的判断をみると、フィーザーである。</p> <p>1 系 50 MW × 2 Units 1984年運転開始</p> <p>2 系 { 50 MW × 2 units 1984年運転開始 50 MW × 1 units 1987年運転開始</p> <p>これは、また、インプルメンテーション、スケジュールからも可能と判断される。</p> <p>工事費は、1 系 236百万ドル 2 系 325百万ドル と見積られる。</p> <p>(4) コンサルタント名 愛源開発(株)</p>
--	---

2. 調査日程

日順	日	行 程	宿泊地	調査内容
1	9/25	東京 → ジャカルタ	ジャカルタ	乙 乙
2	26			日本大使館・JICA 事務PI・PLN表敬
3	27			PLN打合せ・日本大使館説明
4	28			PLN石炭公社ジャカルタ
5	29			PLN打合せ
6	30			PLN BAPNAS表敬
7	10/1			PLN BAPNAS表敬
8	2	ジャカルタ → ハロンバン	ハロンバン	現地調査(アトアラム)
9	3	アトアラム → ジャカルタ	ジャカルタ	現地調査(アトアラム)
10	4	アトアラム → ジャカルタ	ジャカルタ	現地調査(アトアラム)
11	5	(A) ジャカルタ → ハロンバン	ハロンバン	現地調査(アトアラム)
12	6	(B) ジャカルタ → ジャカルタ	ジャカルタ	現地調査(アトアラム)
13	7	(A)		JICA(石炭) PLN石炭公社打合せ
14	8	(B)		PLN世銀打合せ
15	9	(A)		日本大使館・PLN石炭公社打合せ
16	10	(B) ジャカルタ → 東京		帰国(西村・松本・小久保)
17	11	(A) ハロンバン → ジャカルタ	ジャカルタ	現 地 調 査
18	12	(B)		資 料 整 理
19	13	(A)		資料整理
20	14	(B)		資料整理
21	15	(A)		日本大使館 JICA事務報告
22	16	(B)		PLN 他政府機関報告
23	17			PLN 他政府機関報告
24	18			PLN 他政府機関報告
25	19			PLN 他政府機関報告
26	20			PLN 他政府機関報告
27	21			PLN 他政府機関報告
28	22	ジャカルタ → 東京		帰 国
		(報告書説明)		
1	9/25	東京 → ジャカルタ	ジャカルタ	乙 乙
2	6			大使館 PLN 表敬
3	7			報告書説明
4	10			大使館へ報告
5	11	ジャカルタ → 東京		帰 国
		(注) (A) 三國・浜崎・田中・南・渡辺・福田		
		(B) 西村・松本・小久保		

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(1) 支 出

(単位：円)

区 分	計画額	変更額	変更後額	実績額
I 調査旅費	6,967,775	0	6,967,775	6,770,625
II 現地調査費	2,874,842	0	2,874,842	2,791,402
III 技 術 費	46,003,682	0	46,003,682	46,003,682
IV 報告書作成費	3,300,000	△ 2,400,000	900,000	900,000
V 附 帯 費	451,400	△ 100,000	351,400	261,499
合 計	57,597,719	△ 2,500,000	57,097,719	56,247,208

(2) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算受入額	57,597,719
計画変更承認額	△ 2,500,000
支出総額	56,247,208
収支差引額	850,511

(3) (1) の 内 訳

(単位：円)

区 分	計画額(収支効用別)合計の額	実 績 額	
		事業団内部分	コ>ナルト外部分
I 調査旅費	741,835	6,225,860	613,311
II 現地調査費	10,000	2,864,842	7,050
III 技 術 費	0	46,003,682	0
IV 報告書作成費	0	900,000	0
V 附 帯 費	351,400	0	261,499
合 計	1,103,235	55,994,484	881,860

4. 收支決算費目内訳

1. 調査旅費

6,790,625 円

No	氏名 (担当)	格付 (号)	滞日 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日 当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)		
						地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	地 区	単価 (円)			日数	計 (円)
1	三国雅士 (総括)	1	28日 9/25~10/22	東京-沈阳 282,600 円	78,160 円	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	5,900 円	780,860
2	浜崎堯行 (火力計画)	3	28日 9/25~10/22	東京 282,600 円	66,030 円	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	7,090 円	709,920
3	田中耕基 (電 気)	1	28日 9/25~10/22	東京-" 282,600 円	78,160 円	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	8,520 円	783,480
4	南 朋 (電 気)	4	28日 9/25~10/22	東京-" 282,600 円	61,970 円	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	4,990 円	703,780
5	西村隆三郎 (石 炭)	1	21日 9/25~10/15	東京-" 282,600 円	78,160 円	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	7,010 円	675,570
6	渡辺敏子 (土 産)	3	28日 9/25~10/22	東京 282,600 円	66,030 円	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	7,610 円	710,440
7	福田裕也 (経 済)	1	28日 9/25~10/22	東京-" 282,600 円	78,160 円	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	4,640 円	779,600
8	松本純治 (系統計画)	2	21日 9/25~10/15	東京 282,600 円	70,070 円	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	4,860 円	665,330
9	小久保寿一 (業務調整)	3	21日 9/25~10/15	東京-" 282,600 円	66,030 円	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	14,810 円	613,311
10	三国雅士 (報告書説明)	1	7日 3/15~3/11	東京-" 271,800 円	0 円	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	地 区	単価 (円)	日数	計 (円)	1,534 円	368,334
合 計				2,815,200 円	427,790 円				841,400 円				2,437,600 円	53,635 円	6,790,625 円

II. 現地調査費 2,291,402 円

1RP=0.65円

費目	円貨額 (円)	現地通貨 RP
輸入費	176,443	271,450
重額筆嵩上費	1245,010	1,915,400
交通費	85,101	130,925
通信運搬費	147,137	226,365
資機材等購入費	254,501	391,540
現地報告書作成費	107,220	168,000
会議費	196,385	302,900
雑費	975	1,500
交換手数料及差損	69,100	
計	2,284,352	3408,080
事務用品	4,440	
医薬品	2,610	
計	7,050	
合計	2,291,402	

III. 技術費 46,003,682 円

(1) 直接入件費

① 現地調査

区分	単価(人・日)	日数(日)	人	金額
1 (3)	26,800	23日/30日 x 28	3	1,725,919
1	26,800	23日/30日 x 21	1	431,480
2	25,000	23日/30日 x 21	1	402,500
3	21,600	23日/30日 x 28	2	927,360
4	17,200	23日/30日 x 28	1	369,226
計			3	3,856,485

② 国内設計作業

区分	単価(人・日)	人・月	金額
1号	26,800	23日 x 3.0	1,849,200
2号	25,000	23日 x 6.0	3,450,000
3号	21,600	23日 x 8.0	3,974,400
4号	17,200	23日 x 6.0	2,393,600
計			11,647,200

③ 現地報告書説明

区分	単価(人・日)	日数	人	金額
1号	26,800	23日/30日 x 7	1	143,826
計				143,826

(1) の計 (② + ③)

15,647,511

(2) 結経費 15,647,511 円 x 110% =

17,212,262

(3) 技術経費 (15,647,511円 + 17,212,262円) x 40% =

13,143,909

合計(1)-(3)

46,003,682

IV. 報告書作成費

900,000 円

費目	金額(円)
報告書原簿作成費	900,000

V. 附帯費

261,499 円

費目	金額(円)
交通費	0
会議費	184,009
その他	77,490
合計	261,499

No. 52-23

計画申請	昭和52年9月9日国協(純計)第9-520号
計画承認	昭和52年9月22日 52通第1364号
計画変更承認	昭和53年3月24日 53通第374号
担当	工業調査課 課長 内藤久敏

プロジェクト名 イラン帝國石油化学工業製品計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
継続	技術調査団派遣費	実施調査 報告書説明 国内設計作業	継続 翌年度以降

現地調査期間 自昭和52年9月27日
至昭和52年11月10日

報告書説明期間 自昭和53年3月16日
至昭和53年3月23日

調査業務完了日 昭和53年3月20日

総支出経費 64,392,709

1. 調査目的、内容及び結果

<p>(1) 調査目的</p> <p>昭和52年6月事前調査団が「イ」側と結んだV/Rにもとづき、石油化学下流産業の振興計画策定に関して調査を行うものである。</p> <p>(2) 調査内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 石油化学製品の市場分析と需給予測 プラスチックおよび合成ゴム成形工業の振興のためのマスタープラン作成 	<p>(3) 調査結果</p> <p>イラン国内における石油化学製品の需要を大きく伸ばすためのボトルネックとなっているのは、流通機構の不整備、パイプ管用としていまだ鉛が使われていること、(PVCパイプはほとんど使われていない)、成形加工技術の低さより、工業製品の部品はすべて輸入されていること等である。</p> <p>よって、国内需要を喚起するためには、NPCが中心となり、加工技術者に対する教育、先進国からの技術の導入、加工業育成のための投資、又、地方の成形加工業者が集中している場所へのストックポイントの設置、国民への石油化学製品の優秀さのアピール、製品規格の設定(例えばJIS規格のようなもの)、等の実施を早急に押し進めらるべきである。</p> <p>(4) コンサルタント名 ユニコ、インターナショナル(株)</p>
---	--

2. 調査日程 (実施調査)

日順	月日	行 程	宿泊地	訪問先		調査内容
				日	時	
1	7/27	東京発	機中	乙		
2	28	テヘラン着	テヘラン	乙		大塚邸表敬
3	29					調査国内部打合せ
4	30					
5	10/1					NPC基本打合せ
6	2					カウンセラー打合せ
						現地調査(イスファ ハンマド、カズビーン、 アバダン、ミズを中心とし)
8	11/3		テヘラン	乙	乙	
39	4					報告書原稿作成
40	5					NPCと打合せ
41	6					中間レポート提出
42	7					及び打合せ
43	8					大塚邸報告
44	9	テヘラン				
45	10	東京着				
1	3/16	東京発	機中	乙		
2	17	テヘラン着	テヘラン	乙		SICA事務所と日経打合せ 大塚邸表敬及スタッフ説明
3	18					NPCと打合せ
4	19					NPCのコンタクト
5	20					SJPCより事情聴取
6	21					NPCと打合せ
7	22	テヘラン発	機中			
8	23	東京着				

3. 調査業務収支

(1) 収支決算総括表

(i) 支出

(単位:円)

区 分	計画額	変更額	取戻額	実績額
I 調査旅費	11,520,755		11,520,755	10,782,729
II 現地調査費	1,532,926		1,532,926	1,425,395
III 技術費	49,902,272		49,902,272	42,702,272
IV 報告書作成費	4,990,000	△3,220,000	1,770,000	1,770,000
V 附帯費	455,000	△135,000	320,000	292,133
合 計	68,400,953	△3,350,000	65,065,953	64,392,707

(ii) 収支決算

費用	金額(円)
概算戻入額	68,400,953
計画変更承認額	65,065,953
支出総額	64,392,707
収支差引額	673,244

(iii) (i)の内訳

(単位:円)

区 分	計画額(変更適用あり/なし)		実績額	
	事業関連部分	コンサルト委託分	事業関連部分	コンサルト委託分
I 調査旅費	2,081,335	9,439,420	1,954,489	8,828,440
II 現地調査費	10,000	1,522,926	7,490	1,417,585
III 技術費	0	49,902,272	0	42,702,272
IV 報告書作成費	0	1,770,000	0	1,770,000
V 附帯費	320,000	0	292,133	0
合 計	2,411,335	62,654,618	2,254,112	62,138,597

コンサルト名 ユニコ、インターナショナル(株)

4. 収支決算費目内訳

1. 調査旅費

10,982,929 円

No	氏名 (担当)	格付 (号)	出張期間 (日数)	①航空賃	②支度料	③日 当			④燃 油 料			⑤旅行雑費	合 計 (①~⑤)(円)		
						座 席	単価 (円)	日数	計 (円)	座 席	単価 (円)			日数	計 (円)
1	干野 武 司 (国 長)	1	45日 8/27/10	東京-フアン アバタン、フ ラン 541,400円	55,830円	乙	3,800	32	121,600	乙	11,400	31	353,400	0円	1,229,530
						乙	3,800×0.9	13	44,460	乙	11,400×0.9	11	112,860		
							計	166,060		計			466,260		
2	長沢 亮 行 (織 維)	1	23日 8/27/10	東京-フアン 500,800円	78,160円	乙	3,800	23	87,400	乙	11,400	20	228,000	5,700円	900,660
3	伊藤 忠 (塩化ビニール)	1	30日 8/27/10	東京-フアン 500,800円	78,160円	乙	3,800	30	114,000		11,400	27	307,800	0円	1,000,760
4	坂倉 正 恒 (包装材料)	2	30日 9/12/10	東京-フアン 500,800円	70,070円	乙	3,800	30	114,000	乙	11,400	27	307,800	3,900円	996,570
5	石川 光 男 (樹 脂)	2	22日 9/27/10	東京-フアン 500,800円	40,070円	乙	3,800	22	83,600		11,400	17	216,600	7,200円	878,270
6	高沢 茂 治 (合成ゴム)	2	30日 9/12/10	東京-フアン 541,400円	70,070円	乙	3,800	30	114,000		11,400	27	307,800	0円	1,033,270
7	菅原 浩二 (ポリエチレン ポリプロピレン)	3	30日 8/27/10	東京-フアン 500,800円	66,030円	乙	3,200	30	96,000	乙	9,800	27	264,600	1,500円	928,930
8	斎藤 敏 久 (開発計画)	3	30日 9/12/10	東京-フアン 500,800円	66,030円	乙	3,200	30	96,000	乙	9,800	27	264,600	6,900円	934,330
9	長沢 幸 敏 (業務調査)	2	14日 9/27/10	東京-フアン 500,900円	0円	乙	3,800	14	53,200	乙	11,400	12	136,800	0円	690,900
10	和田 正 武 (企 画)	4	14日 9/27/10	東京-フアン 500,800円	30,995円	乙	3,200	14	44,800	乙	9,800	11	107,800	0円	684,395
	小 計 (1~10)			5,089,300円	585,415円				969,060円				2,608,060円	25,200円	9,277,035円

NO.	氏名 (担当)	格付 (等)	出張期間 (日数)	①航空賃	②交際料	③日当			④宿泊料			⑤旅行雑費	合計 (①~⑤)		
						地域	運賃(円)	日数	計	地域	単価(円)			日数	計 円
1	(報告書説明) 干野武司	1	8日 3/16~3/23	東京-フランク 481,600円	0円	地域	運賃(円)	日数	計	地域	単価(円)	日数	計 円	0円	569,000
2	石川光男 ()	3	8日 3/16~3/23	東京-フランク 481,600円	0円	地域	運賃(円)	日数	計	地域	単価(円)	日数	計 円	1,500円	557,700
3	長沢幸敏 ()	2	8日 3/16~3/23	東京-フランク 481,600円	8,758円	地域	運賃(円)	日数	計	地域	単価(円)	日数	計 円	1,436円	579,194
	小計(1~3)			1,444,800円	8,758円				86,400円				163,000円	29,366円	1,705,894円
	合計			6,534,100円	594,173円				1,055,460円				2,771,060円	28,136円	10,982,929円

II. 現地調査費 1,425,375 円

費目	円換額(円)	現地通貨
		リ 7 元
備入費	142,340	37,500
車輦等借上費	706,280	240,465
通信運搬費	54,656	14,575
資機材等購入費	62,117	16,365
会議費	237,355	64,470
雑費	1,135	300
交換手数料及差換	13,977	
計	1,417,885	373,695
円換分		
事務用品	4,990	
医薬品	2,500	
計	7,490	
合計	1,425,375	

III. 技術費 49,902,272 円

(1) 直接人件費

① 現地調査

区分	単価(人日)	日数(日)	人	金額(円)
1(号)	26,800	23日/30日 x 45	1	914,600
1	26,800	23日/30日 x 23	1	472,573
1	26,800	23日/30日 x 30	1	616,400
2	25,000	23日/30日 x 30	2	1,150,000
2	25,000	23日/30日 x 12	1	421,666
3	21,600	23日/30日 x 30	2	993,600
計			8	4,578,939

② 国内設計作業

区分	単価(人日)	入月(人月)	金額(円)
1号	26,800	23日 x 5	3,082,000
2号	25,000	23日 x 25	4,312,500
3号	21,600	23日 x 4	1,987,200
4号	17,200	23日 x 4	1,582,400
5号	13,700	23日 x 35	1,102,850
計			12,066,950

③ 現地報告書説明

区分	単価(人日)	日数(日)	人	金額(円)
1(号)	26,800	23日/30日 x 7	1	143,826
3	21,600	23日/30日 x 7	1	115,920
計				259,746

(1) の計 (②+③) =

16,905,535

(2) 諸経費 16,905,535 円 x 110% =

18,596,088

(3) 技術経費 (16,905,535 円 + 18,596,088 円) x 40% =

14,200,649

(4) 電算機稼働料

200,000

合計(1)+(2)+(3)+(4) =

49,902,272

IV. 報告書作成費

1,790,000 円

費目	金額(円)
報告書原稿作成費	1,790,000

V. 附帯費

292,133 円

費目	金額
交通費	20,310
会議費	224,123
その他	47,700
合計	292,133

No. 52-24

計画申請	昭和52年12月9日同協(社計)第12-196号
計画承認	昭和53年1月1日 52通第1914号
担当	資源調査課 末森 簡

プロジェクト名 チュニジア共和国内カセブ揚水発電開発計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査団派遣費	1. 実施調査 2. 国内設計作業	継続 (翌年度以降)

現地調査期間 自昭和53年1月17日
至昭和53年2月25日
調査業務完了日 昭和53年3月31日
総支出経費 35,819,255

1. 調査目的、内容及び結果

(1) 調査目的 本件はチュニジア共和国で近年急速に伸びを示しつつあるピーク電力需要に対処するため計画されたカセブ揚水発電の Feasibility 調査を実施するものである。本計画は同国北部メジェラ川支流カセブ川にあるカセブダムを下池として利用し発電を行うものである。

(2) 調査内容 現地調査及び国内設計作業は以下のとおり、
土木調査(主要構造物地点の踏査、相手国との打ち合せ、レイアウトの予備検討等) 水文調査(資料収集及び解析)、地質調査及び解析、電気関係調査(資料収集、踏査及び解析)、送電関係調査(送電ルート踏査化及び解析) 経済調査(資料収集及び解析)等

(3) 調査結果

- 各土木構造物に対する地質的問題点と補足調査を勧告した。
- 発電計画のための基本的条件につき、チュニジア電力公社(STEG)と確認した結果、下池の利用水深(20m、15m)の2案と放水口の位置(上流と下流)の2案の組み合わせにてスタディすることとなった。
- 送電計画では、3本の回線連結線が完成するとSTEGの送電系統はかなり大きくなり、系統周波数低下率が減少し、本プロジェクトに有利とな

る。送電ルートは最高標高500~600mの山が数ヶ所のみで問題はい
4) コンサルタント名 EPDCインターナショナル(株)

2. 調査日程

日順	月日	行 程	宿泊地	乗車別		調 査 内 容
				日	泊	
1	1/17	全開貨 東京→パリ	パ リ	指	指	移動
2	18	パリ→テュニス	テュニス	指	乙	移動
3	19			乙	乙	日本大使館表敬・日程打ち合せ
4	20					STEG 日程打ち合せ
						計画の説明・討議
12	28	テュニス→ジェンドーバ	ジェンドーバ	乙	乙	カセブダムサイト現地調査
13	29					
17	2/2	ジェンドーバ→テュニス	テュニス	乙	乙	移動 送電線ルート調査
18	3					STEG 打ち合せ、資料収集
19	4	木森 田員のみ テュニス→アムステルダム				計画検討
20	5	アムステルダム				
21	6	東京				STEG 打ち合せ、資料収集
	9	テュニス→ジェンドーバ	ジェンドーバ	乙	乙	ダムサイト現地調査
	10	ジェンドーバ→テュニス	テュニス			
	11					
28	13	テュニス→ス→ス→スファックス	スファックス			
29	14	スファックス→カベス	カベス			火力発電所等視察など
30	15	カベス→テュニス	テュニス			
		吉永 地員のみ テュニス→ロンドン				STEG 中間報告説明等
38	23	テュニス→ロンドン	ロンドン	甲	甲	
39	24	ロンドン	機 中	甲		
40	25	東京		乙		

(110)

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出

(単位：円)

区 分	計画額	流用額	流用後額	実績額
I 調査旅費	9,634,925	1,243,430	8,391,495	9,300,260
II 現地調査費	1,756,700	0	1,756,700	712,418
III 技術費	25,262,827	243,430	25,506,257	25,506,257
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	309,000	0	309,000	240,320
合 計	36,963,452	0	36,963,452	35,819,255

(ロ) 収支決算

費 用	金額(円)
概算受入額	36,963,452
支出総額	35,819,255
収支差引額	1,144,197

(ハ) (イ)の内訳

(単位：円)

区 分	計画額(受入・流用後)		実績額	
	事業計画区分	送電線調査区分	事業計画区分	送電線調査区分
I 調査旅費	9,233,310	8,468,185	8,322,075	8,468,185
II 現地調査費	1,524,410	1,604,770	1,249,968	647,450
III 技術費	0	25,506,257	0	25,506,257
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	309,000	0	240,320	0
合 計	13,847,200	35,578,732	11,972,363	34,621,892

4. 収支決算費目内訳

1 調査旅費 9300,260円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	出張期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	⑥ 計		
						種別	単価(円)	日数	計(円)	種別	単価(円)		日数	計(円)	(1)-(5)
1	石山 豊 (総務)	1	40日 1/17~2/5	東京-テニス 601,000円	94,900円	指	4,700	2	9,400	指	14,600	1	14,600	6,100円	1,294,300
						指	4,700	2	8,400	指	12,700	1	12,700		
						乙	3,800	36	136,800	乙	11,400	36	410,400		
						計			152,600	計			437,700		
2	中川 一雄 (土木)	2	40日 1/17~2/5	東京-テニス 601,000円	85,090円	指	4,700	2	9,400	指	14,600	1	14,600	8,400円	1,286,790
						指	4,700	2	8,400	指	12,700	1	12,700		
						乙	3,800	36	136,800	乙	11,400	36	410,400		
						計			154,600	計			437,700		
3	飯野 勝衛 (水文)	3	40日 1/17~2/5	東京-テニス 601,000円	80,180円	指	4,000	2	8,000	指	12,500	1	12,500	2,200円	1,189,780
						指	3,500	2	7,000	指	10,900	1	10,900		
						乙	3,200	36	115,200	乙	9,800	36	352,800		
						計			130,200	計			376,200		
4	柴田 祐啓 (地質)	3	40日 1/17~2/5	東京-テニス 601,000円	80,180円	指	4,000	2	8,000	指	12,500	1	12,500	5,400円	1,192,980
						指	3,500	2	7,000	指	10,900	1	10,900		
						乙	3,200	36	115,200	乙	9,800	36	352,800		
						計			130,200	計			376,200		
5	山本 克彦 (電気)	3	40日 1/17~2/5	東京-テニス 601,000円	80,180円	指	4,000	2	8,000	指	12,500	1	12,500	7,200円	1,194,780
						指	3,500	2	7,000	指	10,900	1	10,900		
						乙	3,200	36	115,200	乙	9,800	36	352,800		
						計			130,200	計			376,200		
6	若米地 辰夫 (送变电)	3	35日 1/17~2/10	東京-テニス 601,000円	20,045円	指	4,000	2	8,000	指	12,500	1	12,500	3,900円	1,066,345
						指	3,500	2	7,000	指	10,900	1	10,900		
						乙	3,200	31	99,200	乙	9,800	31	303,800		
						計			114,200	計			327,200		
7	小林 哲郎 (経済)	2	40日 1/17~2/5	東京-テニス 601,000円	46,010円	指	4,700	2	9,400	指	14,600	1	14,600	3,900円	1,243,210
						指	4,700	2	8,400	指	12,700	1	12,700		
						乙	3,800	36	136,800	乙	11,400	36	410,400		
						計			154,600	計			437,700		
8	末 杰 満 (業務調整)	6	21日 1/17~2/6	東京-テニス 601,000円	13,475円	指	3,400	2	6,800	指	10,400	1	10,400	0円	842,075
						指	3,000	2	6,000	指	9,100	1	9,100		
						乙	2,700	17	45,900	乙	8,200	17	139,400		
						計			58,700	計			158,900		
合計				4,808,000円	500,060円	1,027,300円			2,977,800円			57,100	9,300,260円		

(関係協力事業団 鉦工業計画調査部)
(実績報告書様式 No.3-A)

II. 現地調査費

772,418円

費目	円貨額(円)	(注) ()内円貨		75% (2,391,600)
		現地通貨 (2,391,600)	現金 (216,818)	
外 備人費	114,373	196,000	0	0
外 車種借上費	145,499	219,340	0	0
外 通信運搬費	335,833	493,320	6,300	828
外 資機材等購入費	8,820	13,614	1,500	0
外 会費等	110,872	0	189,850	0
外 交授手教料及取扱	49,291			
外 計	764,688	952,274	197,550	1,828
内 事務用品	3,770			
内 医薬品	3,960			
内 計	7,730			
合計	772,418			

III. 技術費

25,506,257円

(1) 直接人件費

(A) 現地調査

区分 格付	単価(人・日) (円)	日数(日)	人	金額(円)	区分 格付	単価(人・日) (円)	日数(日)	人	金額(円)
1 (甲)	26,800	23日 30日×40	1	821,866	3 (甲)	21,600	23日 60日×40	1	662,400
2	25,000	23日 30日×40	1	766,666	3	21,600	23日 30日×40	1	662,400
2	25,000	23日 60日×40	1	766,666	3	21,600	23日 60日×35	1	579,600
3	21,600	23日 60日×40	1	662,400	計				4,921,998

(B)

区分 格付	単価(人・日) (円)	人月 (人・日)	金額 (円)
1号	26,800	23日×1.0	616,400
2号	25,000	25日×2.0	1,250,000
3号	21,600	23日×4.0	1,987,200
計			3,853,600

(1) の計 (A)+(B)

8,675,598

(2) 諸経費 8,675,598円 × 110% =

9,543,157

(3) 技術経費 (8,675,598円 + 9,543,157円) × 40% =

7,287,502

合計 (1)-(3)

25,506,257円

IV. 附帯費

240,320円

費目	金額(円)
会費	74,380
国内旅費	165,940
合計	240,320

No. 52-25

計画申請	昭和52年12月2日国協(鉦針)第12-67号
計画承認	昭和52年12月6日 52通第1888号
担当	鉦針部 資調課 竹本節生

プロジェクト名: フィリピン共和国、バギオ地区鉦山排水公害調査事前調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査用派遣費	事前調査	今回で完了

現地調査期間 自昭和52年12月11日
至昭和52年12月24日
調査業務完了日 昭和53年3月31日
総支出総費 3,028,563

1. 調査目的、内容及び結果

<p>(1) 調査目的</p> <p>フィリピン国政府の要請は、バギオ地区鉦山排水の河川公害対策として、トンネル・パイプライン・溝の結合により、鉦溝を運び、それを海中へ投棄又は埋立にて処理する同国の計画に対するフィージビリティ・スタディを求めている。公害対策上種々の問題を含むこの方式に対して、直ちに本格調査団を派遣するよりは、まず事前調査団にて、検討せしめて、本格調査の方向づけを実施する。</p> <p>(2) 調査内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バギオ地区鉦山会社の鉦山排水関連データの調査 2. トンネル・パイプライン・溝方式予定地の現状調査 3. 鉦山排水処理方式に対する比国の考え方の調査 4. 資料収集(地形、鉦山関係、公害関係) <p>(3) 調査結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バギオ地区関係の鉦山を訪問して、鉦山排水関連データを収集するこゝとができた。 2. 予定地の踏査を行い、また、現地で入手した地形図により、 	<p>プロフィールを作成して、1.5%、2%の傾斜によるトンネルの掘削の可能性を調査した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 鉦山局、鉦山側と討議をし、鉦溝処理の方式につき意見交換をした。 4. 各鉦山で、地形図、鉦溝対策レポート等を収集した。 5. 調査結果を現地で英文にして提出し説明意見交換を行った。 <p>(4) コンサルタント名 直営</p>
---	--

2. 調査日程

日順	月日	行程	宿泊地	現地調査日		調査内容
				日	時	
1	12.11	東京 PR-427 → マニラ	マニラ	乙	乙	(移動)
2	12.12	鉱山局	・	・	・	会議：鉱山局と日程打合せ
3	12.13	移動：マニラ → バギオ	バギオ	・	・	(移動)
4	12.14	フレックス鉱山	・	・	・	現地調査
5	12.15	ベンゲット鉱山	・	・	・	・
6	12.16	グラフマウンテン鉱山	・	・	・	・
7	12.17		・	・	・	資料整理
8	12.18		・	・	・	・
9	12.19	サンフスギビング鉱山	・	・	・	現地調査
10	12.20	移動：バギオ → マニラ	マニラ	・	・	移動
11	12.21		・	・	・	現地報告書作成
12	12.22		・	・	・	・
13	12.23	鉱山局	・	・	・	会議：鉱山局へ現地報告書説明
14	12.24	移動：14:50 JL742 マニラ → 20:00 東京	—	・	・	

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出

(単位：円)

区 分		計画額	実績額
I	調査旅費	1,115,448	1,087,902
II	現地調査費	281,892	170,853
III	技術費	1,527,309	1,527,308
IV	報告書作成費	0	0
V	附帯費	265,400	242,500
合 計		3,190,049	3,028,563

(ロ) 収支決算

費 用	金額 (円)
概算受入額	3,190,049
支出総額	3,028,563
収支差引額	161,486

(ハ) (イ)の内訳

区 分	計画額	実績額	
	事業計画区分	事業計画区分	
I	調査旅費	1,115,448	1,087,902
II	現地調査費	281,892	170,853
III	技術費	1,527,309	1,527,308
IV	報告書作成費	0	0
V	附帯費	265,400	242,500
合 計		3,190,049	3,028,563

4 収支決算書目内訳

[調査旅費] 1087,902 円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	滞在期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日 当			④ 泊 料			⑤ 旅行雑費	合 計		
						単価 (円)	日数	計 (円)	単価 (円)	日数	計 (円)		(①~⑤)	(円)	
1	藤原博生 (総務)	1	14日 12/11~12/24	東京-マニラ 152,600円	3,2080円	2	3,800	14	53,200	11,400	13	148,200	818円	393	898
2	日景ニ基 (山元権務ダム)	3	14日 12/11~12/24	東京-マニラ 152,600円	33,015円	2	3,200	14	44,800	9,800	13	127,400	818円	358	633
3	竹本節生 (業務調整)	3	14日 12/11~12/24	東京-マニラ 152,600円	8,253円	2	3,200	14	44,800	9,800	13	127,400	2,318円	335	371
合 計				457,800円	80,348円		142,800円			403,000円			3,954	1,087	902

II. 現地調査費 170,853 円

費目	円貨額 (円)	現地通貨	
		レ	ソ
水 資 分	車輦管借上費	67,360	2,000.00
	交 通 費	8,790	261.00
	通信並搬費	783	23.25
	資機材等購入費	22,733	675.30
	現地報告製作費	3,704	110.00
	会 議 費	55,090	1,635.71
	交換手数料及差損	2,873	-
	計	161,333	4,705.26
円 貨 分	事務用品	4,690	
	医薬品	4,830	
	計	9,520	
合 計	170,853		

III. 技術費 1,527,308 円

(1) 直接人件費

現地調査

区分 招待	単価(人・日)(円)		日数(日)	人	金 額 (円)	
	レ	ソ			レ	ソ
1 (号)	26	800	23日 30日×14	1	287	653
3	21	600	23日 30日×14	1	231	840
計					519	493

(1)の計

519	493
-----	-----

(2) 諸経費 519,493円 × 110% =

571	442
-----	-----

(3) 技術経費 (519,493円 + 571,442円) × 40% =

436	373
-----	-----

合計(1)~(3)

1,527	308
-------	-----

IV. 附帯費 242,500 円

費目	金額(円)
会 議 費	37,000
国内旅費	44,500
そ の 他	161,000
合 計	242,500

No. 52 - 26

計画申請	昭和52年/2月2/日国協(統計)第12-850号
計画承認	昭和52年/2月25日 52通策1945号
担当	工業調査課 笠原允文

プロジェクト名 ネパール王国ウダイプールセメント工場建設計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査団長期派遣費	実地調査 国内設計作業	継続 (翌年度以降)

現地調査期間 自昭和53年1月5日
至昭和53年2月23日
調査業務完了日 昭和53年3月3日
総支出経費 41,728,184

1. 調査目的、内容及び結果

(1) 調査目的 ネパール政府の要請に基づき、当国が計画中のセメント工場建設計画に関し、当国サガルマクゾーン、ウダイプール地区シングリに賦存する石灰石鉱床の原料的検討、プラント建設に関する諸要件の検討、総合的な経済的評価を行い、計画遂行にあたっての適切な提言を行うことを目的とする。

(2) 調査内容

1. ネパール王国の開発環境
2. 原料資源の検討
3. プラント建設に係る諸要件の検討
4. 経済評価

(3) 調査結果

所与の諸条件のもとに検討した結果、ウダイプール地区にセメント工場を建設する計画は、フィージブルであると認められた。(中間報告書作成)

次年度に継続して国内設計作業を行い、各項目の検討をさらに進めると共に、最終報告書を作成することとする。

(4) コンサルタント名 小野田エンジニアリング(株)

2. 調査日程

日順	月日	行 程	調査地	調査地別		調 査 内 容
				日数	泊日	
1	1/5	東京 → バンコック (4名)	バンコック	乙	乙	移動
2	6	バンコック → カトマンズ	カトマンズ	〃	〃	天候不良 飛行機便遅延 カトマンズ着 22:00 PM
3	7	カトマンズ	カトマンズ	〃	〃	鉱山局にて現地調査日程打合せ
4	8	カトマンズ → ビラナガール	ビラナガール	〃	〃	日本大使館打合せ、必需品購入
5	9	ビラナガール → ガイガート	ガイガート	〃	〃	工場候補地踏査 指令設営
6	10	ガイガート → シンダリ	シンダリ	〃	〃	省舎設営
5	5	〃	〃	〃	〃	原料調査 簡易地学分析
10	14	鳥谷部々シンダリ → ハバルダ	シンダリ ハバルダ	〃	〃	〃
11	15	ハバルダ → カトマンズ	シンダリ カトマンズ	〃	〃	〃
12	16	シンダリ(3名) カトマンズ(1名)	〃	〃	〃	〃 鉱山局 日本大使館 打合せ
13	17	シンダリ(〃) カトマンズ → バンコック	シンダリ バンコック	〃	〃	〃 移動
14	18	バンコック → 東京	シンダリ	〃	〃	〃 帰国
5	5	〃	〃	〃	〃	〃
18	22	シンダリ → ガイガート (3名)	ガイガート	〃	〃	〃 追加採-リング地点ネパール側に指示、移動
19	23	ガイガート → ベルダール (2名) ガイガート → ハバルダ (1名)	ベルダール ハバルダ	〃	〃	〃 シリカサンド サンプルング
20	24	ベルダール(2名) ハバルダ → カトマンズ (1名)	ベルダール カトマンズ	〃	〃	〃 ベルダール 粘土原料地調査
21	25	ベルダール(1名) カトマンズ(1名) 東京 → バンコック	ベルダール カトマンズ バンコック	〃	〃	〃 移動
22	26	カトマンズ → バンコック → カトマンズ	カトマンズ	〃	〃	〃
23	27	バンコック → 東京 カトマンズ	ベルダール カトマンズ	〃	〃	〃 日本大使館 鉱山局 打合せ
24	28	カトマンズ → ベルダール	ベルダール	〃	〃	〃 先発隊と合流 調査スケジュールの調整
5	5	ベルダール (9名)	〃	〃	〃	〃 粘土原料地、工場候補地調査
27	31	ベルダール(1名) ベルダール → ガイガート (8名)	ベルダール ガイガート	〃	〃	〃 粘土原料地調査 各工場候補地踏査 移動
28	2/1	ガイガート → シンダリ	ベルダール シンダリ	〃	〃	〃

(1/18)

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出

(単位：円)

区 分		計 画 額	実 績 額
I	調査旅費	8,703,410	8,358,606
II	現地調査費	1,164,308	813,177
III	技術費	33,113,960	32,460,301
IV	報告書作成費	0	0
V	附帯費	365,000	96,100
合 計		43,346,678	41,728,184

(ロ) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算受入額	43,346,678
計画変更承認額	0
支出総額	41,728,184
収支差引額	1,618,494

(ハ) (イ)の内訳

(単位：円)

区 分	調査経費(現地調査費)		実 績 額		
	概算調査分	追加調査分	作業調査分	非作業調査分	
I	調査旅費	712,200	2,991,210	586,975	2,771,631
II	現地調査費	10,000	1,154,308	8,760	804,417
III	技術費	0	33,113,960	0	32,460,301
IV	報告書作成費	0	0	0	0
V	附帯費	365,000	0	96,100	0
合 計		1,087,200	42,259,478	691,835	41,076,349

コンサルタント名 小野田エンジニアリング(株)

日順	月日	曜日	行程	宿泊地	宿中地別		調査内容
					日当	泊	
29	3/2	木	ベルギー(1名) シンダリ(8名)	ベルギー シンダリ	乙	乙	ベルギー 粘土原料地調査
30	3	金	(1名) シンダリ(1名) シンダリ(2名) →ベルギー				原料搬出ルート 調査
31	4	土	ベルギー→ピラトナガル(8名) シンダリ(1名)	ピラトナガル シンダリ			道路局(ハルダ) リヒルマノ地区知事 訪問、ソーリ回廊への道路調査 シンダリ 石灰石原料地調査
32	5	日	ピラトナガル(8名) シンダリ(1名)				電力会社 道路局(マフ) 訪問、カリアンゴール回廊への道路調査
33	6	月	(7名) (1名) (1名) ピラトナガル→カトマンズ ピラトナガル→ベルギー シンダリ→ ベルギー	カトマンズ ベルギー			移動
34	7	火	カトマンズ(7名) ベルギー(2名) →カイガート	カトマンズ カイガート			鉾山打合、ヒマールセント視察 移動、トシガ川流量測定、箱倉視察
35	8	水	カイガート(2名)				道路局、NCCN、通信局、住居局、NIDC 各工場予定地調査、オーガートリング
36	9	木					電力、電力省、貿易局、ISC、その他訪問、資料収集、地下水値測定等
39	12	日	(4名) (3名) (2名) カトマンズ→バンコク カトマンズ カトマンズ	バンコク カトマンズ バンコク			中央統計局、貿易振興センター等訪問、カイガート-ラハン道路調査
40	13	月	バンコク→東京	バンコク カトマンズ			カトマンズにおける資料収集、サガルマノ県庁訪問
41	14	火	カトマンズ(5名) カトマンズ→ラハン→ ピラトナガル	ピラトナガル カトマンズ			
42	15	水	ピラトナガル				道路局、ジュートバッグ工場視察
43	16	木	ピラトナガル→ヘクウダ	ヘクウダ カトマンズ			ピラトナガル-ヘクウダ間道路踏査
44	17	金	ヘクウダ→カトマンズ (2名)	カトマンズ			ヘクウダ→カトマンズ
45	18	土	(3名) (2名) カトマンズ→バンコク カトマンズ	バンコク カトマンズ			移動、鉾山局にて打合せ、資料整理、樹丸
46	19	日	バンコク→カトマンズ	カトマンズ			帰国、ヒマールセント視察、道路局訪問
47	20	月					カトマンズにて資料収集
49	22	水	カトマンズ→バンコク	バンコク			移動
50	23	木	バンコク→東京				帰国

4 収支決算費目内訳

1 調査旅費 8,358,606 円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	出張期間 (日数)	① 航空賃	② 支送料	③ 日当			④ 宿泊料			⑤ 旅費雑費	合計 (①~⑤)(円)			
						率	単価(円)	日数	率	単価(円)	日数		計(円)	①	⑤	
1	島谷部長 (総務)	1	40日 1/5~1/18 1/18~1/19	東京-カトマズ (2往復) 643,800円	94,910円	2	3,800	40	152,000	2	11,400	38	433,200	6,355円	1,330	265
2	鎌田俊通 (技術)	2	26日 1/25~1/19	東京-カトマズ(往復) 321,800円	70,070円	2	3,800	26	98,800	2	11,400	25	285,000	4,378円	780	428
3	友近・吉郎 (土木)	2	30日 1/25~1/23	東京-カトマズ(往復) 321,800円	70,070円	2	3,800	30	114,000	2	11,400	29	330,600	6,355円	842	825
4	高橋昭 (経済分析)	2	26日 1/25~1/19	東京-カトマズ(往復) 321,800円	70,070円	2	3,800	26	98,800	2	11,400	25	285,000	4,378円	780	428
5	前田克二 (電気)	2	20日 1/25~1/13	東京-カトマズ(往復) 321,800円	70,070円	2	3,800	20	76,000	2	11,400	19	216,600	4,378円	688	848
6	栗和田務 (探鉱)	2	30日 1/25~1/23	東京-カトマズ(往復) 321,800円	70,070円	2	3,800	30	114,000	2	11,400	29	330,600	3,900円	840	370
7	佐田正重 (地質)	3	40日 1/5~1/13	東京-カトマズ(往復) 322,000円	80,180円	2	3,200	40	128,000	2	9,800	39	382,200	5,400円	917	780
8	田村一誠 (地質)	3	40日 1/5~1/13	東京-カトマズ(往復) 322,000円	80,180円	2	3,200	40	128,000	2	9,800	39	382,200	0円	912	380
9	笠井昇 (化学)	4	23日 1/5~1/26	東京-カトマズ(往復) 322,000円	61,990円	2	3,200	23	73,600	2	9,800	22	215,600	5,877円	619	067
10	佐原允文 (企画調整)	5	20日 1/5~1/13	東京-カトマズ(往復) 321,800円	13,475円	2	3,200	20	64,000	2	9,800	19	186,200	1,500円	586	775
合計				3,540,600円	681,085円	1,047,200円			5,047,200円			42321	8,358	606	81	

II. 現地調査費 813,177 円

費目	円換算 (円)	米トシ	現地通貨		
			Rs	PAT	円
外 甲種寄附上費	75,180	0	3,900	0	
外 通信運搬費	686,570	1,134 ²⁰	1,925 ²⁰	10,277	254,200
外 会議費	34,702		1,775 ⁴²		
外 交換手数料及差控	2,965				
外 計	804,417	1,134 ²⁰	2,600 ²⁰	10,277	254,200
内 事務用品	4,870				
内 医薬品	3,890				
内 計	8,760				
合計	813,177				

III. 技術費 52,460,301 円

(1) 直接人件費

(A) 現地調査

区分 格付	単価(円) (円)	日数 (日)	人	金額 (円)	区分 格付	単価(円) (円)	日数 (日)	人	金額 (円)
2	25,000	23日 500x23	1	478,553	3	21,600	23日 500x23	1	662,400
2	25,000	23日 500x23	1	498,533	3	21,600	23日 500x23	1	662,400
2	25,000	23日 500x23	1	575,000	4	17,200	23日 500x23	1	303,293
2	25,000	23日 500x23	1	575,000	計				4,979,959

(B) 国内設計作業

区分 格付	単価(円) (円)	人 (人)	日数 (日)	金額 (円)
1号	26,800	23日	10	616,400
2号	25,000	23日	34	1,955,000
3号	21,600	23日	36	1,788,480
4号	17,200	23日	43	1,741,080
計				6,060,960

(1) 計 (A) + (B)

11,040,919

(2) 諸経費 11,040,919 円 x 110% =

12,145,010

(3) 技術経費 (11,040,919 円 x 12,145,010 円) x 4%

9,274,372

合計 (1) ~ (3)

32,460,301 円

IV. 附帯費 96,100 円

費目	金額 (円)
会議費	42,300
国内旅費	53,800
合計	96,100

No. 52 - 27

計画申請	昭和53年1月10日 国協(総計) 第1-166号
計画承認	昭和53年1月13日 53通第33号
担当	資源調査課 長畑 貞之

プロジェクト名 ポリヴィア共和国ピラマ川水系水力発電開発計画予備調査

事業段階	区分	経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査	旅費	事前調査	今回で完了

現地調査期間 自昭和53年1月19日
至昭和53年2月11日
調査業務終了日 昭和53年3月31日
総支出経費 15,981,535

1. 調査目的、内容及び結果

(1) 調査目的 ポリヴィア政府は同国社会開発5ヶ年計画(1976年~80年)に含まれる南部水力発電プロジェクトをトッププライオリティをもって検討している。このうち日本政府に対しては、ピラマ川のHuacata地区のフィージビリティ調査を要請してきた。今回の調査は同地区内にてF/Sのため候補地を選定するための予備調査。

(2) 調査内容

- 現地調査
 - (イ) 現状までの調査状況の確認。
 - (ロ) 調査地点の現地状況確認。
 - (ハ) 同国の電力事情と将来計画についての調査。
 - (ニ) 関係機関との打合せ及び必要資料の収集。
- 報告書の作成

(3) 調査結果

(イ) ポリビア南部のトリハ州においては電力が不足しており(現状では一部アルペンチンより輸入している)、ピラマ川に60MW程度の水力発電所の建設する必要がある。これに対するF/Sは十分に価値がある。

(ロ) 調査地点の立地条件が極めて悪く、調査期間は最小2年半を要する。又、調査費用も170万米ドル程となる。内70万米ドルについては測量、ボーリング、岩石試験等でポリヴィア側が負担するべきものである。

(イ) F/S調査にあたっては現地道路設備、資材運搬、医療設備、通信方法などの調査準備業務をポリヴィア側に十分完備させ、調査に着手すべきである。

(ウ) コンサルタント名 西日本技術開発(株)

2. 調査日程

日順	月日	行 程	宿泊地	訪問地客別		調 査 内 容
				日当	宿泊	
1	1/19	東京発(17:00) JL022 SAN FRANCISCO (8:55)	SAN FRANCISCO	甲	甲	出発
2	20	SAN FRANCISCO発(17:50)	機 中			
3	21	Lima発(17:20) LB2721 (14:55) La Paz着	La Paz	乙	乙	日本大使館と調査内容、日程打合せ
4	22					調査国内での打合せ
5	23					石油動力省、企西調査報告表
6	24	La Paz発(17:30) LB287 (18:00) Cochabamba着	Cochabamba			移動
7-9	25-27					Huacata 計画説明 26 ENDE 支那人表紙
10	28	Cochabamba発 → Tarija 着	Tarija			ヘリコプターにて現地視察
11	29	Tarija 発 → Cochabamba 着	Cochabamba			
12	30					Huacata 計画追加説明
13-15	1/31-2/2					資料整理 1/3 本調査計画作成
16	2/3					ENDEとの最終打合せ
17,18	4,5					資料整理
19	6	Cochabamba発(10:40) LB282 (11:45) La Paz着	La Paz			大使館へ報告、最終打合せ
20	7					資料整理
21	8					石油動力省、企西調査報告表に報告 現地視察との打合せ
22	9	La Paz発(12:30) BN278 (12:59) Lima 着	機 中			
23	10	Lima発(11:00) BN278 (16:45) Las Angeles 着 Las Angeles発(17:00)	機 中			
24	11	LA003 (16:25) 東京着	-			帰 国

3. 調査業務収支決算概括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出

(単位：円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	2,981,905	2,957,121
II 現地調査費	1,358,223	289,418
III 技術費	12,282,496	12,282,496
IV 報告書作成費	450,000	450,000
V 附帯費	146,000	2,500
合 計	17,218,624	15,981,535

(ロ) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算受入額	17,218,624
支出総額	15,981,535
収支差引額	1,237,089

(ハ) (イ)の内訳

(単位：円)

区 分	計 画 額 (受入、流用ありの場合)		実 績 額	
	探用調査分	コンサルタント委託分	探用調査分	コンサルタント委託分
I 調査旅費	902,275	2,079,630	888,967	2,068,154
II 現地調査費	1,358,223	0	289,418	0
III 技術費	0	12,282,496	0	12,282,496
IV 報告書作成費	0	450,000	0	450,000
V 附帯費	146,000	0	2,500	0
合 計	2,406,498	14,812,126	1,180,885	14,800,650

4. 収支決算費目内訳

1. 調査旅費 2957121 円

No.	氏名 (姓 名)	招待 (号)	出張期間 (日数)	① 航空賃	② 交際料	③ 日 当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	合 計		
						枚	単価(円)	日数	計(円)	枚	単価(円)		日数	計(円)	(①~⑤)
1	石 外 宏 (総括地費)	1	24日 1/19~2/11	東京 - Cochabamba 596,200円	78,150円	指	4,700	2	9,400	指	14,600	1	14,600	10,502円	1,009,062
						乙	3,800	22	83,600	乙	11,400	19	216,600		
						計		24	93,000	計		20	231,200		
2	藤 田 哲 彦 (土 木)	2	24日 1/19~2/11	東京 - Cochabamba 596,200円	70,070円	指	4,700	2	9,400	指	14,600	1	14,600	9,022円	999,472
						乙	3,800	22	83,600	乙	11,400	19	216,600		
						計		24	93,000	計		20	231,200		
3	長 畑 貞 之 (業 務 調 査)	5	24日 1/19~2/11	東京 - Cochabamba 596,200円	13,475円	指	4,000	2	8,000	指	12,500	1	12,500	2,192円	888,967
						乙	3,200	22	70,400	乙	9,800	19	186,200		
						計		24	78,400	計		20	198,700		
4	藤 田 哲 彦 (国内旅費分)		1/18, 2/11	東京 - 福岡 40,200円		甲	1,600	2	3,200	甲	8,100	2	16,200		59,600
計				1,828,800円	161,705円	267,600円			677,300円			21,716円	2,957,121円		

II. 現地調査費

289,418 円

(注) 66 利 17.1%

費目	円 額 類 (円)	米 卜 ル	現地通貨
			B/D
外 人 費	164,567	490	3,772.60
車 輛 等 借 上 費	0	0	0
交 通 費	8,356	0	659.20
通 信 運 搬 費	54,577	192.10	659.20
習 機 材 等 購 入 費	0	0	0
現 地 報 告 書 作 成 費	0	0	0
会 談 費	23,898	0	1,971
推 薦 費	0	0	0
交 換 手 続 料 及 差 報	28,920	0	0
計	280,318	682.10	7,092
内 貨 品	4,170		
医 薬 品	4,930		
計	9,100		
合 計	289,418		

III. 技術費

12,282,496 円

(1) 直接人件費

(A) 現地調査

区分	格付	単価(人・日)(円)	日数(日)	人	金額(円)
1	(1号)	26,800	23日 30日 x 24	1	493,120
2		25,000	23日 30日 x 24	1	460,000
計					953,120

(B) 国内設計作業

区分	格付	単価(人・日)(円)	日数(日)	金額(円)
1号		26,800	23日 x 24	801,520
2号		25,000	23日 x 24	1,380,000
3号		21,600	23日 x 21	1,043,280
計				3,224,600

(1) の計 (A) + (B) =

4,177,720

(2) 諸経費 4,177,720円 x 110% =

4,595,492

(3) 技術経費 (4,177,720円 + 4,595,492円) x 40% =

3,509,284

合計 (1) ~ (3) =

12,282,496 円

IV. 報告書作成費

450,000 円

費目	金額(円)
印刷製本費	450,000

V. 附帯費

2,500 円

費目	金額(円)
会談費	2,500

No. 52 - 28

計画申請	昭和53年1月13日同協(敏計) 第1-520号
計画承認	昭和53年1月19日 53通第 75号
担当	資源調査課 竹本節生

プロジェクト名 フィリピン共和国 バギオ地区経済公害防止計画調査

事業段階	区分	経費	事業内容	今後の予定
新規		技術調査団派遣費	実施調査(第1次)	継続 (翌年度以降)

現地調査期間 自昭和53年1月22日
至昭和53年2月28日
調査業務完了日 昭和53年3月31日
総支出経費 49,879,944円

1. 調査目的、内容及び結果

<p>(1) 調査目的 比国、バギオ地区鉱山(銅・金)の選鉱廃滓(略して鉱滓)は、ダム又は池に堆積されてきたが、雨期には、しばしば流出し、下流の穀倉地帯を汚染してきた。比国大統領は1970年4月に、大統領令を発し、この問題に特別対策委員会を発足させて、方策を練るよう指示した。数年の検討の結果、比国政府は、この対策として、鉱滓を、トンネル・パイプライン・種いの結合により、約30 Km離れたリングイエン湾へ投棄又は埋立にする計画をたて、そのフィージビリティ・スタディを日本へ要請してきたものである。</p> <p>(2) 調査内容 (a) 鉱山調査：対象6鉱山の内容を調査し、鉱滓処理に対する考え方を聴取する。(b) 比国提案の処理方式につき、提案に対するフィージビリティ・スタディ、又代替に対するフィージビリティ・スタディ</p> <p>(c) 鉱滓堆積場の利用検討：海域を埋立にした時の港湾構築の計画作成</p> <p>(d) 提案の処理方式の多角的利用の検討：精鉱スラリー輸送システムに使用できるかの検討。</p> <p>(3) 調査結果 比国提案のトンネル・パイプライン・溝(TLP)システムを現地調査、国内設計により検討したところ、次の結果を得た。</p>	<p>(a) 陸上部共通ライン全長26 Km内トンネル内購19.7 Km 並びにパイプライン6.3 Km (b) 海域部では次の4護岸方式を提案する。</p> <p>① 捨石式護岸法 ② コルゲート・セル及び捨石堤法 ③ 鉄洋式護岸法 ④ 鉄洋粒度調整式護岸法</p> <p>(c) 建設工事費：合計104億円 - 146億円 (外貨：15億円 - 40億円、内貨：89億円 - 106億円)</p> <p>① 陸上部の共通ライン建設工事費 70億円 (外貨22%、内貨78%)</p> <p>② 海域部護岸工事費</p> <p>イ 捨石方式 26億円 (外貨42%、内貨98%)</p> <p>ロ コルゲートセル方式 64億円 (外貨40%、内貨60%)</p> <p>ハ 鉄洋方式 34.5 (外貨43%、内貨57%)</p> <p>ニ 鉄洋粒度式 35.5 (外貨43%、内貨57%)</p> <p>(d) 年間経費は陸上、海域合計して215億円 - 220億円かかる。</p> <p>(e) 全工事期間は、試運転も含めて3年間である。</p> <p>(4) コンサルタント名 同和エンジニアリング(株)</p>
---	---

2. 調査日程

日数	月日	行程	寄泊地	船位時刻		調査内容
				出	泊	
1	1月25日	竹本調査：東京→マニラ	マニラ	乙	乙	地盤竹本調査移動
2	26	マニラ	マニラ	乙	乙	本調査調査準備
3	27	マニラ	マニラ	乙	乙	本調査調査準備
4	1月30日	本調査調査：東京→マニラ	マニラ	乙	乙	移動
5	1月31日	マニラ	マニラ	乙	乙	移動
6	2月1日	マニラ	マニラ	乙	乙	鉄山宿、関係鉄山へ
7	2月2日	マニラ	マニラ	乙	乙	調査について打合せ
8	2月3日	地質3名：マニラ→バギオ 同級以下10名：マニラ→マリヌク	バギオ マリヌク	乙	乙	移動し、2月21日まで調査、 [1] 宿：スモックパー 鉄山訪問
9	2月4日	竹本調査：マニラ→東京 同級以下9名：マリヌク→マニラ	マニラ	乙	乙	帰国 移動
10	2月5日	マニラ→セブ	セブ	乙	乙	移動
11	2月6日	セブ	セブ	乙	乙	調査：アトラス鉄山
12	2月7日	セブ→マニラ	マニラ	乙	乙	移動
13	2月8日	マニラ→バギオ	バギオ	乙	乙	移動
14	2月9日	バギオ	バギオ	乙	乙	バギオにてプロジェクト予備地
15	2月14日	バギオ	バギオ	乙	乙	鉄山を現地調査
16	2月15日	*同級以下5名：バギオ→マニラ	マニラ	乙	乙	移動しマニラにて関係機関と 20日までに打合せ
17	2月18日	日景：マニラ→バギオ	バギオ	乙	乙	移動 * (日景、森本、 福林、日景)
18	2月19日	新見・森田：バギオ→マニラ	マニラ	乙	乙	移動し、同級ノループに合流打合せ
19	2月21日	マニラ→バギオ	バギオ	乙	乙	移動
20	2月21日	同級、茂木、福林：マニラ→東京	東京	乙	乙	帰国
21	2月21日	地質3名：バギオ→マニラ	マニラ	乙	乙	移動
22	2月23日	マニラ→東京	東京	乙	乙	帰国
23	2月23日	**同級以下5名：バギオ→マニラ	マニラ	乙	乙	移動 ** (新見、本木、森田、 茂木、日景)
24	2月24日	マニラ	マニラ	乙	乙	中間報告書作成と提出
25	2月27日	マニラ	マニラ	乙	乙	中間報告書作成と提出
26	2月28日	マニラ→東京	東京	乙	乙	帰国

(127)

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出

(単位：円)

区分	計画額	実績額
I 調査旅費	6,504,728	6,495,723
II 現地調査費	1,167,359	850,621
III 技術費	41,072,610	41,072,610
IV 報告書作成費	512,000	512,000
V 附帯費	594,000	257,040
合計	49,685,897	49,187,994

(ロ) 収支決算

費用	金額 (円)
概算受入額	49,685,897
支出総額	49,187,994
収支差引額	497,903

(ハ) (イ)の内訳

(単位：円)

区分	計画額 (円)		実績額 (円)	
	特別費	普通費	特別費	普通費
I 調査旅費	1,127,993	5,376,735	1,114,178	5,381,545
II 現地調査費	5,000	1,162,359	5,000	845,621
III 技術費	-	41,072,610	0	41,072,610
IV 報告書作成費	-	512,000	0	512,000
V 附帯費	594,000	0	257,040	0
合計	1,521,993	48,163,904	1,376,218	47,811,776

コンサルタント名 同和エンジニアリング(株)

4. 収支決算費目内訳

1 調査旅費

6,495,723円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	出張期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	合計 (①~⑤)
						単価(円)	日数	計(円)	単価(円)	日数	計(円)		
1	青藤 顯 (総務)	特	23日 1/30~1/31	東京-マニラ 201,000円	86,700円	4,300	23	98,900	13,100	22	288,200	2,095円	676,435
2	鈴木 博生 (技術部)	1	30日 1/30~1/28	東京-マニラ 152,600円	55,830円	3,800	30	114,000	11,400	29	330,600	4,690円	657,920
3	森田 郁夫 (探検)	1	30日 1/30~1/28	東京-マニラ 152,600円	74,910円	3,800	30	114,000	11,400	29	330,600	4,690円	696,800
4	松本 隆夫 (配管)	2	30日 1/30~1/28	東京-マニラ 152,600円	85,090円	3,800	50	114,000	11,400	29	330,600	6,890円	689,180
5	浅海 富彦 (土木)	2	30日 1/30~1/28	東京-マニラ 152,600円	85,090円	3,800	30	114,000	11,400	29	330,600	6,890円	688,980
6	福林 紀之 (港湾)	3	23日 1/30~1/31	東京-マニラ 152,600円	66,030円	3,200	23	73,600	9,800	22	215,600	6,890円	514,720
7	日景 二基 (土木)	3	30日 1/30~1/29	東京-マニラ 152,600円	47,165円	3,200	30	96,000	9,800	29	284,200	5,690円	555,655
8	渡辺 研一 (地質)	3	25日 1/30~1/23	東京-マニラ 152,600円	66,030円	3,200	25	80,000	9,800	24	235,200	4,690円	538,520
9	野王 勉 (地質)	4	25日 1/30~1/23	東京-マニラ 152,600円	61,970円	3,200	25	80,000	9,800	24	235,200	4,690円	534,480
10	松本 泰三 (地質)	6	25日 1/30~1/23	東京-マニラ 152,600円	53,900円	2,700	25	67,500	8,200	24	196,800	4,690円	475,470
11	竹本 節生 (業務調整)	3	11日 1/25~1/11	東京-マニラ 152,600円	8,523円	3,200	11	35,200	9,800	10	98,000	3,820円	298,143
12	沢谷 勝三 (見学)	3	30日 1/30~1/28	0円	0円	3,200	13	41,600	9,800	10	98,000	0円	139,600
計				1,727,000円	710,998円	1,028,800円			2,973,600円			55,525円	6,495,723円

II. 現地調査費

850,621円

費目	円貨額 (円)	米ドル	現地通貨	
			ペ	ソ
備人費	10,038		300	
車輦等借上費	310,818		9,288	
交頭費	203,329		6,076	
通信運搬費	64,251	172.04	670.15	
資材材料購入費	56,405		1,685.60	
現地報告書作成費	3,009		90	
会議費	173,434		5,182.66	
雑費	5,337		159.50	
交換手数料及差損	19,200			
計	845,621	172.04	23,451.91	
円貨分	事務用品	5,000		
	医薬品	0		
計	5,000			
合計	850,621			

III. 技術費

41,072,610円

(1) 直接人件費

(A) 現地調査

区分	単価(人・日)	日数	人	金額		区分	単価(人・日)	日数	人	金額	
				円	米ドル					円	米ドル
1	26,800	23日 50日×30	2	1,232,800		3	21,600	25日 50日×30	1	476,800	
2	25,000	23日 30日×30	2	1,150,000		4	17,700	25日 30日×25	1	329,666	
3	21,600	25日 60日×23	1	380,880		6	9,600	23日 60日×25	1	184,000	
3	21,600	23日 60日×25	1	414,000		合計			9	4,188,146	

(129)

(B) 国内設計作業

区分	単価(人・日)	人・日	金額
1号	26,800	23日×4.5	2,773,800
2号	25,000	23日×4.0	2,300,000
3号	21,600	23日×4.5	2,255,600
4号	17,700	23日×1.2	474,920
5号	13,700	23日×5.5	1,753,050
6号	9,600	23日×1.2	264,960
計		22.9	9,782,130

(1) の計 (A) + (B)

13,970,276

(2) 諸経費 13,970,276円 × 110% =

15,367,303

(3) 技術経費 (13,970,276円 + 15,367,303円) × 40% =

11,735,031

合計 (1)~(3)

41,072,610円

IV. 報告書作成費 512,000円

V. 附帯費 257,040円

費目	金額
基礎資料処理費	512,000

費目	金額
会議費	53,040
その他	204,000
合計	257,040

No. 52 - 29

計画申請	昭和53年1月18日国協(設計)第1-699号
計画承認	昭和53年1月24日 53通第 85号
担当	資源調査課 山本正弘

プロジェクト名 ウガンダ共和国キレンベ銅鉄山開発計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査団派遣費	1. 現地調査 2. 国内製鉄所調査	継続 (翌年度以降)

現地調査期間 自昭和53年1月29日
至昭和53年3月9日
調査業務完了日 昭和53年5月31日
総支出経費 35,759,564

1. 調査目的 内容及び結果

<p>(1) 調査目的 ウガンダ共和国政府の要請にもとづき同国西部バール湖境に近い Ruwenguru 山系にあるキレンベ銅鉄山開発計画に際し 鉱山及び精錬所の資材老朽化等により減少の一途をたどっているため、1) 鉱山においては主として既存資料にもとづき鉱量の把握及び既存する設備の検討を行い具体的な生産計画、設備改善計画及び資金計画を作成する。</p> <p>2) 精錬所においては上記生産計画にもとづいて既存の精錬設備の検討を行い、適正指鉄能力の算定及びそれにもとづく設備導入計画を策定する。</p> <p>(2) 調査内容</p> <p>I) キレンベ銅鉄山に関する調査は ①主として既存資料にもとづいて埋蔵量を再確認する ②採鉱、選鉱、輸送等坑内外の操業状況の診断 ③今後の生産計画の策定及び設備の整備計画の作成</p> <p>II) ジンジャ銅精錬所に関する調査は ①既存する精錬所の診断 ②同精錬所のリハビリテーションを行い三代設備の導入計画及び適正な生産規模の策定</p> <p>III) 総括として ①上記 I) 及び II) にもとづく鉱山及び精錬所の投資計画と F/R の作成 ②キレンベ鉄山会社のマネージメント及び今後の発展等を</p>	<p>含む総合的検討</p> <p>IV) 関連資料の収集</p> <p>(3) 調査結果</p> <p>引続き53年度国内調査を行い報告書を作成する。</p> <p>(4) コンサルタント名 住友金属鉱山(株) 古河鉄業(株)</p>
---	--

2. 調査日程 (銚山班)

日順	月日	曜日	行 程	宿 泊 地	宿 泊 地 別		調 査 内 容
					日 当	宿 泊	
1	1/29	日	東京 → エアポート → ロンドン	ロンドン	甲	甲	
2	30	月	ロンドン	機 中	甲		
3	31	火	→ ナイロビ	ナイロビ	乙	乙	大使館表敬、大使館に於いて打合(大使館、JICA、OECD、調査員)
4	2/1	水	ナイロビ	・	・	・	大使館に於いて打合(大使館、JICA、調査員)
5	2	木	・	・	・	・	現地調査準備
6	3	金	・	・	・	・	現地調査準備
7	4	土	ナイロビ → カンバラ	カンバラ	・	・	工業省表敬
8	5	日	カンバラ	・	・	・	現地調査準備
9	6	月	・	・	・	・	工業省、ウガンダ開発公社表敬、キレンベ銚山との打合せ
10	7	火	カンバラ → ジンジャ → カンバラ	・	・	・	ジンジャ、製錬所視察 (以上、全員)
11	8	水	カンバラ → カセセ	カセセ	・	・	(以下、キレンベ銚山班)
12	9	木	カセセ	・	・	・	キレンベ銚山現地スタッフとの打合せ
13	10	金	・	・	・	・	調査器具点検、届付、資料閲覧等
14	11	土	・	・	・	・	現場調査
15	12	日	・	・	・	・	資料整理
16	13	月	・	・	・	・	現場調査
17	14	火	・	・	・	・	全 上
18	15	水	・	・	・	・	全 上
19	16	木	・	・	・	・	全 上
20	17	金	・	・	・	・	全 上
21	18	土	・	・	・	・	全 上
22	19	日	・	・	・	・	全 上 村電副局長(ジンジャ班)来山 打合せ

日順	月日	曜日	行 程	新 泊 地	通船の船種別		洞 査 内 容
					可 船	船 種	
23	1/20	月	カセセ	カセセ	ス	乙	現場調査
24	21	火	"	"	"	"	全 上
25	22	水	"	"	"	"	全 上
26	23	木	"	"	"	"	全 上
27	24	金	"	"	"	"	全 上
28	25	土	"	"	"	"	全 上
29	26	日	"	"	"	"	全 上
30	27	月	"	"	"	"	全 上 現地報告書、取りまとめ、離山準備等
31	28	火	カセセ — カンバラ	カンバラ	"	"	
32	2/1	水	カンバラ	"	"	"	ウガンダ開発公社へ報告、引送品発送、現地報告書作成
33	2	木	"	"	"	"	工業省表取、報告
34	3	金	"	"	"	"	資料 整理
35	4	土	カンバラ — ナイロビ	ナイロビ	"	"	
36	5	日	ナイロビ	"	"	"	大使館等への報告取りまとめ
37	6	月	"	"	"	"	大使館へ表取、大使館 JICA, OECP へ報告
38	7	火	ナイロビ — パリ	パ リ	指	指	
39	8	水	パリ —	横 中	指	指	
40	9	木	東京	—	乙	指	

調査日程 (精錬所班)

日順	月日	行 程	宿泊地	現地調査日		調 査 内 容
				時	泊	
1	1/29	東京 ——— ロンドン	ロンドン	甲	甲	
2	30	ロンドン	機 中	甲		
3	31	ナイロビ	ナイロビ	乙	乙	大使館表敬、大使館に於て打合せ
4	2/1	ナイロビ	"	"	"	大使館に於て打合せ
5	2	"	"	"	"	現地調査準備
6	3	"	"	"	"	"
7	4	ナイロビ ——— カンパラ	カンパラ	"	"	工業省表敬
8	5	エンテベ	"	"	"	現地調査準備
9	6	"	"	"	"	工業省 開発公社 表敬 キレンベ鉱山と打合せ
10	7	カンパラ ——— ジンジヤ	ジンジャ	"	"	
11	8	ジンジャ	"	"	"	ジンジャ 精錬所調査
15	5	"	"	"	"	
26	23	"	"	"	"	
27	24	ジンジャ ——— カンパラ	カンパラ	"	"	工業省へ概要報告
28	25	カンパラ ——— ナイロビ	ナイロビ	"	"	
29	26	ナイロビ	"	"	"	大使館
30	27	"	"	"	"	JICA MMAJ OECF 報告及び打合せ
31	28	"	"	"	"	
32	3/1	ナイロビ ——— パリ	パ リ	指	指	
33	2	パリ	機 中	"		
34	3	東京	———	乙		

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支 出

(単位：円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	13,250,519	12,398,566
II 現地調査費	1,998,529	1,139,695
III 技 術 費	22,178,221	22,172,583
IV 報告書作成費	0	0
V 附 帯 費	123,000	48,720
合 計	37,550,269	35,759,564

(ロ) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算受入額	37,550,269
支出総額	35,759,564
収支差引額	1,790,705

(ハ) (イ)の内訳

(単位：円)

区 分	調査費、現地調査費の内訳		実 績 額	
	事業団調査費	コンサルタント委託費	事業団調査費	コンサルタント委託費
I 調査旅費	1480,779	11,769,740	1,303,231	11,095,335
II 現地調査費	242,300	1,756,229	154,849	984,846
III 技 術 費	0	22,178,221	0	22,172,583
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附 帯 費	123,000	0	48,720	0
合 計	1,846,079	35,704,190	1,506,800	34,252,764

コンサルタント名 住友金属鉱山(株) 古河鉱業(株)

11. 収支決算費目内訳

I 調査旅費 12,398,566円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	滞日 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	合計 (①~⑤) (円)	
						標準 (円)	日数	計 (円)	標準 (円)	日数	計 (円)			
1	平田洋一 (同 長)	1	40日 1/27~3/9	東京-エンテベ 753,100円	94,910円	指 4,700	2	9,400	14,600	1	14,600	11,949円	1,440,959	
2	岡本 淳 (探 査)	2	40日 1/29~3/9	東京-エンテベ 753,100円	85,090円	指 4,700	2	9,400	14,600	1	14,600	9,739円	1,428,829	
3	大谷 勝裕 (地 質)	2	40日 1/29~3/9	東京-エンテベ 753,100円	85,090円	指 4,700	2	9,400	14,600	1	14,600	10,642円	1,429,732	
4	生永隆久 (選 査)	3	40日 1/29~3/9	東京-エンテベ 753,100円	80,180円	指 4,000	2	8,000	12,500	1	12,500	10,064円	1,339,947	
5	寺 嶋 孝 (機 械)	5	33日 1/29~3/2	東京-エンテベ 736,100円	53,900円	指 4,000	2	8,000	12,500	1	12,500	9,147円	1,204,747	
6	村 尾 頭 三 (特 録)	1	34日 1/29~3/3	東京-エンテベ 801,900円	94,910円	指 4,700	2	9,400	14,600	1	14,600	9,417円	1,395,927	
7	府 野 広 治 (機 械)	1	34日 1/29~3/3	東京-エンテベ 801,900円	74,910円	指 4,700	2	9,400	14,600	1	14,600	9,417円	1,395,927	
8	山 本 喜 久 (電 気)	2	34日 1/29~3/3	東京-エンテベ 801,900円	85,090円	指 4,700	2	9,400	14,600	1	14,600	9,417円	1,386,107	
9	逆瀬川 敏夫 (鉱業事情)	4	17日 3/4~3/20	ナイロビ-エンテベ 24,134円	-円	指 3,700	17	54,400	9,800	16	156,800	2,455円	237,789	
10	山 本 正 弘 (業務調整)	3	26日 1/29~3/23	東京-エンテベ 736,100円	16,507円	指 4,000	2	8,000	12,500	1	12,500	8,035円	1,065,442	
計				6,914,434円	690,587円	1,237,000円			3,393,000円			90,285円	12,398,566円	

Ⅰ. 現地調査費 1,139,695 円

費目	円貨額 (円)	現地通貨		
		ウガンダ シリング	ケニア シリング	
備人費	14,606	480		
車輦等借上費	29,212	960		
通信運搬費	203,995	6,663.20		
資機材等購入費	45,645	1,500		
会議費	145,603	2,832.50	1,886.85	
交換手数料等	34,447			
計	473,508	12,435.20	1,886.85	
円貨分	資機材等運送費	625,070		
	資機材損料	36,197		
	事務用品	4,920		
	計	666,187		
合計	1,139,695			

Ⅲ. 技術費 22,172,583 円

(1) 直接人件費

① 現地調査

区分 格付	単価(人・日)(円)		日数(日)	人	金額(円)		区分 格付	単価(人・日)(円)		日数(日)	人	金額(円)	
	円	シ			円	シ		円	シ			円	シ
1 (号)	26	800	23日 30日×40	1	821	866	1 (号)	26	800	23日 30日×34	2	1,397	172
2	25	000	23日 30日×40	2	1,533	332	2	25	000	23日 30日×34	1	651	666
3	21	600	23日 30日×40	1	662	400							
5	13	700	23日 30日×33	1	346	610	計					5,413	046

② 国内設計作業

区分 格付	単価(人・日)(円)	人・日(人・日)	金額(円)
1号	26 800	23日×0.25	1,541 000
2号	25 000	23日×1.75	1,006 250
3号	21 600	23日×1.75	869 400
4号	17 200	23日×0.25	98 900
計			2,128 650

(1) の計 (A) + (B)

7,541,696

(2) 諸経費 7,541,696円 × 110% =

8,295,864

(3) 技術経費 (7,541,696円 + 8,295,864円) × 40% =

6,335,023

合計 (1)~(3)

22,172,583円

Ⅳ. 附帯費

48,720 円

費目	金額(円)
交通費	22,920
会議費	25,800
備人費	0
国内旅費	0
その他	0
合計	48,720

No. 52-30

計画申請	昭和53年1月20日国協(協計)第1-024号
計画承認	昭和53年1月30日 53通 第110号
担当	工業調査課 名内藤 久敏

プロジェクト名 インドネシア共和国 Aceh 尿素肥料工場新設計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査田家運費	現地調査 国内設計作業	継続 (本年度中 翌年度以降)

現地調査期間 自昭和53年2月5日
至昭和53年3月8日
調査業務完了日 昭和53年3月31日

総支出経費 46,936,686

1. 調査目的、内容及び結果

(1) 調査目的

本プロジェクトは、ASEAN5大工業プロジェクトの1つであり、福田首相ASEAN訪問の際、円借条件として取り上げられたものである。本件に關し、インドネシア政府はF/Sを実施し、その結果、フィージブルであるとして、日本政府に円借を要請した。このF/Sレポートは未だ事前調査の域にあるとして、相互認識のもとに詳細F/Sを実施するものである。

(2) 調査内容

現地調査及び中間レポート作成まで行い、最終レポートの作成は53年度に託すものである。

(3) 調査結果

- 生産品目および生産予定規模
アンモニア: 1000t/day, 尿素 1725t/day
- 工場立地はスマトラ島 アチ州ロクスマウエ LNG フラントの近郊

- 原料はアレンガス田より産出する天然ガス、生産ガスは、LNG用として、42"パイプラインを通じLNGプラントに供給され、その一部を肥料用として使用する。
- 生産開始予定 1982年7月
- 計画の実施主体: インドネシア政府 60%、その他のASEAN諸国 40%の出資比率による合弁会社を設立。
- 製品の販売はASEAN各国(インドネシアをのぞく)が、必要に応じ引取りを行う。各国引取後の残量については、インドネシア政府が全量引取る。
- 以上の基本的事項により、53年度国内作業によりフィージビリティの可否を決定する。
- コンサルタント名 (社)日本コンサルタント協会

2 調査日程

日順	月日	行 程	宿泊地	格別/種別		調 査 内 容
				日当	宿泊	
1	7/5	東京	ジャカルタ	乙	乙	
2	6					日本大使館、JICA事務所、工業省表敬
3	7					工業省との打合せ
4	8					ASEAN事務所、Mikas訪問、資料収集
5	9					関係各省訪問、資料収集会議
6	10					
7	11					
8	12					市場調査班、ガス班、海洋及び陸上インフラ、技術班の4班に分木
						サイト調査
24	28					
25	31					中間レポートの作成及び日本大使館との打合せ、中間レポートの提出及び説明、工業省、日本大使館表敬
26	2					
27	3					
28	4					
29	5	ジャカルタ ← シンガポール 東京	シンガポール			植木田長他2名と共し、帰国
30	6					メンテナンス設備に関する調査
31	7					
32	8	シンガポール → 東京				帰国

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出 (単位：円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	10,963,297	10,621,343
II 現地調査費	2,273,687	1,710,819
III 技術費	34,594,634	34,590,844
IV 報告書作成費	0	0
V 附帯費	313,500	13,680
合 計	48,145,118	46,936,686

(ロ) 収支決算

責 用	金 額 (円)
概算収入額	48,145,118
支出総額	46,936,686
収支差引額	1,208,432

(ハ) (イ)の内訳 (単位：円)

区 分	計画額(実業・流用ある場合は0額)		実 績 額	
	実業田直管分	コンサルト委託分	実業田直管分	コンサルト委託分
I 現地旅費	1,030,767	9,932,530	927,908	9,693,435
II 現地調査費	20,000	2,253,687	8,450	1,702,169
III 技術費	0	34,594,634	0	34,590,844
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	313,500	0	13,680	0
合 計	1,364,267	44,780,851	950,238	45,986,448

コンサルタント名 (社) 日本フロント協会

4. 収支決算費目内訳

1. 調査旅費 10,621,343 円

No.	氏名 (担当)	格付 (等)	派遣期間 (日数)	① 航空貨	② 支度料	③ 日 当			④ 宿 泊 料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤)(円)		
						地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)			日数	計(円)
1	榎本 茂夫 (田 長)	特	32日 2/5~2/8	東京-ジャカルタ-バンバン ジャカルタ-メダン-ジャカルタ 337,800円	21,560円	2	4,300	32	137,600	2	12,100	31	406,100	6,677円	909,737
2	坂梨 晶保 (市場調査)	2	29日 2/5~2/8	東京-ジャカルタ-クワリンジャ ジャカルタ-マララ-バンゴク 468,900円	70,070円	2	3,800	29	110,200	2	11,400	28	319,200	9,399円	977,769
3	猪岡 哲夫 (市場調査)	3	29日 2/5~2/8	東京-ジャカルタ-シンガポール クワリンジャ-東京 278,500円	66,030円	2	3,200	29	92,800	2	9,800	28	274,400	8,807円	720,537
4	前野 昌平 (フロント)	3	32日 2/5~2/8	東京-ジャカルタ-メダン シンガポール-ジャカルタ 326,200円	66,030円	2	3,200	32	102,400	2	9,800	31	303,600	6,704円	805,134
5	稲貫 祥三 (立地 ユーティリティ)	3	29日 2/5~2/8	東京-ジャカルタ-バンバン メダン-ジャカルタ ジャカルタ-シンガポール-東京 337,800円	66,030円	2	3,200	29	92,800	2	9,800	28	274,400	7,092円	778,122
6	西田 善治 (ガス)	3	29日 2/5~2/8	東京-ジャカルタ-メダン シンガポール-ジャカルタ 326,200円	66,030円	2	3,200	29	92,800	2	9,800	28	274,400	9,065円	768,495
7	早田 和郎 (陸上インフラ)	3	29日 2/5~2/8	東京-ジャカルタ-バンバン ジャカルタ-メダン-ジャカルタ シンガポール-東京 337,800円	66,030円	2	3,200	29	92,800	2	9,800	28	274,400	6,100円	777,130
8	渡部 健之助 (海上インフラ)	3	29日 2/5~2/8	東京-ジャカルタ-バンバン ジャカルタ-メダン-ジャカルタ シンガポール-東京 337,800円	66,030円	2	3,200	29	92,800	2	9,800	28	274,400	6,100円	777,130
9	宮内 恒雄 (海上インフラ)	5	32日 2/5~2/8	東京-ジャカルタ-メダン シンガポール-ジャカルタ 326,200円	59,900円	2	3,200	32	102,400	2	9,800	31	303,600	6,904円	793,204
10	辻原 大四郎 (ガス)	2	29日 2/5~2/8	東京-ジャカルタ-メダン シンガポール-ジャカルタ 326,200円	70,070円	2	3,800	29	110,200	2	11,400	28	319,200	7,500円	833,170

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	滞在期間 (日数)	① 航空費	② 交際料	③ 日当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	合計 (①~⑤) (円)		
						地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)			日数	計(円)
11	入江 康介 (賄当・法制)	1	29日 3/5~3/5	東京→ジャカルタ シンガポール 271,800円	78,160円	地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)	日数	計(円)	8,892円	788,252
12	嘉味田 朝俊 (資金)	4	29日 3/5~3/5	東京→ジャカルタ→マニラ シンガポール→ジャカルタ 326,200円	61,990円	地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)	日数	計(円)	9,365円	764,755
13	浦島 将年 (企画)	5	10日 3/5~3/14	東京→ジャカルタ→マニラ マニラ→ジャカルタ 271,700円	26,950円	地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)	日数	計(円)	0円	418,850
14	長沢 幸敏 (業務調査)	2	10日 3/5~3/18	東京→ジャカルタ→マニラ マニラ→ジャカルタ 298,900円	8,258円	地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)	日数	計(円)	0円	509,058
合計				4,572,000円	787,638円	1,315,000円			3,854,100円			92,605円	10,621,343		

II 現地調査費 1,710,819 円

費目	円貨額(円)	US ドル	現 地 通 貨				
			1円=100 Rp	1円=100 Mv	1円=100 P	1円=100 L	1円=100 K
車両準備上費	649,448	0	1026.441	85.82	930	815.82	0
通信運搬費	150,549	492.25	15,850	0	0	71.55	161.82
資機材等購入費	167,320		281,615	10.82	108	0	0
現地報告書作成費	81,306		132,200	0	0	0	0
会議費	541,528	2.52	900,180	26.82	572	0	0
雑費	66,420		88,345	42.82	237.20	198.22	4.82
交換手数料及差損	45,578						
計	1,702,169	496.25	2,449,631	163.46	1,849.30	1,084.84	165.82
研貨分	事務用品	8,650					
計	8,650						
合 計	1,710,819						

III 技術費 34,590,844 円

(1) 直接人件費

④ 現地調査

区分 格付	単価(人・日) (円)	日数(日)	人	金額	区分 格付	単価(人・日) (円)	日数(日)	人	金額(円)
1	26,800	23日/30日×29	1	595,853	計				6,338,491
2	25,000	23日/30日×29	2	1,111,666					
3	21,600	23日/30日×29	5	2,401,200					
3	21,600	23日/30日×32	1	529,920					
4	17,200	23日/30日×29	1	382,413					

⑤ 国内設計作業

区分 格付	単価(人・日) (円)	人・月 (人・月)	金額 (円)
特(8)	40,000	23日×1.0	920,000
1号	26,800	23日×2.5	1,541,000
2号	25,000	23日×2.2	1,265,000
3号	21,600	23日×6.5	3,229,200
4号	17,200	23日×1.0	395,600
5号	13,700	23日×1.0	315,100
計		14.2	7,665,900

(1)の計(④)+(⑤)

14,004,391

(2) 諸経費 14,004,391円 × 90% =

12,603,951

(3) 技術経費 (14,004,391円 + 12,603,951円) × 30% =

7,982,502

合 計(1)~(3)

34,590,844 円

V 附帯費

13,680 円

費目	金額(円)
交通費	9,180
会議費	4,500
合 計	13,680

No. 52 - 31

プロジェクト名 ケニア共和国木材加工業近代化計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	/ 技術調査団派遣費	実地調査	継続

計画申請	昭和53年1月21日 国協(経計)第1078号
計画承認	昭和53年2月1日 53通 第125号
担当	工業調査課 名 岡 栄一

現地調査期間 自昭和53年2月3日
至昭和53年3月3日

調査業務完了日 昭和53年3月3日

総支出額 21,272,099

1. 調査目的、内容及び結果

<p>(1) 調査目的</p> <p>現在ケニア国内には250近い製材所があり操業中であるが、設備の非近代性、木材加工技術の未成熟等の理由で十分な発展が不可能な状況にあり、日本の協力により、木材加工業の近代化を奨励したい意向であり、この要請に応じて調査団を派遣したものである。</p> <p>(2) 調査内容</p> <p>① ケニア木材工業の現状把握</p> <p>② ケ側の指定するノミ工場の改良計画作成</p> <p>③ 木材加工業の近代化計画及び木材開発方針の調査、戦略の提示</p> <p>(3) 調査結果 最終的な結論は、53年度以降の国内作業を基にしての分析の結果を待たねばならないが、中間時点での主たる調査結果は以下の通りである。</p>	<p>① 製材所の近代化は主として機械設備の改良により、製品歩留の向上、品質の向上が期待できる。</p> <p>② 新産業の導入可能性については、廃材を利用したフリケットの生産、パーティクルボードの生産、コシ加工品としての紅茶用の茶箱、木工業等が考えられるが、フィージビリティは、53年度の国内作業の分析に待たねばならない。</p> <p>③ 木材開発方針については、販売ルート、整備原料搬送窓口の一本化等、協同組合的要素も考慮しなければならない。</p> <p>(4) コンサルタント名 (社) 日本林業技術協会</p>
---	---

2. 調査日程

日順	月日	行 程	宿泊地	指 甲 乙 地 別		調 査 内 容
				日台	船泊	
1	2/3	東京発	機中	乙		
2	4	フランクフルト	機中	甲		
3	5	ナイロビ着	ナイロビ	乙	乙	
4	6		"	"	"	大使館、JICA事務所参観
5	7		"	"	"	ケニア政府機関参観、打合せ
			"	"	"	ナイロビ、ケマラン、キリマンジャロ、ニヤフルル
			"	"	"	ニエリ、アバテア、ムルエに於て
			"	"	"	調査
			"	"	"	
			"	"	"	2/23 川辺停留
23	2/25		ナイロビ	"	"	中間報告書作成作業
24	26		"	"	"	
25	27		"	"	"	大使館と中間報告書の検討
26	28		"	"	"	大蔵省で報告会
27	3/1	ナイロビ→ロンドン	ロンドン	甲	甲	
28	2	ロンドン発	機中	甲		
29	3	東京着	—	乙		

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(i) 支出

(単位：円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	9,500,932	7,468,668
II 現地調査費	1,904,255	698,378
III 技術費	11,096,503	11,096,503
IV 報告書作成費	0	0
V 附帯費	160,000	8,550
合 計	22,661,690	21,272,099

(ii) 収支決算

費 用	金 額
概算受入額	22,661,690
支出総額	21,272,099
収支差引額	1,389,591

(iii) (i)の内訳

(単位：円)

区 分	計画額(受取流用ある場合はその額)		実 績 額	
	事業団直営分	コンサルタント委託分	事業団直営分	コンサルタント委託分
I 調査旅費	2,623,060	6,877,872	2,612,298	4,856,370
II 現地調査費	10,000	1,894,255	4,140	694,238
III 技術費	0	11,096,503	0	11,096,503
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	160,000	0	8,550	0
合 計	2,793,060	19,868,630	2,624,988	18,647,111

コンサルタント名 (社) 日本林業技術協会

4. 収支決算費目内訳

I 調査旅費

9,468,668円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	① 航空費	② 交際料	③ 日 当			④ 宿 泊 料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤)円		
						地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)			日数	計(円)
1	繁 沢 静 夫 (総 括)	1	29日 7/3 ~ 7/31	東京 - ナイロビ往復 (エコノミー) 852,600円	94,910円	甲	4,200	3	12,600	甲	12,700	1	12,700		
						乙	3,800	26	98,800	乙	11,400	24	273,600		
							計	29	111,400			25	286,300	6,420円	1,351,630
2	堀 正 之 (森林資源)	1	29日 7/3 ~ 7/31	東京 - " 852,600円	94,910円	甲	4,200	3	12,600	甲	12,700	1	12,700		
						乙	3,800	26	98,800	乙	11,400	24	273,600		
							計	29	111,400			25	286,300	5,220円	1,350,430
3	野 田 茂 (木材加工)	1	29日 7/3 ~ 7/31	東京 - " 852,600円	94,910円	甲	4,200	3	12,600	甲	12,700	1	12,700		
						乙	3,800	26	98,800	乙	11,400	24	273,600		
							計	29	111,400			25	286,300	6,069円	1,353,279
4	松 原 一 夫 (経営管理)	1	29日 7/3 ~ 7/31	東京 - " 852,600円	94,910円	甲	4,200	3	12,600	甲	12,700	1	12,700		
						乙	3,800	26	98,800	乙	11,400	24	273,600		
							計	29	111,400			25	286,300	10,430円	1,355,640
5	川 辺 皓 一 郎 (農林技術)	2	20日 7/4 ~ 7/23	東京 - " 852,600円	70,070円	甲	4,200	2	8,400						
						乙	3,800	18	68,400	乙	11,400	15	171,000		
							計	20	76,800			15	171,000	13,700円	1,184,170
6	鬼 玉 敏 弘 (製材工場改良)	3	29日 7/3 ~ 7/31	東京 - " 852,600円	80,180円	甲	3,500	3	10,500	甲	10,900	1	10,900		
						乙	3,200	26	83,200	乙	9,800	24	235,200		
							計	29	93,700			25	246,100	8,720円	1,281,300
7	佐 藤 孝 之 (マーケティング)	3	23日 7/6 ~ 7/28	東京 - " 0円	0円	乙	3,200	23	99,600	乙	9,800	22	215,600	0円	289,200
8	青 木 正 志 (業務調整)	5	29日 7/3 ~ 7/31	東京 - " 852,600円	65,450円	甲	3,500	3	10,500	甲	10,900	1	10,900		
						乙	3,200	26	83,200	乙	9,800	24	235,200		
							計	29	93,700			25	246,100	1,169円	1,259,019
合 計				5,968,200円	595,340円	783,400円			2,024,000円			53,728円	9,424,668		

赴滞在
国内旅費

新大阪 ↔ 東京 (新幹線)
12,300円 × 2 × 14 = 346,600円

日当 (1根) 1,600円 × 2日 × 14 = 44,800円
宿泊費 (1) 8,100円 × 2泊 × 14 = 226,800円
(143) (計) 44,000円

9,424,668 + 44,000
= 9,468,668

II 現地調査費

698,378円

費目	円金額(円)	現地通貨 シリング	
外貨	車輦等備上費	397,868	12,049 ⁴⁵
	通信運搬費	1,519	46 ⁰⁰
	資料機等購入費	83,953	2,542 ⁵⁵
	会議費	185,740	5,625 ²⁵
	雑費	5,868	177 ²⁰
	交換手数料及差損	19,290	17 ⁵⁵
	計	694,238	20,458 ⁰⁰
円貨	事務用品	4,140	
	計	4,140	
合計	698,378		

III 技術費

11,096,503円

(1) 直接人件費

① 現地調査

区分 格付	単価(人・日) (円)	日数 (日)	人	金額
1 (B)	26,800	238/30日 X 29	3	1,787,559 ✓
2	25,000	238/30日 X 20	1	383,333 ✓
3	21,600	238/30日 X 29	1	460,240 ✓
3	21,600	238/30日 X 23	1	380,880 ✓
計			6	3,032,012

② 国内設計作業

区分 格付	単価(人・日) (円)	人・月 (人・日)	金額(円)
1号	26,800	238日 X 1.5	924,600
2号	25,000	238日 X 0.5	287,500
3号	21,600	238日 X 0.5	248,400
計		2.5	1,460,500

(1)の計(①+②)

4,492,512

(2) 諸経費 4,492,512 X 90% =

4,043,260

(3) 技術経費 (4,492,512 + 4,043,260) X 30% =

2,560,791

合計(1)~(3)

11,096,503

円附帯費

8,550円

費目	金額(円)
会議費	8,550

No. 52 - 32

プロジェクト名 サウジアラビア王国海水淡水化技術協力計画事前調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査団派遣費	事前調査(第1次)	継続 翌年度以降

計画申請	昭和53年2月8日国協(総計)第2-448号
計画承認	昭和53年2月14日 53通第107号
担当	総工業計画課 名 高木 繁

現地調査期間 自昭和53年2月18日
至昭和53年2月25日

調査業務完了日 昭和53年3月31日

総支出経費 2,318,207円

1. 調査目的、内容及び結果

(1) 調査目的

サウジアラビアは、アラビアは1976年より第2次5年計画に入り、工業化を大規模に進めるにあたり、大量の工業用水を必要としており、また都市への労働者の集中それに付随する人口の増加の為、大量の水需要が見込まれている。雨の少ない当地では、大規模な海水淡水化による淡水の供給が必要であり、海水淡水化公団は、海水淡水化技術の向上を計るために、日本の技術協力を要請してきた。

(2) 調査内容

海水淡水化技術協力計画について、サウジアラビア政府関係機関と事前協議する。

(3) 調査結果

次の点について協議した

- 1) 予算措置
- 2) 実施体制
- 3) 日・サ間の協力分野の確定
- 4) 日・サ協力の取り決めの提案
- 5) R/Dの内容と調印の時期

(4) コンサルタント名

直 營

2 調査日程

日順	月日	行 程	宿泊地	階級別		調 査 内 容
				甲	乙	
1	2月18	東京→ロンドン	ロンドン	甲	甲	移動
2	2月19	ロンドン→ジエッタ	ジエッタ	甲	乙	移動
3	20	ジエッタ	"	乙	"	表敬・打合せ：大使館、海水淡水化公園
4	21	"	"	"	"	打合せ会議：海水淡水化公園
5	22	"	"	"	"	"
6	23	ジエッタ→アエート	機 中	"	"	移動
7	24	バンコク	バンコク	"	乙	打合せ会議：在タイ日本大使館
8	25	バンコク→東京	—	"	"	帰国

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出

(単位：円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	2,302,888	2,184,468
II 現地調査費	295,426	104,719
III 技術費	0	0
IV 報告書作成費	75,000	0
V 附帯費	99,500	29,020
合 計	2,772,814	2,318,207

(ii) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算受入額	2,772,814
支出総額	2,318,207
収支差引額	454,607

(ii) (イ)の内訳

(単位：円)

区 分	計 画 額		実 績 額	
	事業団直営分		事業団直営分	
I 調査旅費	2,302,888		2,184,468	
II 現地調査費	295,426		104,719	
III 技術費	0		0	
IV 報告書作成費	75,000		0	
V 附帯費	99,500		29,020	
合 計	2,772,814		2,318,207	

4 収支決算費目内訳

I 調査旅費

2,184,468円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日 当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)		
						成城	単価(円)	日数	計(円)	成城	単価(円)			日数	計(円)
1	佐伯 嘉彦 (団 長)	2	8日 2/18~2/25	東京-ソエッ 601,000円	8,758円					特	855	4	3,420	468円	714,546
						甲	4,200	2	8,400	甲	12,700	1	12,700		
						乙	3,800	6	22,800	乙	11,400	5	57,000		
						計			31,200	計			73,120		
2	後藤 藤太郎 (海水炭水化技術)	1	8日 2/18~2/25	東京-ソエッ 601,000円	39,080円					特	382	4	1,528	2,868円	745,376
						甲	4,200	2	8,400	甲	12,700	1	12,700		
						乙	3,800	6	22,800	乙	11,400	5	57,000		
						計			31,200	計			71,228		
3	長田 直俊 (企 画)	5	8日 2/18~2/25	東京-ソエッ 601,000円	26,950円					特	1,982	4	7,928	2,568円	724,546
						甲	3,500	2	7,000	甲	10,900	1	10,900		
						乙	3,200	6	19,200	乙	9,800	5	49,000		
						計			26,200	計			67,828		
合 計				1,803,000円	74,788円	88,600円			212,176円			5,904円	2,184,468円		

II 現地調査費

104,719円

費目	円貨額 (円)	現地通貨	
		サウジ・リヤル	
外貨 分	備人費	3,476	50
	車輦等借上費	73,000	1,050
	会議費	12,444	179
	交換手数料取戻	6,979	0
	計	95,899	1,279
円貨 分	事務用品	4,950	
	医薬品	3,870	
	計	8,820	
合計	104,719		

III 附帯費

29,020円

費目	金額 (円)
会費	29,020

No. 52 - 33

計画申請	昭和53年2月3日 国協(統計)第2-114号
計画承認	昭和53年2月23日 53通第166号
担当	資源調査課 竹本 節生

プロジェクト名 インドネシア共和国エネルギーデータバンク計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査団派遣費	事前調査(第1次)	継続 (翌年度以降)

現地調査期間 自昭和53年2月28日

至昭和53年3月12日

調査業務完了日 昭和53年3月31日

総支出経費 5,806,007円

1. 調査目的、内容及び結果

<p>(1) 調査目的 インドネシア共和国の国営石油ガス公社から在インドネシア日本大使館宛発信されたエネルギーデータバンク設置に関する技術協力要請に対し、①相手方の要請の詳細確認 ②入手可能なデータの確認 ③利用可能なコンピュータの技術要員の動員可能性、等のデータバンク設置の為の基本約諾条件の確認を行なう。</p> <p>(2) 調査内容 ①インドネシア側関係機関(大統領領府、鉱山省、工業省)の本件に対する考え方の確認 ②本件についてのインドネシア側カウンターパート、予算の対応体制の確認 ③本件について、ババナス計画書、1977-78年版に等けられているか否かの調査 ④本件のデータに、各々の整備状況につき見通しを得ること ⑤インドネシア側と協議した結果を討議録として文書化する。</p>	<p>(3) 調査結果 (1) インドネシア側の要請内容は2種類ある。1つは、エネルギー開始に関するデータバンクシステムの作成であり、他の1つは、石油の探査開発に関するデータバンクシステムの作成である。(2) カウンターパートは、前者は鉱山省石油ガス総局、後者はフルタミナ探鉱、生産局である。(3) ババナス(国家開発庁)の対外援助要請リストに本件を掲載する。又、a. エネルギー開始データバンクシステム、b. 石油探鉱、生産データバンクシステムの2分類で大統領府技術調整委員会を直じ日本政府に正式要請書を提出する。(4) 日本政府は、当予備調査の結果により、具体的なScope of Workを作成し、インドネシア側に提出し、協議の為調査団を派遣する。(5) 討議録は英文化した。</p> <p>(4) コンサルタント名 直営</p>
---	--

2 調査日程

日順	月日	行 程	宿泊地	指 甲 乙 地 等 別		調 査 内 容
				日 台	宿 泊	
1	2/26	東京 → ジャカルタ	ジャカルタ	乙	乙	移動
2	2/27	ジャカルタ	ジャカルタ	乙	乙	会議：国営石油ガス公社
3	2/28	ジャカルタ	ジャカルタ	乙	乙	会議：国営石油ガス公社
4	2/29	ジャカルタ	ジャカルタ	乙	乙	： 鉱山省
5	2/30	ジャカルタ	ジャカルタ	乙	乙	： パペナス
6	3/1	ジャカルタ → バンドン	バンドン	乙	乙	移動
7	3/2	バンドン	バンドン	乙	乙	会議：地質調査所
8	3/3	バンドン → ジャカルタ	ジャカルタ	乙	乙	移動
9	3/4	ジャカルタ	ジャカルタ	乙	乙	会議：国営石油公社
10	3/5	ジャカルタ	ジャカルタ	乙	乙	会議：国営石油公社
11	3/6	ジャカルタ	ジャカルタ	乙	乙	会議：国営石油公社
12	3/7	ジャカルタ	ジャカルタ	乙	乙	： 討議條のまとの
13	3/8	ジャカルタ → 東京	東京	乙	乙	移動

3 調査業務収支決算総括表

(イ) 収支決算総括表

(1) 支 出

(単位：円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	2,814,706	2,764,977
II 現地調査費	443,411	398,743
III 技術費	2,411,087	2,411,087
IV 報告書作成費	150,000	176,200
V 附帯費	225,000	55,000
合 計	6,044,204	5,806,007

(ロ) 収支決算

買 用	金 額 (円)
概算貸入額	6,044,204
支出総額	5,806,007
収支差引額	238,197

(ハ) (イ)の内訳

(単位：円)

区 分	計 画 額 (受入・流用ある場合は20%)		実 績 額	
	事業田直管分	コンサルト委託分	事業田直管分	コンサルト委託分
I 調査旅費	2,814,706	0	2,764,977	0
II 現地調査費	443,411	0	398,743	0
III 技術費	2,411,087	0	2,411,087	0
IV 報告書作成費	150,000	0	176,200	0
V 附帯費	225,000	0	55,000	0
合 計	6,044,204	0	5,806,007	0

I 調査旅費

2,764,977 円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	出張期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日 当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)		
						地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)			日数	計(円)
1	平田 辰一郎 (総 括)	3	13日 2/28~3/12	東京-ジャカルタ 271,800円	33,015円	2	3,200	13	41,600	2	9,800	12	117,600	1,000円	465,015
2	向井 保 (情報処理)	3	13日 2/28~3/12	東京-ジャカルタ 271,800円	8,253円	2	3,200	13	41,600	2	9,800	12	117,600	1,557円	440,810
3	田辺 利男 (エネルギー資源 開発調査データ)	6	13日 2/28~3/12	東京-ジャカルタ 271,800円	26,950円	2	2,700	13	35,100	2	8,200	12	98,400	4,557円	436,807
4	富 舘 孝天 (エネルギーモフル)	2	13日 2/28~3/12	東京-ジャカルタ 271,800円	35,035円	2	3,800	13	49,400	2	11,400	12	136,800	0円	493,035
5	田中 龍 忠夫 (エネルギー資源 開発調査データ)	4	13日 2/28~3/12	東京-ジャカルタ 271,800円	30,995円	2	3,200	13	41,600	2	9,800	12	117,600	0円	461,995
6	藤 田 賢 (業務調整)	2	13日 2/28~3/12	東京-ジャカルタ 271,800円	8,758円	2	3,800	13	49,400	2	11,400	12	136,800	557円	467,315
	合 計			1,630,800	143,006			258,700			724,800		7,671	2,764,977	

II 現地調査費

398,743 円

費目	円貨額 (円)	現地通貨	
		ルピー	
外貨			
車輦等借上費	132,240	228,000	
買換枚等購入費	44,573	76,850	
現地報告書作成費	4,727	8,150	
会議費	200,392	345,505	
交換手数料及差額	6,921	0	
計	388,853	658,505	
円貨			
事務用品	4,980		
送薬品	4,910		
計	9,890		
合計	398,743		

III 技術費

2,411,087 円

(1) 直接人件費

(A) 現地調査

区分	単価 (人・日)	日数 (日)	人	金額 (円)
2号	25,000	238/30日 X 13	1	249,166
4号	17,200	238/30日 X 13	1	171,426
計				420,592

(B) 国内設計作業

区分	単価 (人・日)	人・月	金額 (円)
2号	25,000	238 X 0.5	267,500
4号	17,200	238 X 0.5	197,800
計			465,300

(1) の計 (A) + (B)

905,892

(2) 諸経費

536,666 円 X 90% = 482,997
369,226 円 X 110% = 406,148

889,147

(3) 技術経費

536,666 円 + 482,997 円 X 30%
369,226 円 + 406,148 円 X 40%

616,048

合計 (1) ~ (3)

2,411,087 円

IV 報告書作成費

176,200 円

V 附帯費

55,000 円

費目	金額 (円)
報告書原稿作成費	176,200

費目	金額 (円)
交通費	20,000
会議費	35,000
合計	55,000

No. 52 ~ 34

プロジェクト名: タイ国王 MzeMoh 肥料工場修復計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査団派遣費	実地調査	継続 翌年度以降

計画申請	昭和53年2月8日 園吻(総計)第2-397号
計画承認	昭和53年2月16日 53通 第197号
担当	工業調査課 氏名 内藤久敏

現地調査期間 自昭和53年2月19日

至昭和53年3月18日

調査業務完了日 昭和53年3月31日

総支出経費

12,975,566

1 調査目的、内容及び結果

(1) 調査目的

タイ国王化学肥料会社のメーモー工場は、操業率30%まで落ち込み、全般的な修復を必要としている。

操業率を上げるためには、根本的設備の修復を行うこととなるが、本調査では、その修復に先立ち、修復計画書を作成し、タイ側に提示することを目的とする。

(2) 調査内容 1) フラント基本設計調査

- 2) 過去の操業実績調査
- 3) 各フラント毎の問題点抽出
- 4) 工場安全対策調査
- 5) 機器の概略調査
- 6) 開放点検準備
- 7) 保全工場調査

(3) 調査結果

- i) タイ国にとってCFCメーモー工場の存続は是非必要である。
- ii) 比較的短期間に工場を改善してその年間生産量が損益分岐点を越える程度に増産することは可能である。
- iii) 工場の寿命についてはさらに詳細な調査(開放点検)により確認しなくてはならない。

フラントの規模 (設備能力)

アンモニア	30,000 t/year
硫酸	45,000 t/year
尿素	25,350 t/year
硫酸	57,600 t/year

(4) コンサルタント名 三井東圧化学(株)

2. 調査日程

日順	月日	行 程	宿泊地	宿 泊 地 等 別		調 査 内 容
				日 当	宿 泊	
1	2/19	東京 → バンコク	バンコク	2	2	日本大使館 JICA 事務所表敬
2	20					CFC と打合せ
3	21	バンコク → ランパン	メーモ			メーモ工場幹部と打合せ
4	22					過去の操業実績調査 名プラン
						1 毎の問題点抽出、安全対策
						調査開放点検のための基礎調
						査
24	2/14					
25	15	ランパン → バンコク	バンコク			日本大使館 JICA 事務所報告
26	16					CFC と打合せ
27	17					
28	18	バンコク → 東京				帰 国

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出

(単位:円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	5,167,888	5,150,433
II 現地調査費	426,885	426,025
III 技術費	7,377,788	7,377,788
IV 報告書作成費	0	0
V 附帯費	120,000	21,320
合 計	13,094,361	12,975,566

(ロ) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算収入額	13,094,361
支出総額	12,975,566
収支差引額	118,795

(ハ) (イ) の内訳

(単位:円)

区 分	計画額(受取、流用がある場合はこの額)		実 績 額	
	事業団直営分	コンサルタント委託分	事業団直営分	コンサルタント委託分
I 調査旅費	423,448	4,744,240	414,193	4,736,240
II 現地調査費	47,875	379,010	47,015	379,010
III 技術費	0	7,377,788	0	7,377,788
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	120,000	0	21,320	0
合 計	591,323	12,503,038	482,528	12,493,038

コンサルタント名 三井東洋化学(株)

4. 収支決算費目内訳

I 調査旅費

5,150,433 円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	合計 (①~⑤) (円)		
						地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)			日数	計(円)
1	徳永豊治 (団 長)	1	28日 2/19~3/18	東京-バンコク-ランパン 233,500円	94,970円	乙	3,800	28	106,400	乙	11,400	27	307,800	0円	742,610
2	神代 尊 (プ ロ セ ス)	3	28日 2/19~3/18	東京-バンコク-ランパン 233,500円	80,180円	乙	3,200	28	89,600	乙	9,800	27	264,600	10,000円	677,880
3	中嶋正規 (保 全)	5	28日 2/19~3/18	東京-バンコク-ランパン 233,500円	65,450円	乙	3,200	28	89,600	乙	9,800	27	264,600	10,000円	663,150
4	山上 憲 男 (計 測)	5	28日 2/19~3/18	東京-バンコク-ランパン 233,500円	65,450円	乙	3,200	28	89,600	乙	9,800	27	264,600	10,000円	663,150
5	瀬戸清光 (計 測)	5	28日 2/19~3/18	東京-バンコク-ランパン 233,500円	65,450円	乙	3,200	28	89,600	乙	9,800	27	264,600	10,000円	663,150
6	殿元繁治 (検 査)	5	28日 2/19~3/18	東京-バンコク-ランパン 233,500円	65,450円	乙	3,200	28	89,600	乙	9,800	27	264,600	10,000円	663,150
7	江崎友治 (検 査)	5	28日 2/19~3/18	東京-バンコク-ランパン 233,500円	65,450円	乙	3,200	28	89,600	乙	9,800	27	264,600	10,000円	663,150
8	下道 昌 久 (業 務 調 整)	4	14日 2/19~3/4	東京-バンコク-ランパン 230,774円	7,748円	乙	3,200	14	44,800	乙	9,800	13	127,400	3,471円	414,193
合 計				1,865,274円	510,088円	688,800円			2,022,800円			63,471	5,150,433円		

Ⅱ 現地調査費 426,025 円

費 目		円貨額(円)	現地通貨 バーツ
外 貨 分	会 議 費	37,514	3,155
	交換手数料及差損	361	
	計	37,875	3,155
円 貨 分	資機材等購送費	379,010	
	事務用品	4,990	
	医薬品	4,150	
	計	388,150	
合 計		426,025	

Ⅲ 技 術 費 7,377,788 円

(1) 直接人件費
現地調査

区分 格付	単価(人・日) (円)	日 数 (日)	人	金 額 (円)
1 (留)	26,800	$\frac{23日}{30日} \times 28$	1	575,306
3	21,600	$\frac{23日}{30日} \times 28$	1	463,680
5	13,700	$\frac{23日}{30日} \times 28$	5	1,470,466
計				2,509,452

(1) の 計 2,509,452

(2) 諸経費 $2,509,452 \text{円} \times 110\% =$ 2,760,397

(3) 技術経費 $(2,509,452 \text{円} + 2,760,397 \text{円}) \times 40\% =$ 2,107,939

合計(1)~(3) 7,377,788 円

Ⅳ. 附 帯 費 21,320 円

費 目	金 額(円)
交 通 費	14,440
会 議 費	6,880
合 計	21,320

No. 52-35

計画申請	昭和53年2月10日国協(総計)第2-564号
計画承認	昭和53年2月16日 53通第200号
担当	工業調査課 氏名 小久保 寿一

プロジェクト名 バングラディッシュ国自動車修理工場建設計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査団派遣費	実施調査	継続 翌年度以降

現地調査期間 自 昭和53年 2月20日
至 昭和53年 3月22日
調査業務完了日 昭和53年 3月31日

総支出経費 23,883,411

1 調査目的、内容及び結果

(1) 調査目的 バングラディッシュ国道路交通公社(BRTC)は同国唯一の国営バス、トラック事業者であり、現在バス441両、トラック196両をもって事業を運営しているが、修理整備施設が不十分のため、故障時の改修が進まず、国民に対する円滑な交通手段の提供を阻害している。このため自動車修理工場を新設することが緊急な課題となっている。

(概要) ①分野：自動車修理、②サイト：バングラディッシュ国ダッカ市郊外ジョイプール地区 ③規模：サイトの面積約76,000平方メートル(2800坪)

本プロジェクトについては、昭和52年12月事前調査団が派遣され、その結果経済、技術的、社会的にフィージビリティが確認されており、引き続き、今回、実施設計調査を行なうものである。

(2) 調査内容

1. バングラディッシュ国道路交通公社(BRTC)の事業概要と今後の計画
2. BRTCに修理工場を設置する意向、研修機能の必要性
3. 設置すべき修理工場の基本構想
4. 修理工場の経済性と適正規模
5. 実施設計 5-1:レイアウト及び概略仕様、5-2:建設設計、5-3:詳細設計工事別、施設別
6. 施設の管理運営 6-1:修理工場の管理運営 6-2: 附設、研修機能の管理運営

ク 工程計画

ア 工事費の積算 (工事積算の条件、工事費(内貨、外貨))

イ 調査結果 52年度の業務は、現地調査のみであるが、現地調査中、Central workshopの基本構想連物の配置、規模率について、バングラ側と打合せを行っており、これをベースに53年度の国内作業において実施設計報告書を取りまとめることとしている。

基本的な考え方

CWSの計画はトラック、バスの車整備を年間1,200台、定期整備は一定の地域のものを対象として年間6,000台とする部品再生も行なう(車体整備、年間360台、タイヤ再生年間800本) 研修施設も附置する。

建設設計にあたっては次の点を考慮する、

1. 近代的な施設とするが、なるべくバングラの労力力を利用すること、労働者によって代れる場合は機械の使用はひかえる。
2. 可能な限りバングラの建設資材を使用する
3. 機械類については輸出国政府等の認定を受けたものにする。
4. 建設計画は1〜3期にわけて行なう。

(4) コンサルタント名 日本技術開発(株)

2 調査日程

日順	月日	行	程	宿泊地	調査地		調査内容
					日当	宿有	
1	2/20	JL 411	11:20 東京発 16:50 バンコク着	バンコク	乙	乙	
2	21	TG 303	10:30 バンコク発 11:45 ダツカ着	ダツカ	乙	乙	
3	22		ダツカ	"	"	"	大使館、事務所内訪問
}		}	}	}	}	}	ダツカ周辺にて
							現地調査
10	3/1	ダツカ →	ダツカ (6名) チッタゴン (4名)	ダツカ チッタゴン	乙	乙	
11	2	チッタゴン →	ダツカ (6名) ダツカ (4名)	ダツカ	乙	乙	
}		}	}	}	}	}	ダツカ周辺にて現地調査
							3/1 小保帰国
29	20		ダツカ	ダツカ	乙	乙	
30	21	TG 304	18:55 ダツカ発 11:30 バンコク着	バンコク	"	"	
31	22	JL 412	19:30 バンコク発 21:50 羽田着				

3 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(a) 支出

区分	計画額	実績額
I 調査旅費	8,098,257	8,057,471
II 現地調査費	1,293,811	1,008,451
III 技術費	14,771,359	14,771,359
IV 報告書作成費	0	0
V 附帯費	255,000	46,130
合計	24,418,427	23,883,411

(b) 収支決算

費用	金額(円)
概算受入額	24,418,427
支出総額	23,883,411
収支差引額	535,016

(c) (1)の内訳

(単位：円)

区分	計画額(変更、消物引はその額)		実績額	
	事業団直管分	コンサルタント委託分	事業団直管分	コンサルタント委託分
I 調査旅費	575,707	7,522,550	568,716	7,488,761
II 現地調査費	262,500	1,031,311	201,234	807,217
III 技術費	0	14,771,359	0	14,771,359
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	255,000	0	46,130	0
合計	1,093,207	23,325,220	816,074	23,067,337

コンサルタント名 日本技術開発(株)

4 収支決算費目内訳

1 調査旅費 8,057,471円

No	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	①航空費	②支度料	③日当			④宿泊料			⑤旅行雑費 (円)	合計 (①~⑤)円		
						地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)			日数	計(円)
1	田長・総括 (五味 祖)	1	31日 3/20~3/22	東京-バンコック -ダacca 299,000円	(94,910-39,080) 55,830円	地域	3,800	31	117,800	地域	11,400	30	342,000	6,539	821,169
2	経済評価 (三宅武雄)	1	31日 3/20~3/22	東京-バンコック -ダacca 299,000円	94,910円	地域	3,800	31	117,800	地域	11,400	30	342,000	1,539	855,249
3	建設設計 (星野 迪郎)	1	31日 3/20~3/22	東京-バンコック -ダacca 299,000円	94,910円	地域	3,800	31	117,800	地域	11,400	30	342,000	6,039	859,749
4	建設設計 (佐藤正乙)	1	31日 3/20~3/22	東京-バンコック -ダacca 299,000円	94,910円	地域	3,800	31	117,800	地域	11,400	30	342,000	3,039	856,749
5	修理設備 (伊藤仁一)	2	31日 3/20~3/22	東京-バンコック -ダacca 299,000円	25,090円	地域	3,800	31	117,800	地域	11,400	30	342,000	8,539	852,429
6	修理設備 (福沢 寛正)	1	31日 3/20~3/22	東京-バンコック -ダacca 299,000円	94,910円	地域	3,800	31	117,800	地域	11,400	30	342,000	8,539	862,249
7	施設運営 (高橋正敏)	5	31日 3/20~3/22	東京-バンコック -ダacca 299,000円	65,450円	地域	3,200	31	99,200	地域	9,800	30	294,000	7,039	764,689
8	施設運営 (松井 敏浩)	5	31日 3/20~3/22	東京-バンコック -ダacca 299,000円	65,450円	地域	3,200	31	99,200	地域	9,800	30	294,000	6,959	764,609
9	部 品 (村岡良三)	2	31日 3/20~3/22	東京-バンコック -ダacca 299,000円	25,090円	地域	3,800	31	117,800	地域	11,400	30	342,000	7,979	851,869
10	業務調整 (小久保 寿一)	3	20日 3/20~3/11	東京-バンコック -ダacca 2,990,000円	(66,030× $\frac{1}{4}$) 16,507円	地域	3,200	20	64,000	地域	9,800	19	186,200	3,003	568,710
計				2,990,000円	753,057円	1,087,000円			3,168,200円			59,214	8,057,471		

II 現地調査費 1,008,451円

19円 = 16.21円

費目	円貨額(円)	現地通貨	
		円	力
人件費	1,247	75	
外 車輦等借上費	583,560	36,000	
通信運搬費	57,598	3,544.26	
資機材等購入費	25,194	1,515	
貨 現地報告書作成費	46,198	2,850	
会議費	159,590	9,596.5	
雑費	103,582	6,390	
分 交換手数料及差損	23,997		
計	1,000,966	59,971.46	
円貨用品	3,210		
事務用品	4,275		
分 計	7,485		
合計	1,008,451		

III 技術費 14,771,359円

(1) 直接人件費

現地調査

区分	単価(人・日)(円)	日数(日)	人	金額(円)	
1(馬)	26,800	23日/30日 × 31	5	3,184	733
2	25,000	23日/30日 × 31	2	1,188	333
5	13,700	23日/30日 × 31	2	651	206
計				5,024	272

(1) の計

5,024 272

(2) 諸経費 $5,024,272円 \times 110\% = 5,526,699$

5,526 699

(3) 技術経費 $(5,024,272円 + 5,526,699円) \times 40\% =$

4,220 388

合計(1)~(3)

14,771 359円

IV 附帯費 46,130円

費目	金額(円)
交通費	46,130

NO. 42 34

プロジェクト名 オーマン 国工業開発計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	/ 技術調査団派遣費	実施調査	継続 翌年度以降

1 調査目的、内容及び結果

(1) 調査目的

オーマン国は、現在、外貨収入を石油輸出のみにする産業構造であり、しかも石油資源の枯渇が近いとの見通しもある。従って今後工業開発のためには、産業の石油離れを実現する必要があるとの観点から、焦炭、大理石、銅開鑿等の工業プロジェクトの実現可能性等につき調査することを日本政府に要請してきたものである。

(2) 調査内容

今回の調査は、第1次調査とし、「オ側」より提示された数業種を含め、実現可能性のある業種の選定を行なう。

計画申請	昭和53年1月7日 国協(統計)第3-487号
計画承認	昭和53年2月16日 53通.第199号
担当	工業調査課 氏名 関 崇一

現地調査期間 自 昭和53年 2月19日
至 昭和53年 3月25日
調査業務完了日 昭和53年 5月31日

総支出経費 22,971,142

(3) 調査結果

52年度に実施した現地調査を踏まえ、53年度において以下の内容について分析を行い、報告書の作成作業に入る。

- ① オーマン国の経済社会の現状
- ② 工業立地の現況と動向
- ③ オーマン国の工業開発政策
- ④ 主要戦略業種の選定
- ⑤ 第2次調査への提言

(4) コンサルタント名 (株)野村総合研究所

2 調査日程

日順	月日	行 程	宿 泊 地	指 甲 乙 地 特 別		調 査 内 容
				日 当	宿 泊	
1	3/19	18:00 東京発(橋田・麻生、岡)	橋 中	乙		
2	20	9:00 カラチ発→ジエツダ	ジエツダ	乙	乙	
3	21		"	乙	乙	日本大使館表敬、打合せ
4	22	7:30 ジエツダ発→ドバイ着	ドバイ	乙	乙	
5	23	8:00 ドバイ発→マスカット着	マスカット	乙	乙	
		18:00 東京発(池田・田中・広瀬 浦井・黒川・小林)	橋 中	乙		
6	24	マスカット着(上記6名)	マスカット	乙	乙	
7	25	(全国員)	"	乙	乙	カウンターパート打合せ、事務商工省挨拶
						マスカット及び周辺にて調査
17	3/9					
20	3/10	マスカット→サララー	サララー	乙	乙	
21	11		"	乙	乙	サララー地区現地調査
22	12	サララー→マスカット	マスカット	乙	乙	
						マスカットにて調査
28	18		マスカット	乙	乙	
29	19	マスカット→UAE(除クマスカット) 麻生池田広瀬	ドバイ	乙	乙	
30	20	ドバイ→アブダビ(")	アブダビ	指	指	U.A. エにて資料集取、ヒアリング
31	21			指	指	
		(橋田のみ)アブダビ ジエツダ	(ジエツダ)	(乙)	(乙)	
32	22	(麻生、池田、広瀬)マスカット→アブダビ		指		
		(除ク橋田)アブダビ発	橋 中			
33	3/23	(")バンコック着	バンコック	乙	乙	
	24	(")バンコック→東京		乙		
32	3/23	(橋田のみ)	ジエツダ	乙	乙	日本大使館に報告
33	23		"	乙	乙	資料収集 大使館挨拶
34	24	7:00 ジエツダ発	橋 中	乙		
35	25	東京着	—	乙		
18	3/8	(岡のみ)マスカット→シンガポール	シンガポール	乙	乙	
19	3/9	(")シンガポール→東京	—	乙		

(162)

3 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(1) 支 出 (単位:円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	8,638,640	8,573,640
II 現地調査費	2,542,153	2,497,813
III 技術費	11,819,971	11,819,971
IV 報告書作成費	0	0
V 附帯費	169,000	77,718
合 計	23,169,764	22,971,142

(2) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算総入額	23,169,764
支出総額	22,971,142
収支差引額	198,622

(1) (1) の内訳

区 分	計 画 額 (変更・流用あり場合はその額)		実 績 額	
	事業団直管分	コンサルタント委託分	事業団直管分	コンサルタント委託分
I 調査旅費	842,300	7,796,340	777,300	7,796,340
II 現地調査費	53,210	2,488,943	8,870	2,488,943
III 技術費	0	11,819,971	0	11,819,971
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	169,000	0	77,718	0
合 計	1,064,510	22,105,254	865,888	22,105,254

コンサルタント名 (株) 野村総合研究所

4. 収支決算費目内訳

1 調査旅費 8,573,640円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	① 航空費	② 支度料	③ 日 当			④ 宿 泊 所			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)	
						地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)			日数
1	橋田 担 (総 括)	2	35日 3/19~3/25	東京—ジエッダ—マスカット往復 599,700円	85,090円	指 乙 計	4,700 3,800 計	1 34 35	4,700 129,200 133,900	指 乙 計	14,600 11,400 計	1 31 368,000	14,600 353,400 6,400円	1,193,090
2	原 生 英 臣 (市場調査)	2	34日 3/19~3/24	東京—ジエッダ—マスカット —東京 508,400円	85,090円	指 乙 計	4,700 3,800 計	1 33 34	4,700 125,400 130,100	指 乙 計	11,400 11,400 計	31 31 353,400	3,900円	1,080,890
3	池田 周 作 (飲物資源)	1	30日 3/23~3/24	東京—マスカット往復 481,600円	94,910円	指 乙 計	4,700 3,800 計	1 29 30	4,700 110,200 114,900	指 乙 計	11,400 11,400 計	27 27 307,800	8,400円	1,007,610
4	田 中 恒 二 (コスト分析)	2	36日 3/23~3/24	東京— " 481,600円	85,090円	指 乙 計	4,700 3,800 計	3 27 30	14,100 102,600 116,700	指 乙 計	14,600 11,400 計	2 25 314,200	10,700円	1,008,290
5	広 積 吉 久 (窯業大理石)	2	30日 3/23~3/24	東京— " 481,600円	85,090円	指 乙 計	4,700 3,800 計	1 29 30	4,700 110,200 114,900	指 乙 計	11,400 11,400 計	27 27 307,800	5,400円	994,790
6	涌 井 哲 夫 (開発政策)	4	30日 3/23~3/24	東京— " 481,600円	95,270円	指 乙 計	4,000 3,200 計	3 27 30	12,000 86,400 98,400	指 乙 計	12,500 9,800 計	2 25 270,000	6,100円	931,370
7	黒 川 俊 夫 (石油,ガス化等)	5	30日 3/23~3/24	東京— " 481,600円	65,450円	指 乙 計	4,000 3,200 計	3 27 30	12,000 86,400 98,400	指 乙 計	12,500 9,800 計	2 25 270,000	10,900円	926,350
8	小 林 正 樹 (経済評価)	6	30日 3/23~3/24	東京— " 481,600円	65,450円	指 乙 計	3,400 2,700 計	3 27 30	10,200 72,900 83,100	指 乙 計	10,400 8,200 計	2 25 225,800	7,600円	863,550
9	岡 宗 一 (業務調整)	5	19日 3/19~3/19	東京—ジエッダ—マスカット —東京 496,000円	53,900円	指 乙 計	4,000 3,200 計	3 19 60,800	12,000 60,800 60,800	指 乙 計	10,400 9,800 計	2 17 166,600	0円	772,300
合 計				4,493,700円	695,340円	951,200円			2,583,600円			59,400円	8,782,740円	

No.1~8は8,005,940円となるが契約額を越える209,600円についてはコンサルが負担する。

∴ 7,796,340円

8,573,640円

II 現地調査費 2,497,813円

費目	円貨額(円)	現地通貨	
		オマーニリアル	UAEディルハム
備人費	249,797	355,000	
外 車輦等借上費	912,781	1,297,200	
交通費	680,559	754,200	2,400
通信運搬費	173,702	18,000	2,585
貨 資機材等購入費	173,961	247,225	
現地報告書作成費	73,180	104,000	
会 議 費	214,263	304,500	
分 文換手数料及差損	24,782		
計	2,503,025 2,488,943	3,080,625	4,985
円 事務用品	5,000		
貨 医薬品	3,870		
分 計	8,870		
合 計	2,497,813		

(注) 2,503,025であるが、契約額(2,488,943円)を越えたものについては、
コンサル負担

III 技術費 11,819,971円

(1) 直接人件費
現地調査

区分	単価(人・日)(円)	日数(日)	人	金額(円)
1 (現)	26,800	23日/30日×30	1	616,400
2	25,000	23日/30日×35	1	670,833
2	25,000	23日/30日×34	1	651,666
2	25,000	23日/30日×30	2	1,500,000
4	17,200	23日/30日×30	1	395,600
5	13,700	23日/30日×30	1	315,100
6	9,600	23日/30日×30	1	220,800
計				4,020,399

(1) の計 (A) 4,020,399

(2) 諸経費 4,020,399円 × 110% = 4,422,438

(3) 技術経費 (4,020,399円 + 4,422,438円) × 40% = 3,377,134

合 計 (1) ~ (3) 11,819,971円

IV 附帯費 79,718円

費目	金額(円)
会議費	15,048
その他	64,670
合 計	79,718

No. 52-37

プロジェクト名 ペルー共和国サンタ河電源開発計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査用派遣費	実施調査(第1次)	継続 翌年度以降

1. 調査目的、内容及び結果

(1) 調査目的

ペルー動力鉦山 電力公社、電力企画庁は、水力エネルギー開発のための諸調査の中で、サンタ河にあるエルチヨロ発電所計画の調査を完了したが、その関連として、この発電所の下流に予定されているC2、C3発電所計画について、プレ・フィージビリティレベルの調査の必要性が生じ、日本政府へ要請してきた。

尚、あわせて、エルチヨロ発電所に流にある既設のカニオンデルバト発電所から、C3計画地点までの水資源開発調査についても事前調査レベルでの実施についても要請をした。

(2) 調査内容

① C2、C3発電所計画プレ・フィージビリティ調査に必要な (1) 水分解析 (2) 地質状況 (3) 設備投入計画 (4) 工事用材料の選定 (5) 最適地点の選定 (6) 送電随用設備の予備設計 (7) 概算工事費の積算 (8) 経済性の検討 等に必要と資料の入手を現地調査、ペルー関係機関への訪問等により実施する。② カニオンデルバト発電所下流の水資源調査については現地踏査により、資料を収集する。

計画申請	昭和53年 2月 13日 国協(総計)第2-695号
計画承認	昭和53年 2月 17日 53通第207号
担当	資源調査課 氏名 竹本 節生

現地調査期間 自 昭和53年 2月 22日
至 昭和53年 3月 27日

調査業務完了日 昭和53年 3月 31日

総支出経費 32,945,735円

(3) 調査結果

今年度は現地調査のみであるが、ペルーの関係機関の協力により、必要データの収集を完了した。即ち、田長班、土木班、電気班にわかれ、

- (1) リマ市内の動力鉦山省、電力公社、電力企画庁、地質調査所、地震研究所
- (2) チンボテの電力公社変電所
- (3) ワラスの電力企画庁支所
- (4) ワヤンカの電力公社キヤニオンデルバト発電所：の訪問
- (5) 計画地点の踏査：の実施により、資料収集をした。

(4) コンサルタント名 電源開発(株)

2. 調査日程. ペルー共和国サンタ河電源開発計画調査日程

日順	月日	曜日	団 長 班 (野崎, 竹本, 佐藤)	宿 泊 地	聴 取 班 (名村, 山川, 原)	宿 泊 地	土木, 地質班 (深沢, 岡田, 加藤(伊), 加藤(山)岸田)	宿 泊 地
1	2.22	水	東京発17:00 (JL-002) ロスマンセルス着. 発	依 中	同 左		同 左	
2	23	木	リマ着. 7:20 (BN-921) 大使館換移	リ マ	"	リ マ	"	リ マ
3	24	金	動力鉱山省, 電力公社, 電力企画庁換移	"	I G M (陸軍測量局) にて資料収集	"	"	"
4	25	土	資料収集	"	同 左	"	"	"
5	26	日	同 上	"	"	"	"	"
6	27	月	電力企画庁 (INIE) にて打合せ	"	"	"	I G M (陸軍測量局) にて資料収集 電力企画庁 (INIE) にて打合せ	"
7	28	火	"	"	"	"	同 左	"
8	3.1	水	"	"	"	"	"	"
9	2	木	"	"	"	"	"	"
10	3	金	現地調査出発準備	"	"	"	"	"
11	4	土	移動. リマ → チンボテ (飛行機)	チンボテ	"	チンボテ	"	チンボテ
12	5	日	C-2発電所, C-3調整池 C-3 R-3発電所調査	"	"	"	"	"
13	6	月	移動. チンボテ → ウアジヤンカ (飛行機)	ウアジヤンカ	"	ウアジヤンカ	"	ウアジヤンカ
14	7	火	エル・チヨロ発電所, C-2調整池調査	"	エル・チヨロ発電所 カニオンデル・バト発電所調査	"	エル・チヨロ発電所, C-2発電所調査	"
15	8	水	R-1貯水池, 発電所, R-2調整池 カニオンデルバト, 取水口, 調査	"	同 左	"	同 左	"
16	9	木	INIE 調査団, 現地にて打合せ 移動. ウアジヤンカ → ウアラソ (車)	ウアラソ	"	ウアラソ	"	"
17	10	金	INIE ウアラソ事務所にて資料収集	"	C-2取水口, R-3, エル・チヨロ発電所 調査. 移動. ウアジヤンカ → ウアラソ (車)	"	エル・チヨロ発電所, C-2取水口 C-2トンネルルート調査	"
18	11	土	移動. ウアラソ → リマ (飛行機)	リ マ	移動. ウアラソ → チンボテ (飛行機)	チンボテ	C-2取水口, トンネルルート調査	"

日順	月日	曜日	団長 班(野崎, 竹本, 佐藤)	宿泊地	電気, 経済班(名村, 山川, 原)	宿泊地	土木, 地質班 (深沢, 岡田, 加藤(4), 加藤(4)岸田)	宿泊地
19	3.12	日	INIEにて打合せ及び作業	リマ	チンボテ, トルヒーゴ, 南北変電所 チンボテ-トルヒーゴ送電線調査	チンボテ	R-2 トンネル, R-2 発電所調査	ウァジヤンカ
20	13	月	"	"	バルー電力公社事務所打合せ チンボテ変電所調査	"	R-2 調整池, R-1 発電所, 調整池調査	"
21	14	火	"	"	"	"	ユンガイ附近の調査 移動 ウァジヤンカ → ウァラス(車)	ウァラス
22	15	水	"	"	移動, チンボテ-リマ(飛行機)	リマ	移動 ウァラス → チンボテ(飛行機)	チンボテ
23	16	木	団員竹本帰国	"	INIEにて打合せ及び作業	"	C-2 発電所, C-2 トンネル調査	"
24	17	金	INIEにて打合せ及び作業	"	"	"	C-3 調整池, C-3 トンネル調査	"
25	18	土	"	"	"	"	C-3, R-3 発電所調査	"
26	19	日	"	"	"	"	チャウ, ビル計画附近の調査	"
27	20	月	団員打合せ	"	団員打合せ	"	移動 チンボテ → リマ(飛行機) 団員打合せ	リマ
28	21	火	INIEにて打合せ, 大使館報告	"	同左	"	同左	"
29	22	水	" 大使公邸挨拶	"	"	"	"	"
30	23	木	INIEにて資料整理	"	"	"	"	"
31	24	金	"	"	資料整理	"	"	"
32	25	土	INIE宛提出書類の作成	"	"	"	"	"
33	26	日	帰国準備	"	同左	"	"	"
34	27	月	リマ発 13:30 (AV-080) メキシコ着 21:00	メキシコ	"	メキシコ	"	メキシコ
35	28	火	メキシコ発 12:05 (JL-011)	機中	"		"	機中
36	29	水	東京着 20:05		"		"	

4 収支決算費目内訳

1 調査旅費 12,178,077円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日 当			④ 宿 泊 料			⑤ 旅行雑費 (円)	合 計 (①~⑤)(円)		
						地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)			日数	計(円)
1	野崎 次男 (総括)	特	36日 2/22~3/29	東京—リマ 266,800円	104,720円	乙	4,300	36	154,800	乙	13,100	33	432,300	1,203	1,559,823
2	深沢 誠一 (土木)	1	36日 2/22~3/29	東京—リマ 544,200円	94,910円	乙	3,800	36	136,800	乙	11,400	33	376,200	8,603	1,160,713
3	岡田 剛 (土木)	1	36日 2/22~3/29	東京—リマ 544,200円	94,910円	乙	3,800	36	136,800	乙	11,400	33	376,200	7,103	1,159,213
4	原 幸雄 (経済分析)	1	36日 2/22~3/29	東京—リマ 544,200円	94,910円	乙	3,800	36	136,800	乙	11,400	33	376,200	7,103	1,159,213
5	名村 忠久 (電気)	4	36日 2/22~3/29	東京—リマ 544,200円	75,270円	乙	3,200	36	115,200	乙	9,800	33	323,400	7,103	1,065,173
6	山川 弘勝 (電気)	5	36日 2/22~3/29	東京—リマ 544,200円	65,450円	乙	3,200	36	115,200	乙	9,800	33	323,400	7,103	1,055,353
7	岸田 三好 (地質)	5	36日 2/22~3/29	東京—リマ 544,200円	65,450円	乙	3,200	36	115,200	乙	9,800	33	323,400	6,603	1,054,853
8	加藤 憲司 (土木)	5	36日 2/22~3/29	東京—リマ 544,200円	65,450円	乙	3,200	36	115,200	乙	9,800	33	323,400	7,103	1,055,353
9	加藤 漢昭 (土木)	5	36日 2/22~3/29	東京—リマ 544,200円	65,450円	乙	3,200	36	115,200	乙	9,800	33	323,400	5,103	1,053,353
10	佐藤 博文 (経済分析)	6	36日 2/22~3/29	東京—リマ 544,200円	65,450円	乙	2,700	36	97,200	乙	8,200	33	270,600	7,103	984,553
11	竹本 節生 (業務調整)	3	26日 2/22~3/19	東京—リマ 544,200円	16,507円	乙	3,200	26	83,200	乙	9,800	23	225,400	1,176	870,477
合 計				6,308,800円	808,477円		1,321,600円			3,673,900円			65,300	12,178,077	

II 現地調査費 1,751,160円

費目	円貨額(円)	現地通貨	
		ソ	→
備人費	35,169	19,000	
車輛等借上費	945,035	510,554	
文通費	26,806	46,897	
通信運搬費	72,927	39,399	
資機材等購入費	461,819	249,497	
現地報告書作成費	0	0	
会議費	0	0	
雑費	0	0	
交換手数料及差損	139,754	0	
計	1,741,510	865,347	
円貨分			
事務用品	4,980		
医薬品	4,670		
計	9,650		
合計	1,751,160		

III 技術費 16,391,088円

(1) 直接人件費

現地調査

区分	単価(人・日)(円)	日数(日)	人	金額(円)	
格付					
特等	40,000	23日/30日×36	1	1	104,000
1	26,800	23日/30日×36	3	2	219,040
4	17,200	23日/30日×36	1		474,720
5	13,700	23日/30日×36	4	1	512,480
6	9,600	23日/30日×36	1		264,960
計				5	575,200

(1) の計

5	575	200
---	-----	-----

(2) 諸経費 5,575,200円×110% =

6	132	720
---	-----	-----

(3) 技術経費 (5,575,200円+6,132,720円)×46% =

4	683	168
---	-----	-----

合計(1)~(3))

16	391	088
----	-----	-----

IV 報告書作成費

2,600,000円

費目	金額(円)
基礎資料処理費	2,600,000

V 附帯費

25,410円

費目	金額(円)
会議費	25,410

No. 52-38

プロジェクト名 リベリア共和国セントジョン川水力開発計画予備調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査田収費	事前調査	今回で完了

計画申請	昭和53年2月17日国協(鉦計)第2-988号
計画承認	昭和53年2月22日 53通第219号
担当	資源調査課 氏名長畑貞之

現地調査期間 自 昭和53年2月26日
至 昭和53年3月20日

調査業務完了日 昭和53年3月31日

総支出経費 6,474,294

/ 調査目的、内容及び結果

(1) 調査目的

昭和50年に当事業団が行った電源開発基礎調査で、開発可能地点としてセントジョン川の2地点が勧告された。その後リベリア政府からは地形図の作成を含むF/S調査につき要請があり、日本側としてはPre F/Sまでの調査実行を約束した。52年度は地形図作成のためリベリア政府と打合せを行うことを目的とし、予備調査団を派遣した。

(2) 調査内容

- ① リベリアの測量事情の調査。
- ② 対象区域の状況調査。
- ③ 測量作業計画の作成。
- ④ リベリア側と作業分担の打合せ。
- ⑤ 報告書の作成。

(3) 調査結果

リベリアの測量事情及び対象区域の調査。リベリア側と作業分担、便宜供与等について打合せを行い、合意に達し、議事録にヒリまとめた。

(作業内容及び分担)

- ① 二万五千分の1の航空写真の撮影：リベリア側が実施
- ② 対空標識の設置：リベリア側が実施。但し測量は行わない。(12月までに完了)
- ③ 現地測量：日本側実施(12月以降)
- ④ 空中三角測量、図化及び地図の編纂：日本側実施
- ⑤ 完成地図の印刷、公布：日本側実施

(4) コンサルタント名 アジア航測(株)

2 調査日程

日順	月日	行 程	宿 泊 地	指 定 地 域 別		調 査 内 容
				日 当	宿 泊	
1	2/26	東京発(10:15) SK982 (17:00) Copen-hagen	Copenhagen	甲	甲	出発
2	27	Copen-hagen着(9:45) SK982 (11:10) Brussels Brussels発(11:55) SN424 (22:25) Monrobia	Monrobia	甲	乙	"
3	28		"	乙	"	日本大使館表敬、打合せ
4	3/1		"	"	"	企画経済省、土地鉱山省訪問、打合せ
5	2		"	"	"	電力公社、上下水道公社訪問、打合せ
6	3		"	"	"	飛行機にて現地視察 4万分の1の写真の手配(No2サイト)
7	4		"	"	"	資料整理、現地調査準備
8	5		"	"	"	"
9	6	(小野) Monrovia (後藤、長畑) Monrovia Nimba	Monrovia Nimba	"	"	No.2地区サット (後藤、長畑) 航空写真手配(移動)
10	7	Site No.3	"	"	"	焼付 Site No.3調査
11	8	"	"	"	"	航空写真 Buchanan
12	9	Site No.2	"	"	"	土地鉱山省、農林省にて資料収集 Site No.2調査
13	10	"	"	"	"	農林省、土地鉱山省にて資料収集
14	11	Buchanan Monrovia	"	"	"	資料整理 移動
15	12		Monrovia	"	"	資料整理 Minutesの原稿作成
16	13		"	"	"	測量計画作成、Minutesの内容検討
17	14		"	"	"	Minutesの内容検討(作業分担の打合せ) 電力公社、日本大使館にて報告
18	15		"	"	"	資料整理、報告書作成
19	16		"	"	"	土地鉱山省にてMinutes作成
20	17	Monrovia発(20:20) SN422	換 中	"	"	" 帰国
21	18	Brussels発(7:40) SN603 (11:40) London	London	甲	甲	帰国
22	19	London発(13:25) JL412	換 中	"	"	"
23	20	(17:55) 東京	—	乙	"	"

(172)

3 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支 出

(単位：円)

区 分	計 画 額	変更 (流用) 額	変更 (流用) 額	実 績 額
I 調査旅費	3,441,595	5,529	3,447,124	3,447,124
II 現地調査費	1,177,496	5,529	1,171,967	142,594
III 技術費	2,878,576	0	2,878,576	2,878,576
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	31,000	0	31,000	0
合 計	7,528,667	0	7,528,667	6,474,294

(ロ) 収支決算

費 用	金 額(円)
概算受入額	7,528,667
支出総額	6,474,294
収支差引額	1,054,373

(ハ) (イ)の内訳

(単位：円)

区 分	計 画 額 (変更、流用あり場合はその額)		実 績 額	
	事業田直営分	コンサルタント委託分	事業田直営分	コンサルタント委託分
I 調査旅費	1,127,524	2,323,970	1,127,524	2,319,600
II 現地調査費	76,051	1,091,746	22,477	126,117
III 技術費	0	2,878,576	0	2,878,576
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	31,000	0	0	0
合 計	1,234,575	6,294,092	1,150,001	5,324,293

コンサルタント名 アジア航測(株)

4 収支決算費目内訳

1 調査旅費

3,447,124円

NO	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日 当			④ 宿 泊 料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)		
						地域	単価 (円)	日数	計 (円)	地域	単価 (円)			日数	計 (円)
1	後藤 一 (総括)	2	23日 2/26~3/20	東京—モンロビア 810,400円	70,070円	甲	4,200	4	16,800	甲	12,700	2	25,400	0円	1,188,670
						乙	3,800	19	72,200	乙	11,400	17	193,800		
						計			89,000	計			219,200		
2	小野 茂 (測量)	5	23日 2/26~3/20	東京—モンロビア 810,400円	53,900円	甲	3,500	4	14,000	甲	10,900	2	21,800	3,430円	1,130,930
						乙	3,200	19	60,800	乙	9,800	17	166,600		
						計			74,800	計			188,400		
3	長畑 貞之 (業務調整)	5	23日 2/26~3/20	東京—モンロビア 810,400円	40,425円	甲	3,500	4	14,000	甲	10,900	2	21,800	3,699円	1,127,524
						乙	3,200	19	60,800	乙	9,800	18	176,400		
						計			74,800	計			198,200		
計				2,431,200円	164,395円	238,600円			605,800円			7,129円	3,447,124円		

II 現地調査費

148,594円

費目		円貨額 (円)	米ドル
外 貨 分	備人費	0	0
	車輛等借上費	1,201	5.00
	交通費	0	0
	通信運搬費	38,652	160.25
	資機材等購入費	0	0
	現地報告書作成費	0	0
	会議費	9,119	37.25
	雑費	0	0
	交換手数料及差損	90,662	0
	計	139,634	203.20
円 貨 分	事務用品	4,940	
	医薬品	4,020	
	計	8,960	
合計		148,594	

III 技術費

2878,576円

(1) 直接人件費

④ 現地調査

区分	単価(人日)(円)	日数(日)	人	金額(円)	
格付 2号	25,000	23日/30日 × 23	1	440	833
5号	13,700	23日/30日 × 23	1	241	576
計				682	409

⑤ 国内設計作業

区分	単価(人日)(円)	人・月(人月)	金額(円)	
2号	25,000	23日 × 10/30	191	666
5号	13,700	23日 × 10/30	105	033
計		20/30	296	699

(1) の計 (④ + ⑤) 979,108

(2) 諸経費 979,108円 × 110% = 1,077,018

(3) 技術経費 (979,108円 + 1,077,018円) × 4% = 822,450

合計 (1) ~ (3) 2,878,576円

No. 52-39

計画申請	昭和53年2月7日国協(鉦計)第2-35号
計画承認	昭和53年2月10日 53通第173号
担当	工業調査課 氏名 小久保 寿一

プロジェクト名 サウディ・アラビア王国石油化学工場建設計画調査

新業段階	区 分 区 費	新 業 内 容	今後の予定
新 規	技術調査団派遣費	実施調査(第1次) 国内設計作業	継 続 翌年度以降

現地調査期間 自昭和53年2月15日
至昭和53年2月28日

調査業務完了日 昭和53年3月31日

総支出総費 43,944,545

1. 調査目的、内容及び結果

<p>(1) 調査目的</p> <p>1975年3月締結された日本・サウジアラビア経済及び技術協力協定において、両国政府は同協定に特掲された分野について技術専門家等の派遣等協力を行なっているところ、そのうち石油化学について実現性が高いものとして当該計画を推進することとされている。</p> <p>本件調査により石油化学について事前調査を行なった。</p> <p>(2) 調査内容</p> <p>日本側より事業計画案を提出するに、次の項目に基づき調査を行なった。</p>	<p>設備計画 運営計画 輸送計画 製剤受入基地計画</p> <p>(3) 調査結果</p> <p>昭和52年度において現地調査及び国内作業の一部が行なわれ、「調査概況報告書」がまとめられた。引続き53年に国内作業を行ない、最終報告書を作成することとしている。</p> <p>(4) コンサルタント名 三菱油化エンジニアリング(株)</p>
--	--

2. 調査日程

日順	月日	行 程	着泊地	船名		調査内容
				船名	船種	
1	3/5	東京-シンガポール JL777	シンガポール	Z	Z	
2	16	シンガポール SQ74	機中	Z	/	
3	17	バハレン バハレン-リヤド SV825	リヤド	Z	特	日付合同委員会事務局打合せ
4	18	リヤド	"	Z	特	SABIC打合せ
5	19	"	"	Z	特	"
6	20	"	"	Z	特	日付合同委経過報告, 11/1製油所訪問
7	21	リヤド-ダハラン SV-850	アルカバル	Z	特	JUBAIL PLANT SITE視察
8	22	ダハラン	"	Z	特	Royal Commission打合せ
9	23	"	"	Z	特	DAMMAN PORT ARAMCO視察
10	24	"	"	Z	特	団員打合せ
11	25	"	"	Z	特	レポート作成
12	26	アルカバル-クエート	"	Z	Z	アラビア石油カ73鉱業所視察
13	27	クエート	機中	Z	/	クエート大使館訪問
14	28	東京 SK-983	—	Z	/	

(176)

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支 出

(単位:円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	5,661,575	5,579,784
II 現地調査費	286,134	170,416
III 技 術 費	38,162,245	38,162,245
IV 報告書作成費	0	0
V 付 帯 費	244,000	12,100
合 計	44,353,894	43,944,545

(ロ) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算受入額	44,353,894
支出総額	43,944,545
収支差引額	409,349

(ハ) (イ)の内訳

(単位:円)

区 分	計 画 額 (変更, 流用ありの場合別掲)		実 績 額	
	事業団直営分	コンサルト委託分	事業団直営分	コンサルト委託分
I 調査旅費	1,459,990	4,201,525	1,413,223	4,166,561
II 現地調査費	60,500	225,634	56,912	133,504
III 技 術 費	0	38,162,245	0	38,162,245
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 付 帯 費	244,000	0	12,100	0
合 計	1,764,490	42,589,404	1,482,235	42,462,310

コンサルト名: ミ菱油化エンジニアリング(株)

4 収支決算費目内訳

I 調査旅費

5,579,784円

No	氏名 (担当)	格付 (等)	派遣期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日 当			④ 指 泊 料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤)(円)	
						地 域	単価(円)	日数	計(円)	地 域	単価(円)			日数
1	倉田武彦 (副長、総務 オフィスト設備)	2	14日 2/15~2/28	東京 - 札幌 486,400円	35,035円	乙	3,800	14	53,200	11,400	11	125,400	2,456円	702,491
2	丁子 睦 (ポロセス設備)	2	14日 2/15~2/28	東京 - " 486,400円	35,035円	乙	3,800	14	53,200	11,400	11	125,400	3,056円	703,091
3	岩佐克範 (土木建築)	6	14日 2/15~2/28	東京 - " 486,400円	26,950円	乙	2,900	14	37,800	8,200	11	90,200	6,056円	647,406
4	後藤浅生 (メンテナンス)	2	14日 2/15~2/28	東京 - " 486,400円	35,035円	乙	3,800	14	53,200	11,400	11	125,400	2,956円	707,991
5	北尾 隼 (労 務)	2	14日 2/15~2/28	東京 - " 486,400円	35,035円	乙	3,800	14	53,200	11,400	11	125,400	3,056円	703,091
6	坂下哲生 (運 輸)	2	14日 2/15~2/28	東京 - " 486,400円	35,035円	乙	3,800	14	53,200	11,400	11	125,400	2,456円	702,491
7	山本達雄 (企 画)	4	14日 2/15~2/28	東京 - " 486,400円	30,995円	(特) 乙	3,200	14	44,800	5,000	9	45,000	2,400円	717,395
8	津田和彦 (業務調整)	4	14日 2/15~2/28	東京 - " 486,400円	7,748円	(特) 乙	3,200	14	44,800	5,000	9	45,000	4,080円	695,828
合 計				3,891,200円	240,868円				393,400円			1,022,800円	31,516円	5,579,784円

II 現地調査費

190,416 円

費目	円貨額 (円)	現地通貨		
		リアル	ペイナール	
外貨分	車輛等借上費	128,228	1804	
	資機材等購入費	20,400	271	
	会議費	28,155	396	1,250
	交換手数料及差損	5,323		
	計	182,106	2,471	1,250
円貨分	事務用品	4,750		
	医薬品	3,560		
	計	8,310		
合計	190,416			

② 国内設計作業

区分 格付	単価(人・日) (円)	人・月 (人・月)	金額 (円)
1号	26,800	23日×1.5	924,600
2号	25,000	23日×1.65	948,750
3号	21,600	23日×1.5	745,200
5号	13,700	23日×0.5	157,550
6号	9,600	23日×1	220,800
計			11,535,650

(1)の計(①+②)

12	980	356
----	-----	-----

(2) 諸経費 12,980,356円 × 110% =

14	278	391
----	-----	-----

(3) 技術経費 (12,980,356円 + 14,278,391円) × 40% =

10	903	498
----	-----	-----

合計(1)~(3)

38	162	245
----	-----	-----

III 技術費

38,162,245 円

(1) 直接人件費

① 現地調査

区分 格付	単価(人・日) (円)	日数 (日)	人	金額
2(号)	25,000	23日/30日 × 14	5	1,341,666
6	9,600	23日/30日 × 14	1	102,040
計				1,444,706

IV 付帯費

12,100 円

費目	金額 (円)
会議費	12,100

No. 52-40

計画申請	昭和53年3月8日国協(経計)第3-509号
計画承認	昭和53年3月9日 53通第106号
担当	工業調査課 佐原 允文

プロジェクト名 スリランカ共和国自由貿易地帯開発計画事前調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査団派遣費	事前調査	継続 (翌年度以降)

現地調査期間 自昭和53年3月16日
至昭和53年3月27日
調査業務完了日 昭和53年3月31日

総支出経費 3,207,370

1. 調査目的, 内容, 結果

<p>(1) 調査目的 スリランカ政府は、外資導入奨励、輸出指向型産業育成を目的として、自由貿易地帯を創設することを計画している。 本調査は、同国がもつ上記計画の詳細、成熟度、開発環境を把握し、当該計画推進にあたっての今後の日本の協力の必要性を検討することを目的とする。</p> <p>(2) 調査内容 1. 自由貿易地帯開発計画の背景と経緯の把握 2. スリランカ共和国の経済、社会の概況把握 3. 同国の対外経済関係の概況把握 4. 当該プロジェクト候補地の地域開発計画の把握 5. 総合的評価</p>	<p>(3) 調査結果 当該計画の推進母体として、大統領任命のもとに組織されている、<i>The Greater Colombo Economic Commission</i> 等との協議を踏まえ、昭和53年度に当該計画の現状をとりまとめた報告書を作成することとする。</p> <p>(4) コンサルタント名 直 営</p>
---	--

2. 調査日程

日順	月日	行程	宿泊地	指定地等別		調査内容
				日当	宿泊	
1	3/6	東京→コロンボ 煙野, 中島 藤森, 水町	コロンボ	乙	乙	移動
2	17	コロンボ	"	"	"	日本大使館表敬及び打合せ
3	18	コロンボ→トリンコマリ	トリンコマリ	"	"	移動, 現地踏査
4	19	トリンコマリ→コロンボ 紐野 東京→コロンボ	コロンボ	"	"	"
5	20	コロンボ	"	"	"	"
6	21	"	"	"	"	5名 The Greater Colombo Economic Commission 他
7	22	"	"	"	"	政府関係諸機関及び日系企業等よりヒアリング及び資料収集
8	23	"	"	"	"	資料収集
9	24	紐野 藤森 コロンボ→カラ 煙野 中島 水町	"	"	"	移動
10	25	"	"	"	"	資料収集
11	26	"	"	"	"	帰国予定便欠航のため
12	27	"	"	"	"	日程変更
13	28	コロンボ→シンガポール	機中	"	"	"
14	29	東京	—	"	"	"

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出

(単位: 円)

区分	計画額	実績額
I 調査旅費	2,133,765	2,092,765
II 現地調査費	309,606	213,398
III 技術費	901,207	901,207
IV 報告書作成費	0	0
V 付帯費	10,000	0
合計	3,354,578	3,207,370

(ロ) 収支決算

費用	金額 (円)
概算受入額	3,354,578
支出総額	3,207,370
収支差引額	147,208

(ハ) (イ)の内訳

(単位: 円)

区分	計画額(変更, 流用等の場合は加算)		実績額	
	事業団直管分	JICA外委託分	事業団直管分	JICA外委託分
I 調査旅費	1,284,885	848,880	1,262,485	830,280
II 現地調査費	309,606	0	213,398	0
III 技術費	150,000	751,207	150,000	751,207
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 付帯費	10,000	0	0	0
合計	1,754,491	1,600,087	1,625,883	1,581,487

収支決算費目内訳

I 調査旅費

2,092,765円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	① 航空賃	② 交際料	③ 日 当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)	
						地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)			日数
1	姫野 瑛一 (総括)	1	8日 3/6~3/23	東京-ロンドン(片道) エコノミークラス 164,700円	78,160円	乙	3,800	8	30,400	11,400	8	91,200	3,000円	367,460
2	中島 邦雄 (技術協力政策)	4	8日 3/6~3/23	東京-ロンドン(片道) エコノミークラス 164,700円	61,990円	乙	3,200	8	25,600	9,800	8	78,400	3,000円	333,690
3	細野 昭 (社会基盤開発政策)	1	11日 3/19~3/29	東京-ロンドン(往復) エコノミークラス 328,400円	37,080円	乙	3,800	11	41,800	11,400	9	102,600	5,000円	504,380 (517,880)
4	藤森 英男 (経済的・社会的条件)	2	14日 3/6~3/29	東京-ロンドン(往復) エコノミークラス 328,400円	35,035円	乙	3,800	14	53,200	11,400	12	136,800	6,900円	561,335
5	永田 昌明 (インフラストラクチャー 企画)	5	8日 3/6~3/23	東京-ロンドン(片道) エコノミークラス 164,700円	53,900円	乙	3,200	8	25,600	9,800	8	78,400	3,300円	325,900
合 計				1,152,900円	268,165円	176,600円			487,400円			21,200円	(2,106,265) 2,092,765円	

17,500円
4,300円
取組

II 現地調査費 213,398 円

費目	円貨額(円)	現地通貨
		Rs.
外貨分		
車輦等借上費	141,117	8,855
資機材等購入費	17,605	1,042. ²⁰
会議費	36,560	2,341. ⁴⁰
交換手数料及差損	9,336	
計	204,618	12,238. ⁴⁰
円貨分		
事務用品	5,180	
医薬品	3,600	
計	8,780	
合計	213,398	

(1)の計

418,946

(2) 諸経費 ① 184,920円 × 110% = 203,412
 ② 84,026円 × 90% = 75,623

279,035

(3) 技術経費 ④ (184,920円 + 203,412円) × 40% = 155,332
 ⑤ (84,026 + 75,623) × 30% = 47,894

203,226

合計(1)~(3)

901,207⁴⁰

III 技術費 901,207円

(1) 直接人件費
 現地調査

区分 格付	単価(人・日) (円)	日数 (日)	人	金額 (円)
/ (号)	① 26,800	23日 30日 × 9	1	184,920
5	② 13,700	23日 30日 × 8	1	84,026
* 2	③ 375,000 30	12	1	150,000
計				418,946

* 人件費補2人扱11。

No. 52 - 41

計画申請	昭和52年10月21日 国協(鉦計)第10.1077号
計画承認	昭和52年10月25日 外通第1723号
担当	鉦工業計画課 氏高木 繁

プロジェクト名 オーマン国鉦工業プロジェクト選定確認調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	プロジェクト選定確認調査員派遣費	事前調査	今回で完了

現地調査期間 自昭和53年11月10日
至昭和53年11月17日

調査業務完了日 昭和53年2月28日

総支出経費 438,898

1. 調査目的、内容及び結果

<p>(1) 調査目的 オマーン国に対する我が国の技術協力のうち鉦工業関係の開発計画を効率的に実行するため、オマーン国の要請プロジェクトについてその要請の背景、経済開発計画等における位置づけ等を調査し、実施可能なプロジェクトの選定確認を行う。</p> <p>(2) 調査内容 イ) オマーン国の経済開発計画、鉦工業開発計画の内容および関係プロジェクトの進捗状況調査 ロ) オマーン国の鉦工業プロジェクトのうち、日本の技術協力を要請する案件の内容審査 ハ) 日本が協力しうる鉦工業関係プロジェクトの選定確認 ニ) オマーン政府機関に対する事業団の業務のPR</p>	<p>(3) 調査結果 オマーン側より以下のプロジェクトについての要請がほされた。</p> <p>(1) 大理石工業 (2) 窯業(壁・床用タイル他) (3) ガラス工業 (4) 銅関連工業 (5) 建材産業 (6) 海水淡水化による塩の工業的利用</p> <p>52年度においては、「オ」側指定業種(前記(1)~(6))の開発の長期、短期的戦略を策定し、実現可能性のある業種の選定を行なった。</p> <p>(4) コンサルタント名 直営</p>
---	--

2. 調査日程

日順	月日	行 程	着泊地	滞在地等別		調 査 内 容
				日 当	宿 泊	
1	11/10		テヘラン	/	乙	
2	11	テヘラン→マスカット	マスカット	乙	乙	
3	12		"	乙	乙	外務省, 商工省との会談
4	13		"	乙	乙	開発会議, 商工省, 大蔵省との会談
5	14		"	乙	乙	外務省との会談, 工業団地予定地視察
6	15		"	乙	乙	農業石油鉱山省との会談
7	16	マスカット→シンガポール	シンガポール	乙	乙	
8	17	シンガポール→東京	←	乙	/	

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支 出

(単位：円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	197,935	195,325
II 現地調査費	196,990	90,623
III 技術費	0	0
IV 報告書作成費	150,000	106,920
V 付帯費	102,000	46,030
合 計	646,925	438,898

(ロ) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算受入額	646,925
支出総額	438,898
収支差引額	208,027

(ハ) (イ)の内訳

(単位：円)

区 分	計 画 額	実 績 額
	事業団直管分	事業団直管分
I 調査旅費	197,935	195,325
II 現地調査費	196,990	90,623
III 技術費	0	0
IV 報告書作成費	150,000	106,920
V 付帯費	102,000	46,030
合 計	646,925	438,898

4. 収支決算費目内訳

I 調査旅費

195,325 円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日 当			④ 宿 泊 料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)		
						地域	単価 (円)	日数	計 (円)	地域	単価 (円)			日数	計 (円)
1	長 沢 幸 敏 (技術協力・一般)	2	7 日 11/10~11/17	(東京-テヘラン-マスカット -東京)-(東京-テヘラン-東京) 553,700-516,200 37,500 円	70,070-35,035 35,035 円										
						Z	3,800	7	26,600	Z	11,400	7	79,800		
						計		26,600	計		94,446	1,744 円	195,325		

II 現地調査費

90,623 円

費 目	円貨額 (円)	現 地 通 貨	
		イランリアル	オマーンリアル
備 人 費	7,731		10,000
車 輛 等 借 上 費	30,260	72	38,800
資 機 材 等 購 入 費	36,173	1,620	39,200
会 議 費	8,505		11,000
交 換 手 数 料 及 差 損	7,954		
計	90,623	1,692	99,000

III 報告書作成費

106,920 円

費 目	金 額 (円)
印刷製本費	106,920

IV 付帯費

46,030 円

費 目	金 額 (円)
交 通 費	2,370
会 議 費	37,910
其 他	5,750
合 計	46,030

No. 52 - 42

計画申請	昭和53年3月8日 国協(鉦計)第3-508号
計画承認	昭和53年3月18日 53通第341号
担当	鉦工業計画課 高木 繁

プロジェクト名 パキスタン回教共和国鉦工業プロジェクト選定確認調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	プロジェクト選定確認調査経費	事前調査	継続 (翌年度以降)

現地調査期間 自昭和53年3月24日
至昭和53年3月31日
調査業務完了日 昭和53年3月31日

総支出経費 981,111

(1) 調査目的 パキスタンに対するわが国の技術協力のうち、鉦工業関係の開発計画を効率的に実行するため、パ国の要請プロジェクトについてその要請の背景及び経済開発計画における位置づけ等を調査し、実施可能なプロジェクトの選定確認を行なう。

(2) 調査内容

イ) パキスタンの経済開発計画、鉦工業開発計画の内容及び関係プロジェクトの進捗状況調査

ロ) パキスタンの鉦工業プロジェクトのうち、日本の技術協力を要請する案件の内容審査

ハ) 日本が協力しうる鉦工業関係プロジェクトの選定確認

ニ) パキスタン政府機関に対する事業田業務のPR

(3) 調査結果 パ側より以下の案件について要請があった。

経済省 ① Peoples Steel Mill 建設、運営管理 ② エンジニアリング工業発展のためのマスタープランの作成

工業省 ① 輸出志向工業 ② 現地機械、現地原料を用いた工業 ② 輸入代替工業

石油天然資源省 ① ラクラ石炭火力発電所建設計画 ② Sendar 銅鉦山開発計画 ③ 鉄鉦山開発計画

計画省 ① 水力発電 (WAPDA) ② 送電線計画 ③ 火力発電

(4) コンサルタント名 直営

2. 調査日程

日順	月日	行 程	宿泊地	指定地等別		調 査 内 容
				日 当	宿 泊	
1	3/24	インドボ-カラチ-ラワルピンジ	ラワルピンジ	Z	Z	大使館表敬
2	25		"	Z	Z	経済省, 大蔵計画開発省, 石油天然資源省訪問
3	26		"	Z	Z	水利電力省訪問, Tarbela 水力発電視察
4	27	ラワルピンジ-ラホール	ラホール	Z	Z	水利電力開発公社訪問
5	28	ラホール-カラチ	カラチ	Z	Z	領事館訪問
6	29		"	Z	Z	連邦化学セラミック公社, 鉱山開発公社訪問
7	30		"	Z	Z	Lakura 石炭火力発電計画視察
8	31	カラチ-東京	—	Z	/	帰国

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出

(単位:円)

区 分	計 画 額	実 績 額
I 調査旅費	925,000	922,000
II 現地調査費	237,754	59,111
III 技術費	0	0
IV 報告書作成費	0	0
V 付帯費	0	0
合 計	1,162,754	981,111

(ロ) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算受入額	1,162,754
支出総額	981,111
収支差引額	181,643

(ハ) (イ)の内訳

(単位:円)

区 分	計 画 額 事業団直管分	実 績 額 事業団直管分
I 調査旅費	925,000	922,000
II 現地調査費	237,754	59,111
III 技術費	0	0
IV 報告書作成費	0	0
V 付帯費	0	0
合 計	1,162,754	981,111

× 収支決算費目内訳

I 調査旅費

922,000 円

No.	氏名 (担当)	招待 (号)	派遣期間 (日数)	①航空賃	②支度料	③日 当			④宿 泊 料			⑤旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)		
						地 域	単価(円)	日数	計(円)	地 域	単価(円)			日数	計(円)
1	姫野 瑛一 (技術協力一般)	1	8日 3/24~3/31	コロンボ-カラク-ラフルピンジ -ラホール-東京 207,800円	0円	乙	3,800	8	30,400	乙	11,400	7	79,800	0円	318,000
2	中島 邦雄 (技術協力行政)	4	8日 3/24~3/31	コロンボ-カラク-ラフルピンジ -ラホール-東京 207,800円	0円	乙	3,200	8	25,600	乙	9,800	7	68,600	0円	302,000
3	永田 昌明 (経済・産業事情)	5	8日 3/24~3/31	コロンボ-カラク-ラフルピンジ -ラホール-東京 207,800円	0円	乙	3,200	8	25,600	乙	9,800	7	68,600	0円	302,000
合 計				623,400円	0円			81,600円			217,000円		0	922,000円	

II 現地調査費

59,111 円

費 目	円 貨 額 (円)	現 地 通 貨
		ル ビ ー
外 貨 分 車 輛 等 借 上 費	34,768	1,453
資 機 材 等 購 入 費	1,052	44
会 議 費	2,058	295
交 換 手 数 料 及 差 損	16,233	
計	59,111	1,792

No. 52 - 43

計画申請	昭和52年9月30日国協(飲計)第9-1583号
計画承認	昭和52年10月5日 52通第1449号
担当	資源調査課 長畑 貞之

プロジェクト名 大韓民国水資源総合開発計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	技術調査団派遣費	実施調査 報告書説明 国内設計作業	今回で完了

現地調査期間 自昭和52年10月10日
至昭和52年12月17日
調査業務完了日 昭和53年3月31日

総支出経費 75,777,310 円

(1) 調査目的 大韓民国政府の要請により、同国内の24ダム候補地点のうち、技術的、経済的に有利な開発地点10か地点を多目的利用の見地から選定することを目的とする調査

(2) 調査内容

- ① 既存ダムサイト資料の再検討及び現地調査
- ② 水文調査
- ③ 洪水調節効果、水供給効果の予備調査
- ④ 水力発電開発最適規模決定のための予備調査
- ⑤ 土地補償費の見積り
- ⑥ 建設費概算の見積り
- ⑦ 経済性の検討
- ⑧ 開発優先順位の決定

(3) 調査結果

調査の結果 B/C 1以上の地点を10か所選定し、53年度に Pre F/S を実施する予定。

(オニ次調査 Pre F/S 対象地点)

- 漢江流域 パンソングル、麟蹄、洪川、九切、達川/民岷、後坪
- 洛東江流域 臨河、本河、咸陽
- 塘津江流域 赤城/住岩

(注) 達川/民岷及び赤城/住岩については、韓国側で地点の選定を行う。

(4) コンサルタント名 日本工管(株)、電源開発(株)の共同企業体

2. 調査日程(実施調査)

団員名	行			程		
	10月	11月	12月	10月	11月	12月
脇本村	10/10 在ソウル 打合せ、資料解析	11/6 サイト調査	11/12 在ソウル 資料解析	11/24 サイト調査	11/29 在ソウル 資料解析、打合せ	12/17
佐藤	10/10 在ソウル 打合せ、資料収集	10/19 南漢江 サイト調査	11/4 在ソウル 資料解析	11/9 在ソウル サイト調査	11/16 在ソウル 資料解析	12/17
福竹	10/10 同上	同上	11/10 在ソウル サイト調査	同上	11/24 在ソウル 資料分析、打合せ	
萩原	10/10 在ソウル 資料収集、解析	10/31 在ソウル 資料収集	11/4 在ソウル 資料分析	11/20 サイト調査	11/25 在ソウル 資料解析、打合せ	12/17
井上	10/10 在ソウル 資料収集、解析	11/2 サイト調査	11/11 在ソウル 資料解析、打合せ			12/17
市川				11/20 在ソウル 資料解析、打合せ		12/17
岩崎	10/10 在ソウル 打合せ、資料収集	10/19 北漢江 サイト調査	10/29 在ソウル 資料解析	11/11 在ソウル サイト調査	11/12 在ソウル 資料分析	12/17
宮本	10/10 同上	同上	同上	11/16 在ソウル 資料分析	11/21 在ソウル サイト調査	12/17
林	10/10 在ソウル 打合せ、資料収集、分析	11/2 サイト調査	11/11 在ソウル 資料分析、打合せ			12/17
長畑	10/10 在ソウル 打合せ、資料収集	10/19 南漢江 サイト調査	11/4 在ソウル 資料解析			

現地報告書説明

日順	月日	行程	着泊地	指定地等別		調査内容
				日当	着泊	
1	3/27	東京(9:20) ^{JL951} → (11:40) ソウル	ソウル	乙	乙	日本大使館表敬 建設都にて説明
2	28		"	"	"	"
3	29		"	"	"	農業振興公社にて説明、打合せ
4	30		"	"	"	"
5	31	ソウル(13:00) ^{JL952} → (15:05) 東京	-	-	-	日本大使館に報告、帰国

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出

(単位：円)

区分	計画額	実績額
I 調査旅費	9,616,297	9,151,739
II 現地調査費	1,582,399	1,381,020
III 技術費	63,576,770	63,426,193
IV 報告書作成費	1,643,636	1,643,636
V 付帯費	646,680	174,722
合計	77,065,782	75,777,310

(ロ) 収支決算

費用	金額 (円)
概算貸入額	77,065,782
支出総額	75,777,310
収支差引額	1,288,472

(ハ) (イ)の内訳

(単位：円)

区分	計画額(貸入・流出ある場合の額)		実績額	
	事業団直営分	Jソウル支店委託分	事業団直営分	Jソウル支店委託分
I 調査旅費	488,015	9,128,282	306,527	8,845,212
II 現地調査費		1,582,399		1,381,020
III 技術費		63,576,770		63,426,193
IV 報告書作成費		1,643,636		1,643,636
V 付帯費	646,680		174,722	
合計	1,134,695	75,931,087	481,249	75,296,061

Jソウル支店名 日本工管(株)、電源開発(株)の共同企業体

4. 収支決算費目内訳

I 調査旅費 9,154,739円

(実施調査分)

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	①航空賃	②交際料	③日 当			④借 泊 料			⑤旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)				
						地域	単価(円)	日数	計 (円)	地域	単価(円)			日数	計 (円)		
1	脇 治 雄 (総括)	特	69日 10/10~12/17	東京—ソウル 68,800円	104,702円	乙	4,300	41	176,300	乙	13,100	41	537,100	6,000円	1,319,592		
						乙	4,300	X28	X0.9	乙	13,100	X27	X0.9				
						乙			108,360	乙			318,330				
									284,660				855,430				
2	木村博臣 (土木)	1	69日 10/10~12/17	東京—ソウル 68,800円	94,910円	乙	3,800	40	152,000	乙	11,400	40	456,000	5,900円	1,164,070		
						乙	3,800	X29	X0.9	乙	11,400	X28	X0.9				
						乙			92,180	乙			287,280				
									251,180				743,280				
3	萩原信也 (水文)	1	69日 10/10~12/17	東京—ソウル 68,800円	94,910円	乙	3,800	37	140,600	乙	11,400	37	421,800	5,900円	1,157,610		
						乙	3,800	X30	X0.9	乙	11,400	X30	X0.9				
						乙	3,800	X28	X0.9	乙	11,400	X28	X0.9				
									102,600				307,800				
									8,080				9,120				
									249,280				738,720				
4	井上義隆 (農業土木)	1	69日 10/10~12/17	東京—ソウル 68,800円	94,910円	乙	3,800	39	148,200	乙	11,400	39	444,600	0円	1,156,650		
						乙	3,800	X30	X0.9	乙	11,400	X29	X0.9				
						乙			102,600	乙			297,540				
									250,800				742,140				
5	福竹養造 (地質)	1	46日 10/10~11/24	東京—ソウル 68,800円	94,910円	乙	3,800	46	174,800		11,400	45	513,000	3,900円	855,410		
6	市川須磨大 (電気)	1	28日 11/20~12/17	東京—ソウル 68,800円	78,160円	乙	3,800	28	106,400	乙	11,400	27	307,800	5,000円	566,160		
7	岩崎泰夫 (土木)	2	69日 10/10~12/17	東京—ソウル 68,800円	85,090円	乙	3,800	52	197,600		11,400	52	592,800	5,000円	1,171,590		
						乙	3,800	X17	X0.9		11,400	X16	X0.9				
						乙			58,140				164,160				
									255,740				756,960				
8	宮本昇 (地質)	2	69日 10/10~12/17	東京—ソウル 68,800円	85,090円	乙	3,800	59	224,200		11,400	59	672,600	6,000円	1,183,230		
						乙	3,800	X10	X0.9		11,400	X9	X0.9				
						乙			34,200				92,340				
									258,400				764,940				
9	長畑貞之 (業務調整)	5	19日 10/10~10/28	東京—ソウル 68,800円	0円	乙	3,200	19	60,800		9,800	18	176,400	527円	306,527		
小計(1~9)				619,200円	732,682円				1,892,060円				5,598,670円	38,227円	8,880,839円		

(現地報告書説明分)

No	氏名 (担当)	名付 (号)	派遣期間 (日数)	①航空賃	②支戻料	③日当			④宿泊料			⑤旅行雑費	合計 (①~⑤)(円)		
						地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)			日数	計(円)
1	脇治雄 (総括)	特	6日 3/27~3/31	東京—ソウル 66,200円	0円	乙	4,300	5	21,500円	乙	13,100	4	52,400	0円	140,100
2	水村博臣 (土木)	/	5日 3/27~3/31	東京—ソウル 66,200円	0円	乙	3,800	5	19,000円	乙	11,400	4	45,600	0円	130,800
小計(1~2)				132,400円	0円	40,500円			98,000円			0円	270,900円		
合計				757,600円	732,682円	1,932,560円			5,696,670円			38,227円	9,151,739円		

II 現地調査費 1,381,020円 (1,898,903円×8/11)
(残3/11は外務省交付金)

費目	円貨額 (円)	現地通貨
		ウォン
備入費	842,965	1,590,500
車輛等借上費	54,688	103,185
交通費	0	-
通信運搬費	101,149	190,849
資機材等購入費	795,533	1,501,007
現地報告書作成費	0	0
会議費	37,100	70,000
雑費	0	0
交換手数料及差損	67,468	0
計	1,898,903	3,455,541

63,426,193円

III 技術費

(1) 直接人件費

① 現地調査

区分 格付	単価(人・日) (円)	日数(日)	人	金額(円)
特(号)	40,000	23日/30日 × 69	1	2,116,000
1	26,800	23日/30日 × 69	3	4,253,160
1	26,800	23日/30日 × 46	1	945,146
1	26,800	23日/30日 × 28	1	575,306
2	25,000	23日/30日 × 69	2	2,645,000
計				10,534,612

(196)

② 国内設計作業

区分 格付	単価(人・日) (円)	日数(日)	金額(円)
特(号)	40,000	23日 × 24	2,208,000
1号	26,800	23日 × 99	6,102,360
2号	25,000	23日 × 49	2,472,500
計			10,782,860

③ 現地報告書説明

区分 格付	単価(人・日) (円)	日数(日)	人	金額(円)
特(号)	40,000	23日/30日 × 5	1	153,333
1	26,800	23日/30日 × 5	1	102,733
計				256,066

(1) の計 (②+③) 21,573,538円

(2) 諸経費 21,573,538円 × 110% = 23,730,890円

(3) 技術経費 (21,573,538円 + 23,730,890円) × 40% = 18,121,765円

合計 (1) × (3) 63,426,193円

IV 報告書作成費

1,643,636円

費目	金額(円)
印刷製本費	2,260,000

委託費分 2,260,000円 × 8/11
= 1,643,636円

V 付帯費

174,722円

費目	金額(円)
会議費	174,722

No. 52-44

計画申請	昭和52年7月5日 国協(独計) 第7-635号
計画承認	昭和52年7月20日 52通米1121号
担当	資源調査課 氏名 末森 尚

プロジェクト名 パプアニューギニア プラリ河電力開発計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
継続	大規模開発協力基礎調査国派経費	実施調査 国内設計作業 報告書印刷	今回で完了

現地調査期間 自 昭和 52 年 4 月 1 日
至 昭和 52 年 10 月 16 日
報告書説明期間 自 昭和 52 年 9 月 26 日
至 昭和 52 年 10 月 16 日
調査業務完了日 昭和 53 年 3 月 31 日

総支出経費 51,564,927

(1) 調査目的 本件調査は、パプアニューギニア フボ地点を中心として、水力発電調査、港湾調査、取付道路調査、環境調査、工業立地調査等の Feasibility 調査を日本、オーストラリア、パプアニューギニア三国で共同作業を分担して実施しているものである。

日本政府は昭和50年1月から昭和52、53年度と継続して本件調査を実施し、52年度も引き続き現地調査の1部及び三国政府間会議（IGC）合同技術者会議（JTB会議）を開催し、報告書の作成を主とする調査を実施するものである。

(2) 調査内容 今年度実施した調査内容は以下のとおりである。

① 取付道路調査国内設計、② 水力発電、港湾調査の全体計画の検討、③ 合同技術者会議にてドラフトレポートの検討、④ 三国政府間会議にてドラフトレポートの検討、⑤ 和文、英文報告書作成

(3) 調査結果 プラリ河の豊富な河本を利用してフボ地点で行う180万kWの水力発電開発計画は、この電力を利用してガルフ沿岸で行うアルミニウム精錬を中核とする電力多消費型産業計画に対し、経済的に極めて魅力的な電力エネルギーを供給し得ることを確認した。

本プロジェクトは、水力発電計画のみで、1976年7月時点の価格水準で約10億米ドル、港湾その他のインフラストラクチャーに要する費用も同価格水準で立地地点による相異も若干あるが、7〜9億米ドル、更に工場施設に要する費用も含めれば、総額50億米ドルに近い。

(4) コンサルタント名 日本工営(株)

2. 調査日程

日順	月日	行程	宿泊地	甲乙別		調査内容
				日別	宿泊	
1	4/1	ポートエレスビー	ポートエレスビー	甲	甲	
5	5	"	"	"	"	報告書修正業務及び事務所閉鎖に伴う整理作業
19	19	"	"	"	"	
20	20	"	小田(加田) 船橋	甲	甲	事務所閉鎖に伴う整理作業
21	21	"	シドニー	"	"	打合せ
22	22	"	シドニー	機中	乙	"
23	23	"	→東京	"	"	"
24	24	"	ポートエレスビー	甲	甲	"
27	27	"	"	"	"	"
28	28	ポートエレスビー → 大阪	"	乙	"	"
29	29	大阪 → 東京	"	"	"	"
		(JTB、IGC会談)				
1-2	26-27	(JTBメンバー) 東京～シドニー～キアランクマ	クマ	乙	甲	移動
3-6	28-10/1	クマ	"	甲	甲	SMEC との打合せ
7	10/2	クマ～シドニー～ポートエレスビー	ポートエレスビー	甲	甲	移動
8-12	3-7	ポートエレスビー (IGCメンバー) 東京～シドニー～ポートエレスビー	ポートエレスビー	甲	甲	JTB会談 (IGCメンバー) 移動
13-14	8、9	ポートエレスビー	ポートエレスビー	甲	甲	IGC、JTBメンバー間の打合せ
15-17	10-12	"	"	甲	甲	IGC会談
18	13	ポートエレスビー 小田田原カマ	"	甲	甲	ワボダムサイト視察
19	14	ポートエレスビー (IGCメンバー) 小田田原カマ	ポートエレスビー	甲	甲	(和同) 資料整理 (IGCメンバー) 移動
20	15	ポートエレスビー シドニー	機中	乙	甲	移動
21	16	シドニー → 東京	"	乙	"	"

(198)

3. 調査業務収支決算総括表

(I) 収支決算総括表

(A) 支出

(単位：円)

区分	計画額	流用額	流用残額	実績額
I 調査旅費	6,348,155	0	6,348,155	5,067,747
II 現地調査費	13,142,631	△ 367,751	12,774,880	9,174,676
III 技術費	29,380,436	0	29,380,436	29,336,256
IV 報告書作成費	6,700,000	367,751	7,067,751	7,067,751
V 附帯費	1,323,860	0	1,323,860	916,238
合計	56,894,082	0	56,894,082	51,564,727

(B) 収支決算

費用	金額 (円)
概算受入額	56,894,082
支出総額	51,564,727
収支差引額	5,329,155

(ハ) (I) の内訳

(単位：円)

区分	計画額	流用額(流用比率)		実績額	
		事業団直管分	コンサルタント分	事業団直管分	コンサルタント分
I 調査旅費	3,182,920	3,165,235	201,503	3,056,747	
II 現地調査費	1,098,389	11,676,491	571,845	8,602,851	
III 技術費	0	29,380,436	0	29,336,256	
IV 報告書作成費	0	7,067,751	0	7,067,751	
V 附帯費	1,323,860	0	916,238	0	
合計	5,604,169	51,289,913	3,501,122	48,063,805	

コンサルタント名 日本工管(株)

4. 収支決算費目内訳

I. 調査旅費

5,069,986円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日当			④ 宿泊料			⑤ 旅行雑費	合計 (①~⑤)円		
						地域	単価(円)	日数	計(円)	地域	単価(円)			日数	計(円)
1	和田勝義 (協 括)	2	23日 4/1 ~ 4/23	東京-ホト Elvis- 261,844円	79,070円	甲	4,200 × 0.95	21	88,200	甲	12,700 × 0.95	21	253,365	0円	676,289
						乙	3,800 × 0.95	2	7,220						
							計	91,010	計		253,365				
2	(")	2	21日 7/26 ~ 10/16	東京-ホト Elvis- 565,900円	0円	甲	4,200	18	75,600	甲	12,700	18	228,600	9,200円	890,700
						乙	3,800	3	11,400						
							計	87,000	計		228,600				
3	明渡正 (庶 務)	4	29日 4/1 ~ 4/29	東京-ホト Elvis- 184,208円	61,990円	甲	3,500 × 0.95	27	89,775	甲	10,900 × 0.95	27	279,585	0円	618,578
						乙	3,200 × 0.95	1	3,040						
							計	72,815	計		279,585				
4	山口正史 (JTB委員)	1	18日 7/26 ~ 10/13	東京-ホト Elvis- 506,000円	78,160円	甲	4,200	16	67,200	甲	12,700	16	203,200	9,200円	871,360
						乙	3,800	2	7,600						
							計	74,800	計		203,200				
5	中弟 昭雄 (IGC 会議)	2	9日 10/8 ~ 10/16	東京-ホト Elvis- 519,000円	35,035円	甲	4,200	7	29,400	甲	12,700	6	76,200	3,068円	670,303
						乙	3,800	2	7,600						
							計	37,000	計		76,200				
6	梶野 英一 (IGC 会議)	1	12日 10/5 ~ 10/16	東京-ホト Elvis- 519,000円	0円	甲	4,200	10	42,000	甲	12,700	9	114,300	668円	683,568
						乙	3,800	2	7,600						
							計	49,600	計		114,300				
7	山本正弘 (IGC 会議)	3	12日 10/5 ~ 10/16	東京-ホト Elvis- 519,000円	0円	甲	3,500	10	35,000	甲	10,900	9	98,100	668円	659,168
						乙	3,200	2	4,400						
							計	41,400	計		98,100				
合 計				3,074,952円	245,255円	473,625円			1,253,350円			22,804円	5,069,986円		

(注) 大阪で一泊の為、日当宿泊を一回加す

II 現地調査費

2,174,696円

区別	項目	円貨額 (円)	現地通貨				
			US\$	kina	US\$	AB	kina
外 債 分	雇人費	781,284	0	2273.26	0	0	0
	車船等借上費	582,283	0	963.41	830.00	5.00	70.00
	通信運搬費	455,754	94.50	1225.82	0	0	0
	交際玩等購入費	28,171	0	38.20	0	0	46.20
	現地報告書作成費	4478,348	0	20,463.25	0	0	0
	会議費	271,638	0	0	146.00	221.30	478.00
	潮流等一夕解析費	353,699	1106.49	61.50	0	0	0
	交換手数料及差損	27,178					
	計	8,978,355	1200.99	24,964.15	976.00	226.30	612.00
出 費 分	資機材運送料	149,405					
	資機材損料	26,936					
	医薬品	20,000					
	計	196,341					
合 計	9,174,696						

III 技術費

29,336,256円

(1) 直接人件費

① 現地調査

区別 格付	単価(人・日) (円)	日数 (日)	人数	金額 (円)	区別 格付	単価(人・日) (円)	日数 (日)	人数	金額 (円)
2	25,000	23日/30日 x 44	1	843,333	計				1,595,586

(200)

② 国内設計作業

区別 格付	単価(人・日) (円)	人・日 (人・日)	金額 (円)
2号	25,000	23日 x 140/30	2,683,333
3号	21,600	23日 x 2.5	1,738,800
4号	17,200	23日 x 3.0	1,186,800
5号	13,700	23日 x 6.0	1,890,600
6号	9,600	23日 x 4.0	883,200
計			8,382,733

(1)の計 (A) + (B)

9,978,319

(2) 諸送費

9,978,319円 x 110% =

10,976,150

(3) 技術経費

(9,978,319円 + 10,976,150円) x 40% =

8,381,787

合計 (1) ~ (3)

29,336,256円

IV 報告書作成費

2,067,751円

費目	金額 (円)
報告書原稿作成費	998,703
印刷製本費	6,069,048
合計	2,067,751

V 附帯費

916,238円

費目	金額 (円)
会議費	232,130
雇人費	131,048
国内旅費	49,600
その他	503,460
合計	916,238

No 52-45

計画申請	昭和52年11月21日国協(協計)第11-1001号
計画承認	昭和52年12月12日 52通第1844号
担当	資源調査課 氏名 竹本 節庄

プロジェクト名 インドネシア共和国オンピリン石炭開発計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	大規模開発協力基礎調査団旅費	実施調査(第1次)	継続 翌年度以降

現地調査期間 自 昭和53年1月10日
至 昭和53年3月31日

調査業務完了日 昭和53年3月31日

総支出経費 33,660,265円

1. 調査目的、内容及び結果

(1) 調査目的 インドネシア共和国政府は、国産原油の長期使用の為に、代替エネルギーの一つ石炭の増産を必要として、そのためにはスマトラ島にあるオンピリン炭鉱の再開発を計画し、そのフィージビリティ・スタディを求めてきた。

日本国政府は、52年7月に事前調査団を派遣し、インドネシア鉱山省と実施内容の協議を行い、合意議事録に調印した。これに基づき、マダオンピリン炭鉱内ワリギン地区の炭量確認の試錐を行うことになった。

(2) 調査内容 ① ボーリング機械受入準備体制の現地側対応度の調査 ② 現地調査を約束した資機材、宿舎、設備等の準備状況調査 ③ 今後の長期スケジュールの協議 ④ 試錐地点の確定 ⑤ 第一本目の試錐開始準備(機械の組立、試運転) ⑥ 第一本目の試錐着手

(3) 調査結果(調査内容の番号に即して記す)：

①：1月23日にパダン港に輸送船は荷揚げを開始し、同時に陸送トラックに積み、直ちに運送を開始した。これは、前例のない迅速な措置であり、インドネシア側の準備状況の良さを物語るものである。

②：ほぼ完全に履行。宿舎の内容も、当地域の状況を考えれば最高に近い。

③：試錐作業に従事するカンターパートと協議を実施、インドネシア地質調査所(バンドンにある)から、研修を兼ねて、試錐技師が参加(4名、2ヶ月毎に交代)

④：事前調査団が現地で、取り決めた一本目の試錐地点と、現実に、作業準備に足りかまっていた地点と異っていたので、協議の結果、アクセス道路の完備している第三本目地点から開始。

⑤、⑥：2月7日～3月14日第一本目実施。試錐状況によれば、A層に2.5m B層に1.40mの良質石炭層が確認できたが、C層は緻密な岩質層の為期待はされなかった。

(4) コンサルタント名 住友石炭鉱業(株)

2. 調査日程

日順	日付	行程	宿舎地	調査地		調査内容
				日	時	
1	1月10日	光谷立野団員	東京→ジャカルタ	ジャカルタ	乙	移動
2	1.11	"	ジャカルタ	"	"	表取・打合せ：鉱山関係者
3	1.12	"	"	"	"	打合せ：鉱山省、石炭公社、地質調査所
4	1.13	"	"	"	"	"：大使館、JICA、ジャカルタ事務所
5	1.14	"	ジャカルタ→パダン	オンピリン	"	移動
6	1.15	"	オンピリン	"	"	打合せ：オンピリン炭鉱関係者
7	1.16	"	"	"	"	"
8	1.17	"	オンピリン→パダン	パダン	"	パダン港通関業者と打合せ
9	1.18	"	パダン	"	"	(源振船マルク丸入港22日未だ沖待ち)
10	1.19	"	パダン	"	"	通関業者と打合せ
11	1.20	河合団員本隊	東京→ジャカルタ	ジャカルタ	"	"
12	1.21	"	ジャカルタ	"	"	表取：大使館 鉱山省
13	1.22	"	ジャカルタ→パダン	パダン	"	移動
14	1.23	"	パダン→オンピリン	オンピリン	"	移動：マルク丸接岸、荷揚18:30
15	1.24	立野団員本隊と合流	オンピリン	"	"	表取：鉱業所スタッフ
16	1.25	全員	"	"	"	現地調査 ボーリング予定地
17	1.25	"	"	"	"	ボーリング視察点
18	1.25	"	"	"	"	"
19	2.2	"	"	"	"	"
20	2.3	河合、八木、立野	オンピリン→ジャカルタ	ジャカルタ	"	移動→2月8日：ジャカルタ→東京
21	2.4	試掘グループ5名	オンピリン	オンピリン	"	試掘機組立試掘準備
22	2.7	"	"	"	"	試掘開始
23	2.7	"	"	"	"	"
24	3.14	"	"	"	"	試掘終了(499.20M)
25	3.15	"	"	"	"	オ2本目試掘準備
26	3.31	"	"	"	"	"

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(イ) 支出

(単位：円)

区分	計画額	実績額
I 調査旅費	7,636,593	7,008,400
II 現地調査費	11,207,684	9,838,464
III 技術費	16,700,331	16,700,331
IV 報告書作成費	0	0
V 附帯費	338,000	113,070
合計	35,882,608	33,660,265

(ロ) 収支決算

費用	金額 (円)
概算受入額	35,882,608
支出総額	33,660,265
収支差引額	2,222,343

(ハ) (イ)の内訳

(単位：円)

区分	計画額(変更、流用あり場合は2カ所)		実績額	
	事業団直営分	コンサルタント委託分	事業団直営分	コンサルタント委託分
I 調査旅費	0	7,636,593	0	7,008,400
II 現地調査費	0	11,207,684	0	9,838,464
III 技術費	0	16,700,331	0	16,700,331
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	338,000	0	113,070	0
合計	338,000	35,344,608	113,070	33,547,195

コンサルタント名 住友石炭鉱業(株)

4. 収支決算費目内訳

I 調査旅費

2,008,400円

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日 当			④ 宿 泊 料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)		
						地域	単価 (円)	日数	計 (円)	地域	単価 (円)			日数	計 (円)
1	河合 栄一 (総括)	1	20日 1/20 ~ 2/8	東京-ジャカルタ -バダシ 315,200円	39,080円	Z	3,800	20	76,000	Z	11,400	18	205,200	1,000円	636,480
2	八木 庄三 (地質)	2	20日 1/20 ~ 2/8	東京-ジャカルタ -バダシ 315,200円	35,035円	Z	3,800	20	76,000	Z	11,400	18	205,200	1,500円	632,935
3	伊藤 公彦 (地質)	2	21日 1/20 ~ 3/31	東京-ジャカルタ -バダシ 157,600円	100,100円	Z			* (次ページ参照) 253,080	Z			* (次ページ参照) 614,232	3,900円	1,128,912
4	正野 博昭 (操縦)	2	30日 1/10 ~ 2/8	東京-ジャカルタ -バダシ 315,200円	50,055円	Z	3,800	30	114,000	Z	11,400	28	319,200	1,000円	799,455
5	永崎 武行 (試験)	4	21日 1/20 ~ 3/31	東京-ジャカルタ -バダシ 157,600円	88,550円	Z			* (次ページ参照) 213,120	Z			* (次ページ参照) 528,024	3,900円	991,194
6	佐藤 正司 (試験)	5	21日 1/20 ~ 3/31	東京-ジャカルタ -バダシ 157,600円	77,000円	Z			* (次ページ参照) 213,120	Z			* (次ページ参照) 528,024	3,900円	977,644
7	吉田 永雄 (試験)	5	21日 1/20 ~ 3/31	東京-ジャカルタ -バダシ 157,600円	77,000円	Z			* (次ページ参照) 213,120	Z			* (次ページ参照) 528,024	3,900円	977,644
8	田中 弘史 (試験)	6	21日 1/20 ~ 3/31	東京-ジャカルタ -バダシ 157,600円	77,000円	Z			* (次ページ参照) 179,820	Z			* (次ページ参照) 441,816	3,900円	860,136
合 計				1,733,600円	542,820円				1,338,260円				3,369,720円	23,000円	7,008,400円

※ (滞在賃内訳)

	日 当		宿 料	
	契 約	実 績	契 約	実 績
伊藤公彦 (2級)	$3,800 \times 33 = 125,400$	$3,800 \times 34 = 129,200$	$11,400 \times 2 = 22,800$	$11,400 \times 3 = 34,200$
	$3,800 \times 30 \times 0.9 = 102,600$	$3,800 \times 30 \times 0.9 = 102,600$	$11,400 \times 31 \times 0.8 = 282,720$	$11,400 \times 31 \times 0.8 = 282,720$
	$3,800 \times 8 \times 0.8 = 24,320$	$3,800 \times 7 \times 0.8 = 21,280$	$11,400 \times 30 \times 0.9 \times 0.8 = 246,240$	$11,400 \times 30 \times 0.9 \times 0.8 = 246,240$
	計 252,320	計 253,080	$11,400 \times 8 \times 0.8 \times 0.8 = 58,368$	$11,400 \times 7 \times 0.8 \times 0.8 = 51,072$
		計 610,128	計 614,232	
永新武行 (4級) 坂井正司 (5級) 吉田永雄 (5級)	$3,200 \times 33 = 105,600$	$3,200 \times 34 = 108,800$	$7,800 \times 2 = 15,600$	$7,800 \times 3 = 23,400$
	$3,200 \times 30 \times 0.9 = 86,400$	$3,200 \times 30 \times 0.9 = 86,400$	$7,800 \times 31 \times 0.8 = 243,040$	$7,800 \times 31 \times 0.8 = 243,040$
	$3,200 \times 8 \times 0.8 = 20,480$	$3,200 \times 7 \times 0.8 = 17,920$	$7,800 \times 30 \times 0.9 \times 0.8 = 211,680$	$7,800 \times 30 \times 0.9 \times 0.8 = 211,680$
	計 212,480	計 213,120	$7,800 \times 8 \times 0.8 \times 0.8 = 50,176$	$7,800 \times 7 \times 0.8 \times 0.8 = 43,704$
		計 524,496	計 528,024	
田中弘史 (6級)	$2,700 \times 33 = 89,100$	$2,700 \times 34 = 91,800$	$8,200 \times 2 = 16,400$	$8,200 \times 3 = 24,600$
	$2,700 \times 30 \times 0.9 = 72,900$	$2,700 \times 30 \times 0.9 = 72,900$	$8,200 \times 31 \times 0.8 = 203,360$	$8,200 \times 31 \times 0.8 = 203,360$
	$2,700 \times 8 \times 0.8 = 17,280$	$2,700 \times 7 \times 0.8 = 15,120$	$8,200 \times 30 \times 0.9 \times 0.8 = 177,120$	$8,200 \times 30 \times 0.9 \times 0.8 = 177,120$
	計 179,280	計 179,820	$8,200 \times 8 \times 0.8 \times 0.8 = 41,984$	$8,200 \times 7 \times 0.8 \times 0.8 = 36,736$
		計 438,864	計 441,816	

(注) 滞在地対比

日 付	契 約	実 績
1. 20	ジャカルタ	ジャカルタ
21	バダ	バダ
22	オンピリン	オンピリン
23		
3. 31		

(20%)

II. 現地調査費 9,838,464円

費 目		用 費 額 (円)
円 貨 分	資 材 損 耗	9,838,464

(1) の 計 5,680,385

(2) 諸経費 $5,680,385 \text{円} \times 110\% =$ 6,248,423

(3) 技術経費 $(5,680,385 \text{円} + 6,248,423 \text{円}) \times 40\% =$ 4,771,523

合 計 (1~3) 16,700,331円

III. 技術費 16,700,331円

(1) 直接人件費

現地調査

区分 格付	単価(人・日) (円)	日 数 (日)	人	金 額 (円)
1 (号)	26,800	23日 /30日×20	1	410,933
2	25,000	23日 /30日×20	1	383,333
2	25,000	23日 /30日×30	1	575,000
2	25,000	23日 /30日×71	1	1,360,833
4	17,200	23日 /30日×71	1	936,253
5	13,700	23日 /30日×71	1	745,737
5	15,700	23日 /30日×71	1	745,736
6	9,600	23日 /30日×71	1	522,560
計				5,680,385

IV. 附帯費

113,070円

費 目	金 額 (円)
会議費	48,890
国内旅費	64,180
合 計	113,070

No. 52-46

プロジェクト名 ノパール王国クリカニ第二発電所建設計画及び
カトマンズ地区送配電網整備計画調査

事業段階	区分経費	事業内容	今後の予定
新規	大規模開発協力基礎調査田派遣費	実施調査(第1次) 国内設計作業	継続 翌年度以降

計画申請	昭和52年11月11日国協(秘計)第11-585号
計画承認	昭和52年11月15日 52通 第1811号
計画変更承認	昭和53年3月24日 53通 第374号
担当	資源調査課 氏名 末森 満

現地調査期間 自 昭和 52 年 11 月 18 日

至 昭和 53 年 3 月 24 日

調査業務完了日 昭和 53 年 3 月 31 日

総支出経費

90,074,353

(1) 調査目的 クリカニ第二発電所建設計画は同国の急増する電力需要の伸びに対処するもので、クリカニ第二発電所(1980年完成予定)よりの調整された放水ヒラプティ川の自然流水とを合せて取水し約6kmの自由流下式導水トンネルで送り有効落差278mにて35MWを発電しようとする計画である。カトマンズ地区送配電網整備計画は同地区の配電網能力(現在4万~5万kW)は小さく、クリカニ第二発電所完成後供給される60MWを皮巻しても容量不足となり、また系統損失が30%程度もあるなどの現状に対処すること、及び送電線と変電所の新設ないし増設により将来の10万~20万kW位までの負荷を見込んだ送配電網計画を策定しようとするものである。

(2) 調査内容 現地調査及び国内設計作業は次のとおりである。
プロジェクトサイトの踏査及び主要構造物レイアウトの検討、水文調査及び解析地形測量及び航空写真撮影と地形図作成(1/1,000)、地質調査及び解析

物理探査及びデータ解析、ボーリング調査(鉄錐延長450m)、工事用資材価格調査、電力需要調査及び予測、送配電網の実状調査、その他資料収集及び解析

(3) 調査結果 (a) クリカニ第二関係

a-1 現地踏査結果に基づき当初レイアウトの再検討を行い、このレイアウトは、地質調査、物理探査、ボーリング調査の結果地質的には問題ないことがわかった。

a-2 地形測量及び航空写真測量に基づき地形図を作成した。

(b) カトマンズ地区送配電網関係

b-1 収集資料及び踏査結果に基づき、開発計画の基本的事項につき検討解析を行った。

(4) コンサルタント名 日本工営(株)

2 調査日程

系 号	団 員 名		派遣期間(日)		S2.11	12	S3.1	2	3	備 考	
	氏 名	係 員	計 画	実 績							
1	淵本正弘	特	総括(土木)	40	40	18 → 27					
2	"	"	"	19	19				2 → 20		
3	佐々木 久	1	地質調査	30	30	25 → 24					
4	"	"	"	15	15				6 → 20		
5	新井田 栄一郎	3	土木	107	127	18 → 13	11		24	12/3~1/1(20日間)はパソコンが滞在中のため経費は一切認めず	
6	定村 克文	5	水文調査	60	60			2 → 30			
7	神田 正敏	1	電気	74	74	18 → 30					
8	沢谷 勝二	3	測量	60	60			16 → 13			
9	井上 哲	4	"	60	60			16 → 13			
10	木畑 秀男	5	ボーリング	89	113			2 → 21	14	24	12/21~1/4(14日間)はボーリング機材運送のため調査待機のため日当、常泊費のみ認め、5日間については平均運送費のみ認めず
11	鈴木 猛	5	物理探査	60	65			2 → 4			
12	麻沢 宏	5	"	44	44			23 → 4			
13	林 和幸	6	"	44	44			23 → 4			
14	早崎 秀美	2	航空測量	14	14				6 → 12		
15	岡山 正一	3	政策	15	15			2 → 15			
16	木村 満	6	業務調整	19	19			15 → 6			

3. 調査業務収支決算総括表

(1) 収支決算総括表

(A) 支出

(単位：円)

区 分	計 画 額	改 更 額	改 更 後 額	実 績 額
I 調査旅費	16,199,385	248,966	16,448,351	16,360,961
II 現地調査費	19,672,177	1,620,606	21,292,783	20,756,351
III 技術費	53,589,335	△ 1,062,084	52,527,251	52,526,861
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	772,400	△ 73,103	699,297	430,180
合 計	90,233,297	734,385	90,967,682	90,074,353

(B) 収支決算

費 用	金 額 (円)
概算受入額	90,233,297
計画変更承認額	90,967,682
支出総額	90,074,353
収支差引額	893,329

(A) (1)の内訳

(単位：円)

区 分	計 画 額 (変更ある場合はその額)		実 績 額	
	事業団直管分	コンサルト委託分	事業団直管分	コンサルト委託分
I 調査旅費	1,199,196	15,249,155	1,199,196	15,161,765
II 現地調査費	78,571	21,214,212	78,571	20,677,780
III 技術費	385	52,526,866	0	52,526,861
IV 報告書作成費	0	0	0	0
V 附帯費	699,297	0	430,180	0
合 計	1,977,449	88,990,233	1,707,947	88,366,406

コンサルト名 日本工電(株)

(208)

4. 収支決算費目内訳

1. 調査旅費

¥ 6360,961円

No.	氏名 (担当)	着付 (写)	派遣期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日 当			④ 宿 泊 料			⑤ 旅行雑費	合 計 (①~⑤) (円)		
						地域	単価 (円)	日数	計 (円)	地域	単価 (円)			日数	計 (円)
1	淵本正宏 (総括)	特	40日 11/18 ~ 12/27	東京-カトマンズ 334,800円	104,720円	Z	4,300	40	172,000	Z	13,100	39	510,900	5,400	1,127,820
2	" (")	特	19日 3/2 ~ 3/20	東京-カトマンズ 329,900円	0円	Z	4,300	19	81,700	Z	13,100	18	235,800	0	647,400
3	佐々木久 (地質)	1	30日 11/25 ~ 12/24	東京-カトマンズ 334,800円	94,910円	Z	3,800	30	114,000	Z	11,400	29	330,600	5,400	879,710
4	" (")	1	15日 3/6 ~ 3/20	東京-カトマンズ 329,900円	0円	Z	3,800	15	57,000	Z	11,400	14	152,600	0	546,500
5	新井田 兼一郎 (土木)	3	107 (127) 11/18 ~ 3/24	東京-カトマンズ 334,800円	94,330円	Z	3,200	65	208,000	Z	9,800	64	627,200		
						Z	3,200	42x0.9	120,960	Z	9,800	42x0.9	379,440		
						計			328,960				797,640	5,400	1,761,130
6	定村寛文 (水文)	5	60日 12/2 ~ 1/30	東京-カトマンズ 343,100円	65,450円	Z	3,200	47	150,400	Z	9,800	46	450,800		
						Z	3,200	13x0.9	37,440	Z	9,800	13x0.9	114,660		
						計			187,840				565,460	5,400	1,167,250
7	神田正敏 (電気)	1	74日 11/18 ~ 1/30	東京-カトマンズ 343,100円	94,910円	Z	3,200	37	140,600	Z	11,400	36	410,400		
						Z	3,200	30x0.9	102,600	Z	11,400	30x0.9	307,800		
						Z	3,800	7x0.8	21,280	Z	11,400	7x0.8	63,840		
						計			264,480				782,040	5,400	1,489,930
8	紙谷修二 (測量)	3	60日 12/16 ~ 2/13	東京-カトマンズ 329,900円	80,180円	Z	3,200	39	124,800	Z	9,800	38	372,400		
						Z	3,200	21x0.9	60,480	Z	9,800	21x0.9	185,220		
						計			185,280				557,620	5,400	1,158,380

No.	氏名 (担当)	格付 (号)	派遣期間 (日数)	① 航空賃	② 支度料	③ 日 当			④ 宿泊料			⑤ 旅行費	合 計 (①~⑤) (円)		
						地域	単価 (円)	日数	計 (円)	地域	単価 (円)			日数	計 (円)
9	井上 哲 (期 置)	4	60日 12/16~2/13	東京-カトマンズ 329,900円	75,270円	地域	単価 (円)	日数	計 (円)	地域	単価 (円)	日数	計 (円)	5,400円	1,152,170円
						Z	3,200	38	121,600	Z	9,800	37	362,600		
						Z	3,200	22x0.9	63,360	Z	9,800	22x0.9	194,040		
								計	184,960			計	556,640		
10	木畑 秀男 (ボ-リング)	5	113日 1/2~3/24	東京-カトマンズ 334,800円	65,450円	Z	3,200	39	124,800	Z	9,800	38	372,400		
						Z	3,200	30x0.9	86,400	Z	9,800	30x0.9	264,600		
						Z	3,200	44x0.8	112,640	Z	9,800	44x0.8	344,960		
								計	323,840			計	981,960	5,400円	1,711,450円
11	鈴木 猛 (物理探査)	5	60日 12/2~2/4 (5日分のみの出張)	東京-カトマンズ 334,800円	65,450円	Z	3,200	40	128,000	Z	9,800	39	382,200		
						Z	3,200	20x0.9	57,600	Z	9,800	20x0.9	176,400		
								計	185,600			計	558,600	5,400円	1,149,850円
12	原沢 宏 (")	5	44日 12/23~2/4	東京-カトマンズ 322,000円	65,450円	Z	3,200	40	128,000	Z	9,800	39	382,200		
						Z	3,200	2x0.9	11,520	Z	9,800	2x0.9	35,280		
								計	139,520			計	417,480	5,400円	949,850円
13	林 和幸 (")	6	44日 12/23~2/4	東京-カトマンズ 322,000円	65,450円	Z	2,700	40	108,000	Z	8,200	39	319,800		
						Z	2,700	4x0.9	9,720	Z	8,200	4x0.9	29,520		
								計	117,720			計	349,320	5,400円	859,890円
14	早崎 秀美 (航空測量)	2	14日 1/6~1/19	東京-カトマンズ 321,800円	35,035円	Z	3,800	14	53,200	Z	11,400	13	148,200		
								計	53,200			計	148,200	2,200円	560,355円
15	岡山 正一 (政 策)	3	15日 12/2~12/16	東京-カトマンズ (マニラ経由) 343,100円	66,030円	Z	3,200	15	48,000	Z	9,800	14	137,200		
								計	48,000			計	137,200	11,809円	606,139円
16	末麻 満 (業務調整)	6	19日 11/18~12/6	東京-カトマンズ 334,800円	53,900円	Z	2,700	19	51,300	Z	8,200	18	147,600		
								計	51,300			計	147,600	5,457円	593,057円
合 計				5323,500円	1026,535円				2,495,400円				7,436,660円	78,866円	16,360,961円

II 現地調査費

20756,351円

費目	円貨額 (円)	米ドル			
		コンサル分	現地分	米森分	岡山分
外貨					
備人費	738,029		37,387.50	0	0
車柄昇船上費	5,560,698		281,677		0
交通費	67,313		3,410		0
通信運搬費	1,673,361	3,951.12	36,221.01		0
資材採掘購入費	238,359		12,054.80	20	
会議費	59,228		0	1,094.80	1,861.20
交換手数料反互換	233,471				
計	8,569,459	3,951.12	370,770.35	1,114.80	1,861.20
円貨					
資材採掘送料	4,371,270				
資材採掘料	7,797,662				
事務用品	6,000				
医薬品	11,960				
計	12,186,892				
合計	20,756,351				

III 技術費

52,526,861円

(1) 直接人件費

(A) 現地調査

区分	単価(人・日)	日数(日)	人	金額(円)	区分	単価(人・日)	日数(日)	人	金額(円)
	40,000	23日/30日 × 59	1	1,809,333	4(号)	17,200	25日/30日 × 60	1	791,200
3	21,600	23日/30日 × 107	1	1,771,920	2	25,000	23日/30日 × 14	1	268,333
5	13,700	23日/30日 × 60	1	630,200	5	13,700	23日/30日 × 60	1	1,670,030
1	26,800	23日/30日 × 45	1	924,600	5	13,700	23日/30日 × 44	1	462,146
1	26,800	23日/30日 × 74	1	1,520,453	6	9,600	23日/30日 × 44	1	323,840
3	21,600	23日/30日 × 60	1	993,600	計				11,165,655

(211)

(B) 国内設計作業

区分	単価(人・日)	人・日(人・日)	金額(円)
1号	26,800	23日 × 3.0	1,849,200
2号	25,000	23日 × 2.0	1,150,000
5号	13,700	23日 × 4.0	1,260,400
計			4,259,600

(2)の計 (A) + (B)

15,425,255

(2) 諸経費

15,425,255円 × 110%

16,967,779

(3) 技術経費

(15,425,255円 + 16,967,779円) × 40%

12,957,210

(4) 地形図作成費

6,416,617

(5) 電算機使用料

760,000

合計 (1)~(5)

52,526,861

IV 附帯費

430,180円

費目	金額(円)
交通費	3,500
会議費	23,580
その他	403,100
合計	430,180

